

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部等連係課程実施基本組織の設置（学部の設置）								
フリガナ設置者	ガッコウメイゼイ メイセイケン 学校法人 明星学苑								
フリガナ大学の名称	メイセイダク 明星大学 (Meisei University)								
大学本部の位置	東京都日野市程久保2丁目1番地1								
大学の目的	明星大学は、設置者である学校法人明星学苑の建学の精神である「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」に基づき、広い教養と深い専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、自己実現を目指し、社会に貢献する人を育成することを目的とする。この目的を実現するための教育研究の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。								
新設学部等の目的	本学は、ワンキャンパスに9学部12学科を有する総合大学であり、その強みと特色を最大限に活かし、既存の情報学部、理工学部、経済学部との緊密な連係・協力の下、学部の枠を越えた学部等連係課程実施基本組織としてデータサイエンス学環を設置する。データサイエンス学環は、幅広い教養と数理科学・統計学・情報学を基盤とするデータサイエンスの専門知識と実践技術の修得に加え、実社会における活用方法を修得することにより、社会の多様な諸問題に対して、課題発見から課題解決に至る過程のデータを活用し、デジタル社会の基盤を支えるデータに精通し、大量のデータを正しく扱い、新たな価値を創りだせる人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	大学設置基準第42条の3の2に定める学部等連係課程実施基本組織による設置 学位の分野：工学関係 学位の分野：工学関係 学位の分野：工学関係 理学関係
	学部等連係課程実施基本組織 データサイエンス学環 [School of Data Science (Interfaculty Program)]	4	30	-	120	学士（データサイエンス） 【Bachelor of Science in Data Science】	令和5年4月 第1年次	東京都日野市程久保2丁目1番地1	
	連係協力学部（Ⅰ） 情報学部 [School of Information Science] 情報学科 [Department of Information Science]	4	140	-	560	学士（情報） 【Bachelor of Science in Information Science】	平成17年4月 第1年次	東京都日野市程久保2丁目1番地1	
	情報学科からデータサイエンス学環の内数とする入学定員数		10	-	40				
	連係協力学部（Ⅱ） 理工学部 [School of Science and Engineering] 総合理工学科 [Department of Interdisciplinary Science and Engineering]	4	280	-	1,120	学士（工学） 【Bachelor of Arts in Engineering】 学士（理学） 【Bachelor of Arts in Science】	平成22年4月 第1年次	東京都日野市程久保2丁目1番地1	
総合理工学科からデータサイエンス学環の内数とする入学定員数		10	-	40					

新設学部等の概要	連係協力学部（Ⅲ） 経済学部 [School of Economics] 経済学科 [Department of Economics]	4	260	-	1,040	学士（経済学） 【Bachelor of Arts in Economics】	平成13年4月 第1年次	東京都日野市程久保 2丁目1番地1	学位の分野： 経済学関係
	経済学科からデータサイエンス学環の内数とする 入学定員数		10	-	40				
	計		-	-	-				
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		該当なし							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	学部等連係課程実施基本組織 データサイエンス学環	講義	演習	実験・実習	計				
		140 科目	89 科目	6 科目	235 科目	124 単位			

教 員	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
新 設	学部等連係課程実施基本組織 データサイエンス学環		<1> 【12】 (13)	<1> 【6】 (7)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<2> 【18】 (20)	<0> 【0】 (0)	<0> 【109】 (120)	(注) <>の中の数は学部等連係課程実施基本組織のみに従事する教員。 【】の中の数は学部等連係課程実施基本組織と連係協力学部等を兼ねる教員。
	連係協力学部（Ⅰ） 情報学部 情報学科									
組 分	連係協力学部（Ⅱ） 理工学部 総合理工学科									
	連係協力学部（Ⅲ） 経済学部 経済学科									
既 設	計		13 (13)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	- (-)	
	理工学部 総合理工学科		22 【4】 (24)	10 【2】 (10)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	32 【6】 (34)	0 【0】 (0)	127 【88】 (139)	
の 設	人文学部 国際コミュニケーション学科		6 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (10)	0 (0)	118 (130)	
	人間社会学科		5 (6)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (9)	0 (0)	122 (134)	
概 分	日本文化学科		6 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	135 (146)	
	福祉実践学科		6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	123 (134)	
要	経済学部 経済学科		9 【2】 (15)	9 【1】 (9)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	18 【3】 (24)	0 【0】 (0)	125 【90】 (137)	
	情報学部 情報学科		14 【6】 (15)	5 【3】 (5)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	19 【9】 (20)	0 【0】 (0)	123 【93】 (135)	
の 設	教育学部 教育学科 教育学部 教育学科（通信課程）		40 (63)	19 (21)	2 (2)	1 (1)	62 (87)	0 (0)	172 (206)	
	経営学部 経営学科		14 (15)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	15 (16)	0 (0)	117 (128)	
概 分	デザイン学部 デザイン学科		10 (11)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	13 (14)	0 (0)	142 (153)	
	心理学部 心理学科		8 (9)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	17 (18)	0 (0)	133 (144)	
要	建築学部 建築学科		10 (12)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	16 (18)	0 (0)	106 (114)	
	明星教育センター		5 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (6)	0 (0)	0 (0)	
の 設	計		155 (197)	67 (69)	2 (2)	5 (5)	229 (273)	0 (0)	- (-)	
	合 計		13 (13)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	- (-)	
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		人		人		人			
			146 (146)		197 (197)		343 (343)			
	技 術 職 員		0 (0)		67 (67)		67 (67)			
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)		0 (0)		2 (2)			
そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計		148 (148)		264 (264)		412 (412)				

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		
	校 舎 敷 地		195,574 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	195,574 m ²	・日野校 ・青梅校
			683,812 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	683,812 m ²	
	運 動 場 用 地		74,314 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	74,314 m ²	・日野校 ・青梅校
			94,320 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	94,320 m ²	
	小 計		269,888 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	269,888 m ²	・日野校 ・青梅校
			778,132 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	778,132 m ²	
	そ の 他		19,366 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	19,366 m ²	・日野校 ・青梅校
		18,621 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	18,621 m ²		
合 計		1,086,007 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	1,086,007 m ²	大学全体	
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
		176,674 m ²	0 m ²	0 m ²		176,674 m ²	・日野校 ・青梅校	
		(176,674 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)		(176,674 m ²)		
		32,714 m ²	0 m ²	0 m ²		32,714 m ²	大学全体	
(32,714 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)		(32,714 m ²)				
209,388 m ²	0 m ²	0 m ²		209,388 m ²	大学全体			
(209,388 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)		(209,388 m ²)				
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	96 室	265 室	258 室	19 室 (補助職員 6 人)	0 室 (補助職員 0 人)	・日野校 ・青梅校	大学全体	
	23 室	8 室	36 室	0 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)			
	119 室	273 室	294 室	19 室 (補助職員 6 人)	0 室 (補助職員 0 人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数				
		データサイエンス学環		20 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部等単位での特定不能なため、大学全体の数
	データサイエンス学環	865,515 [346,878] (865,515 [346,878])	8,463 [6,217] (8,463 [6,217])	5,149 [5,071] (5,149 [5,071])	7,808 (7,808)	9,221 (9,221)	63 (63)	
	計	865,515 [346,878] (865,515 [346,878])	8,463 [6,217] (8,463 [6,217])	5,149 [5,071] (5,149 [5,071])	7,808 (7,808)	9,221 (9,221)	63 (63)	
図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		取 納 可 能 冊 数		大学全体
		16,865 m ²		862		1,563,400		
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体
		4,894 m ²		野球場、テニスコート				
		4,928 m ²		野球場、テニスコート				
		9,822 m ²						

経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等は大学全体。図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備購入費(運用コスト含む)を含む。設備購入費は大学全体。
	教員1人当り研究費等		550千円	550千円	550千円	550千円	—	—	
	共同研究費等		36,000千円	36,000千円	36,000千円	36,000千円	—	—	
	図書購入費	45,000千円	45,000千円	45,000千円	45,000千円	45,000千円	—	—	
	設備購入費	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	—	—	
経費の見積り及び維持方法の概要	学生1人当り納付金	学部	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		データサイエンス学環	1,580千円	1,380千円	1,380千円	1,380千円	—千円	—千円	
		情報学部	1,580千円	1,380千円	1,380千円	1,380千円	—千円	—千円	
		理工学部	1,600千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	—千円	—千円	
		経済学部	1,210千円	1,010千円	1,010千円	1,010千円	—千円	—千円	
		人文学部	1,370千円	1,170千円	1,170千円	1,170千円	—千円	—千円	
		教育学部	1,390千円	1,190千円	1,190千円	1,190千円	—千円	—千円	
		教育学部(通信課程)	213千円	153千円	153千円	153千円	—千円	—千円	
		経営学部	1,210千円	1,010千円	1,010千円	1,010千円	—千円	—千円	
		デザイン学部	1,600千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	—千円	—千円	
		心理学部	1,390千円	1,190千円	1,190千円	1,190千円	—千円	—千円	
		建築学部	1,600千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	—千円	—千円	
		学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、補助金収入 等				

大学等の名称	明星大学								所在地		
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
既設大学等の状況	理工学部 総合理工学科	4	280	—	1,240	学士(工学) 学士(理学)	0.98 0.98	平成22年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	令和2年度 入学定員減 (△120人)	
	人文学部 国際コミュニケーション学科	4	100	—	400	学士(国際コミュニケーション学)	0.97 0.97	平成17年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1		
	人間社会学科	4	80	—	320	学士(社会学)	1.01	昭和40年度			
	心理学科	4	—	—	—	学士(心理学)	—	平成22年度			平成29年4月より 学生募集停止 (心理学科)
	日本文化学科	4	100	—	400	学士(文学)	0.98	平成22年度			
	福祉実践学科	4	60	—	240	学士(社会福祉学)	0.90	平成22年度			
	経済学部 経済学科	4	260	—	1,040	学士(経済学)	0.97 0.97	平成13年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1		
	情報学部 情報学科	4	140	—	560	学士(情報)	1.12 1.12	平成17年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1		
	教育学部 教育学科	4	350	—	1,400	学士(教育学)	1.07 1.07	平成22年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1		
	経営学部 経営学科	4	200	—	800	学士(経営学)	1.05 1.05	平成24年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1		
	デザイン学部 デザイン学科	4	120	—	480	学士(デザイン学)	1.05 1.05	平成26年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1		
	心理学部 心理学科	4	120	—	480	学士(心理学)	1.10 1.10	平成29年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1		
	建築学部 建築学科	4	120	—	360	学士(建築学)	1.18 1.18	令和2年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	令和2年4月設置	
	(通信教育部) 教育学部 教育学科 (通信課程)	4	2,000	—	8,000	学士(教育学)	0.03 0.03	平成22年度	東京都日野市 程久保2丁目 1番地1		

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	理工学研究科 (博士前期課程)						0.50		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	
	物理学専攻	2	10	—	20	修士(理学)	0.15	昭和54年度		
	化学専攻	2	10	—	20	修士(理学)	0.55	昭和48年度		
	機械工学専攻	2	10	—	20	修士(工学)	0.65	昭和55年度		
	電気工学専攻	2	10	—	20	修士(工学)	0.05	昭和54年度		
	建築・建設工学専攻	2	5	—	10	修士(工学)	1.30	平成20年度		
	環境システム学専攻	2	5	—	10	修士(工学)	0.90	平成20年度		
	(博士後期課程)						0.01			
	物理学専攻	3	5	—	15	博士(理学)	0.00	昭和56年度		
	化学専攻	3	5	—	15	博士(理学)	0.06	昭和51年度		
	機械工学専攻	3	5	—	15	博士(工学)	0.00	昭和57年度		
	電気工学専攻	3	5	—	15	博士(工学)	0.00	昭和56年度		
	建築・建設工学専攻	3	3	—	9	博士(工学)	0.00	平成20年度		
	環境システム学専攻	3	2	—	6	博士(工学)	0.00	平成20年度		
	人文学研究科 (博士前期課程)						0.15		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	
	英米文学専攻	2	—	—	—	修士(英米文学)	—	昭和58年度		令和2年より 学生募集停止 (英米文学専攻)
	国際コミュニケーション専攻	2	10	—	20	修士(国際コミュニケーション学)	0.25	令和2年度		
	社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会学)	0.05	昭和46年度		
	心理学専攻	2	—	—	—	修士(心理学)	—	昭和49年度		令和2年より 学生募集停止 (心理学専攻)
	(博士後期課程)						0.16			
	英米文学専攻	3	—	—	—	博士(英米文学)	—	昭和63年度		令和2年より 学生募集停止 (英米文学専攻)
	国際コミュニケーション専攻	3	3	—	9	博士(国際コミュニケーション学)	0.33	令和2年度		
	社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.00	昭和51年度		
	心理学専攻	3	—	—	—	博士(心理学)	—	昭和53年度		令和2年より 学生募集停止 (心理学専攻)

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	経済学研究科 (修士課程)						0.90		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	応用経済学専攻	2	10	—	20	修士(応用経済学)	0.90	平成18年度	
	情報学研究科 (博士前期課程)						0.64		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	情報学専攻	2	7	—	14	修士(情報学)	0.64	平成10年度	
	(博士後期課程)						0.00		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	情報学専攻	3	3	—	9	博士(情報学)	0.00	平成12年度	
	教育学研究科 (博士前期課程)						0.00		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	教育学専攻	2	10	—	20	修士(教育学)	0.00	平成26年度	
	(博士後期課程)						0.00		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	教育学専攻	3	3	—	9	博士(教育学)	0.00	平成26年度	
	心理学研究科 (博士前期課程)						0.73		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	心理学専攻	2	15	—	30	修士(心理学)	0.73	令和2年度	
	(博士後期課程)						0.44		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	心理学専攻	3	3	—	9	博士(心理学)	0.44	令和2年度	
	(通信制大学院)								東京都日野市 程久保2丁目 1番地1
	教育学研究科 (博士前期課程)						0.35		
教育学専攻 (通信課程)	2	30	—	60	修士(教育学)	0.35	平成11年度		
(博士後期課程)						0.66		東京都日野市 程久保2丁目 1番地1	
教育学専攻 (通信課程)	3	3	—	9	博士(教育学)	0.66	平成18年度		
附属施設の概要	該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要																
(データサイエンス学環)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	学びとキャリア	1前	2				○								兼5	
	データサイエンスリテラシー	1前・後	2				○								兼5	
	世界の言葉と文化を知る	1前	2				○								兼6	
	健康スポーツ科学論	1前・後	2				○								兼2 オムニバス方式	
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 言葉で世界につながる	英語1A	1前		1			○								兼1	
	英語1B	1前		1			○								兼1	
	英語2A	1後		1			○								兼1	
	英語2B	1後		1			○								兼1	
	ドイツ語1A	1前		1			○								兼1	
	ドイツ語1B	1前		1			○								兼1	
	ドイツ語2A	1後		1			○								兼1	
	ドイツ語2B	1後		1			○								兼1	
	フランス語1A	1前		1			○								兼1	
	フランス語1B	1前		1			○								兼1	
	フランス語2A	1後		1			○								兼1	
	フランス語2B	1後		1			○								兼1	
	中国語1A	1前		1			○								兼1	
	中国語1B	1前		1			○								兼1	
	中国語2A	1後		1			○								兼1	
	中国語2B	1後		1			○								兼1	
	韓国語1A	1前		1			○								兼1	
	韓国語1B	1前		1			○								兼1	
	韓国語2A	1後		1			○								兼1	
	韓国語2B	1後		1			○								兼1	
	スペイン語1A	1前		1			○								兼1	
	スペイン語1B	1前		1			○								兼1	
	スペイン語2A	1後		1			○								兼1	
	スペイン語2B	1後		1			○								兼1	
	英語3A	2・3・4前		1				○								兼1
	英語3B	2・3・4前		1				○								兼1
	英語4A	2・3・4後		1				○								兼1
	英語4B	2・3・4後		1				○								兼1
	ドイツ語3A	2・3・4前		1				○								兼1
	ドイツ語3B	2・3・4前		1				○								兼1
	ドイツ語4A	2・3・4後		1				○								兼1
	ドイツ語4B	2・3・4後		1				○								兼1
	フランス語3A	2・3・4前		1				○								兼1
	フランス語3B	2・3・4前		1				○								兼1
	フランス語4A	2・3・4後		1				○								兼1
	フランス語4B	2・3・4後		1				○								兼1
	中国語3A	2・3・4前		1				○								兼1
	中国語3B	2・3・4前		1				○								兼1
	中国語4A	2・3・4後		1				○								兼1
	中国語4B	2・3・4後		1				○								兼1
	韓国語3A	2・3・4前		1				○								兼1
	韓国語3B	2・3・4前		1				○								兼1
韓国語4A	2・3・4後		1				○								兼1	
韓国語4B	2・3・4後		1				○								兼1	
スペイン語3A	2・3・4前		1				○								兼1	
スペイン語3B	2・3・4前		1				○								兼1	
スペイン語4A	2・3・4後		1				○								兼1	
スペイン語4B	2・3・4後		1				○								兼1	
実践英会話1	3・4前		1				○								兼1	
実践英会話2	3・4後		1				○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目	言葉で世界につながる	実用英語1		1			○								兼1
		実用英語2		1			○								兼1
		中級ドイツ語1		1			○								兼1
		中級ドイツ語2		1			○								兼1
		上級ドイツ語1		1			○								兼1
		上級ドイツ語2		1			○								兼1
		中級フランス語1		1			○								兼1
		中級フランス語2		1			○								兼1
		上級フランス語1		1			○								兼1
		上級フランス語2		1			○								兼1
		中級中国語1		1			○								兼1
		中級中国語2		1			○								兼1
		上級中国語1		1			○								兼1
		上級中国語2		1			○								兼1
		中級韓国語1		1			○								兼1
		中級韓国語2		1			○								兼1
		上級韓国語1		1			○								兼1
		上級韓国語2		1			○								兼1
		中級スペイン語1		1			○								兼1
		中級スペイン語2		1			○								兼1
	上級スペイン語1		1			○								兼1	
	上級スペイン語2		1			○								兼1	
	海外語学研修A	1・2・3・4前・後	2					○							兼1 集中
	海外語学研修B	2・3・4前・後	2					○							兼1 集中
	現代社会での生き方を考える	多摩と生活	1・2・3・4後		2			○							兼4 オムニバス方式、共同(一部)
		多摩を歩く	1・2・3・4後		2			○							兼1
		多摩と自然	1・2・3・4前		2			○							兼1
		大学論	1・2・3・4前		2			○							兼3 オムニバス方式
	健康に生きる	体育スポーツ科学実践A	1・2・3・4前		1				○						兼3
		体育スポーツ科学実践B	1・2・3・4後		1				○						兼4
		現代スポーツ論	1・2・3・4前		2			○							兼1
		身体論	1・2・3・4後		2			○							兼3 オムニバス方式
	考えを広げる(知識を知恵に①)	物理学で読み解く世界	1・2・3・4前		2			○							兼1
		生活の中の化学	1・2・3・4後		2			○							兼1
		生物学から見える世界	1・2・3・4前		2			○							兼1
		地球惑星学	1・2・3・4後		2			○							兼1
		数学で社会を見る	1・2・3・4前		2			○							兼1
		科学技術が作り出す世界	1・2・3・4後		2			○							兼1
		私たちの暮らしと環境科学	1・2・3・4前		2			○							兼1
		現代社会と工学	1・2・3・4後		2			○							兼1
		情報の活用と倫理	1・2・3・4前・後		2			○							兼5
		地理学で知る生活・文化・環境	1・2・3・4前		2			○							兼1
		現代社会の仕組み	1・2・3・4前		2			○							兼1
		政治学から見える社会	1・2・3・4後		2			○							兼1
		国際関係を読み解く	1・2・3・4前		2			○							兼1
		社会に生きる私たちの人権	1・2・3・4後		2			○							兼1
		ジェンダーを考える	1・2・3・4前		2			○							兼1
		図書館の基礎と展望	1・2・3・4前		2			○							兼1
現代経済への視点		1・2・3・4後		2			○							兼1	
日本国憲法		1・2・3・4前		2			○							兼1	
法学から見える社会		1・2・3・4後		2			○							兼1	
グローバル時代の経営		1・2・3・4前		2			○							兼1	
情報社会文化論	1・2・3・4後		2			○							兼1		
統計から見える世界	1・2・3・4後		2			○							兼1		
教育と21世紀の社会	1・2・3・4後		2			○							兼1		
生涯学習論	1・2・3・4前		2			○							兼1		
ボランティア論	1・2・3・4後		2			○							兼1		
テーマで学ぶ歴史	1・2・3・4前		2			○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目	考えを広げる(知識を知恵に①)	グローバル・ヒストリー	1・2・3・4後	2		○									兼1
		日本の歴史と文化	1・2・3・4前	2		○									兼1
		日本文化の深層	1・2・3・4後	2		○									兼1
		哲学から考える人間	1・2・3・4後	2		○									兼1
		哲学から考える世界	1・2・3・4前	2		○									兼1
		宗教と人間	1・2・3・4前	2		○									兼1
		遺物が語る世界	1・2・3・4後	2		○									兼1
		世界の人々の生活と文化	1・2・3・4前	2		○									兼1
		芸術の見方	1・2・3・4後	2		○									兼1
		文学の世界に浸る	1・2・3・4前	2		○									兼1
		人間と言葉	1・2・3・4後	2		○									兼1
		心理学と人々の行動	1・2・3・4前	2		○									兼1
		都市と建築	1・2・3・4後	2		○									兼4 オムニバス方式
		音楽と社会・文化の結びつき	1・2・3・4前	2		○									兼1
		地域研究(イスラーム世界)	1・2・3・4後	2		○									兼1
		地域研究(アジア)	1・2・3・4後	2		○									兼1
		地域研究(アメリカ)	1・2・3・4前	2		○									兼2 オムニバス方式、共同(一部)
		地域研究(アフリカ)	1・2・3・4後	2		○									兼2 オムニバス方式
		地域研究(ヨーロッパ)	1・2・3・4前	2		○									兼2 オムニバス方式
		食から見えるからだと文化	1・2・3・4前	2		○									兼1
	学問の世界	1・2・3・4前	2		○									兼7 オムニバス方式	
	考えをクロスさせる(知識を知恵に②)	人類とその環境	1・2・3・4前	2		○									兼2 オムニバス方式
		戦争と安全保障	1・2・3・4後	2		○									兼4 オムニバス方式
		現代社会と平和	1・2・3・4前	2		○					1				兼6 オムニバス方式、共同(一部)
		気候と人口の問題	1・2・3・4後	2		○									兼2 オムニバス方式
		ポスト経済成長時代の未来論	1・2・3・4前	2		○									兼3 オムニバス方式
		社会の中の法	1・2・3・4後	2		○									兼3 オムニバス方式
		宗教から見える現代社会	1・2・3・4前	2		○									兼2 オムニバス方式
		アートとアートの境界線	1・2・3・4後	2		○									兼3 オムニバス方式
		世界の芸術のその深層	1・2・3・4前	2		○									兼4 オムニバス方式
		創造される歴史と人々が紡ぐ歴史	1・2・3・4後	2		○									兼2 オムニバス方式
		21世紀の社会像を描く	1・2・3・4前	2		○					1				兼4 オムニバス方式
		ELSI (科学技術における倫理的・法的・社会的課題)	1・2・3・4前	2		○									兼2 オムニバス方式
		これからのエネルギーとその利用	1・2・3・4前	2		○									兼2 オムニバス方式
		文学作品のメタファー	1・2・3・4後	2		○									兼4 オムニバス方式
		都市という空間	1・2・3・4前	2		○					1				兼3 オムニバス方式
		ことばと文化の結びつき	1・2・3・4後	2		○									兼2 オムニバス方式、共同(一部)
		母語から見える世界と外国語から見える世界	1・2・3・4前	2		○									兼3 オムニバス方式
		ことばの窓から広がる世界	1・2・3・4後	2		○									兼3 オムニバス方式
		スポーツと外国語	1・2・3・4前	2		○									兼3 オムニバス方式
		世界の身体文化	1・2・3・4後	2		○									兼3 オムニバス方式
スポーツを通して地域を学ぶ	1・2・3・4前	2		○									兼2 オムニバス方式、共同(一部)		
スポーツとテクノロジー	1・2・3・4後	2		○									兼2 オムニバス方式		
境界線上の日本学	1・2・3・4前	2		○									兼1		
ダイバーシティ&インクルージョン	1・2・3・4後	2		○									兼1		
サステナビリティと人類社会	1・2・3・4前	2		○									兼1		
(知識を深める)	教養ゼミ1	3・4前	2			○								兼6	
	教養ゼミ2	3・4後	2			○								兼6	
	教養ゼミ3	4前	2			○								兼6	
	教養ゼミ4	4後	2			○								兼6	
	小計(162科目)	—	8	242	0	—			1	2	0	0	0	兼83	
キャリア全学形成 共通科目	基礎	社会とキャリア	1後	2			○								兼5
		仕事とキャリア	2後	2			○								兼4
	発展	キャリアデザイン基礎	2前	2			○								兼5
		キャリアデザイン応用	2後	2			○								兼5
		キャリアアップ	4後	2			○								兼2
	小計(5科目)	—	0	10	0	—		0	0	0	0	0	0	兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
学科等科目	基幹科目	データサイエンス概論1	1前	2			○			1						オムニバス方式		
		データサイエンス概論2	1後	2			○			4								
		基礎解析学1	1前	2			○			1								
		基礎解析学2	1後	2			○			1								
		線型代数学1	1前	2			○			1								
		線型代数学2	1後	2			○			1								
		統計学1	1前	2			○			1								
		統計学2	1後	2			○			1								
		プログラミング概論	1前	2			○			1								共同
		プログラミング演習	1後	2				○			2							
		回帰分析	2前	2			○				1							
		多変量解析	2後	2			○				1							
		AI・機械学習1	2前	2			○			1								
		AI・機械学習2	2後	2			○			1								
		情報学基礎	1前	2	2		○			2							兼1	
		情報セキュリティ入門	1後	2	2		○										兼1	
		情報倫理	1後	2	2		○										兼3	
		アルゴリズムとデータ構造1	2前	2	2		○										オムニバス方式	
		アルゴリズムとデータ構造2	2後	2	2		○										兼1	
		統計の数理	2前	2	2		○			1							兼2	
		解析学	2前	2	2		○										兼1	
		応用統計学	2後	2	2		○			1								
		データベース工学	2後	2	2		○										兼1	
		離散数学A	3前	2	2		○			1								
		離散数学B	3後	2	2		○			1								
		コンピュータネットワーク	3前	2	2		○										兼1	
		プロジェクトマネジメント	3後	2	2		○										兼1	
		次世代技術	3後	2	2		○			1								
小計(28科目)	—	26	30	0	—			9	2	0	0	0	0	兼12				
学科等科目	情報学分野	コンピュータアーキテクチャ	2前		2		○			1						兼1		
		画像処理	2後		2		○				1							
		インタラクティブシステム	3前		2		○											
		オーディオプロセッシング	3前		2		○			1								
		人工知能	3前		2		○				1							
		自然言語処理	3後		2		○				1							
		小計(6科目)	—	0	12	0	—			2	2	0	0	0	兼1			
	応用科目	理工学分野	解析力学	2前		2		○									兼1	
			量子力学1	2前		2		○									兼1	
			量子力学2	2後		2		○									兼1	
			量子力学3	3前		2		○									兼1	
			応用解析	3前		2		○									兼1	
			機械工学概論	2後		2		○			1						兼6	
			知能情報工学	2後		2		○									兼1	
			知能ロボティクス	3前		2		○			1							
			機械情報処理	3前		2		○									兼1	
制御工学			3後		2		○			1								
機械制御プログラミング	3後		2		○			1						集中				
気象・熱環境学	2後		2		○			1										
大気科学	2後		2		○				1									
地球環境学	2後		2		○				1									
宇宙工学入門	3前		2		○			1										
地球環境データサイエンス	3前		2			○		1	2					オムニバス方式				
小計(16科目)	—	0	32	0	—			3	2	0	0	0	0	兼10				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科等科目	応用科目 経済学分野	経済学入門1	2前	2			○			1						兼1 兼1 兼1 兼1
		経済学入門2	2後	2			○			1						
		マクロ経済学1	3前	2			○									
		マクロ経済学2	3後	2			○									
		ミクロ経済学1	3前	2			○									
		ミクロ経済学2	3後	2			○									
		ファイナンス1	3前	2			○			1						
		ファイナンス2	3後	2			○			1						
		計量経済学	3前	2			○			1						
		都市経済学1	4前	2			○				1					
		都市経済学2	4後	2			○				1					
	小計(11科目)	—	0	22	0		—			2	1	0	0	0	兼2	
	研究実践科目	データサイエンス演習1	2前	2				○		1	1					共同 共同 オムニバス方式、共同 オムニバス方式、共同 集中、共同 集中、共同
		データサイエンス演習2	2後	2				○		2						
データサイエンス演習3		3前	2				○		7	3						
データサイエンス演習4		3後	2				○		7	4						
データサイエンス実践1		2前	1					○	1	1						
データサイエンス実践2		3前	1					○	2							
卒業研究		4通	8					○	13	7						
小計(7科目)	—	18	0	0		—		13	7	0	0	0	0			
合計(235科目)		—	52	348	0		—		13	7	0	0	0	兼109		
学位又は称号		学士(データサイエンス)			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
卒業要件:全学共通科目32単位以上、学科等科目92単位以上、合計124単位以上。 履修科目の登録の上限:45単位(年間)							1学年の学期区分			2学期						
							1学年の授業期間			15週						
							1学年の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要				
(データサイエンス学環)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	現代社会での生き方を考える	学びとキャリア	大学での学びと各自のキャリア形成との関連を理解させると共に、学びのデザインとキャリア仮説の立案に関する2種類のポートフォリオの使い方と意義を理解させ、個々に応じたキャリア開発の導入を行うことを目的とする。到達目標は、①大学での学び方を身につける、②明星大学を知る、③生涯キャリアプランを考える必要性を理解し当面の目標を立てる、であり、そのために、チームによるケーススタディ、情報収集・発表および、自校教育、キャリアプランに関する講義等を行う。	
		データサイエンスリテラシー	人工知能(AI)は、研究のブレークスルーが起き、急激に高度化したことによって社会での利活用が急速に進展している。またそのAIが適切に機能するためには大量のデータが必要となる。まず私たちの日常生活においてどのようにAIが利活用され、必要なデータが生成、収集、整理されているかを学ぶ。次にAIやデータを活かすために、自らデータを読み、説明し、活用するための基本的な概念や手法を学ぶ。最後にデータを扱う上で特に留意すべき個人データについて、倫理的、法的、社会的な留意事項、いわゆるELSIについて学ぶ。これらの学びを通じて「数理・データサイエンス・AI」の基礎を修得する。	
		世界の言葉と文化を知る	(概要)本講義では、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国語、英語の言葉と文化について学修する。各言語の単語や簡単なフレーズ、文法などを紹介し、各言語の特徴を解説する。また、その特徴がどのような文化的、歴史的背景から生まれたのかについて解説する。講義全体の最後に、科目担当の責任者が、まとめとしてそれぞれの言語と文化の特徴を比較し、類似点や相違点を浮かび上がらせる。 (オムニバス方式／全15回) (99 中野隆基／2回) スペイン語の簡単なフレーズを紹介し、スペイン語の特徴とそれが生まれた文化的背景について解説する。 (81 鋳物美佳／3回) フランス語特有の表現方法やその表現方法が生まれた文化的背景について解説する。 (93 鶴田涼子／2回) 日本で馴染みのあるドイツ語を紹介し、ドイツ語の特徴とドイツ文化について解説する。 (95 藤原愛／3回) 英語と日本語の言語学的違いについて解説し、なぜ日本語母語話者にとって英語の習得が難しいのかを説明する。 (100 廣瀬直記／2回) 日本で知られる中国の故事やことわざについて解説し、中国文化の特徴を説明する。 (36 金庚芬／3回) 韓国、韓国文化、韓国人についての基礎的知識や理解を得た上で、韓国語の特徴やその文字であるハングルについて学び、異文化理解への基礎的かつ幅広い教養を身につける。	オムニバス方式
		健康スポーツ科学論	心<こころ>と体<からだ>の健康を維持することは、現代社会を生きる人々にとって豊かな生活基盤を築くために欠かせない現実的な目標であると同時に、重要な課題である。そのため本講義では、自らの心や体に関する知識の獲得、かかる思考力・判断力の涵養、健康的ライフスタイル創造への理解・計画など、これからの「生きていく力」を高めるための総合的な学力の獲得を目指す。具体的には、健康科学やスポーツ科学の見地に基づいた議論を展開し、必要に応じて担当教員の研究領域に関連した知見も活かしながら、健康を実践的に維持・向上させるための講義を展開する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 言葉で世界につながる	英語1A	この授業は外国語における英語科目で、英語の基礎を固めることにより、グローバル社会で生きる日本人として英語の能力を身に付ける。英語でのコミュニケーションに対応できる基盤作りを目的とする演習科目である。本授業では、4技能(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと)の全てを修得すべき目標としながら、特に、話すことの技能に重点を置く。その際に、円滑なコミュニケーションに必要な話題や受け答えについても考える。授業中の学修はもちろんのこと、それと同時間以上の自律的学修に積極的かつ継続的に取り組む姿勢が求められる。	
	英語1B	この授業は外国語における英語科目で、英語の基礎を固めることにより、グローバル社会で生きる日本人として英語の能力を身に付ける。本授業では、4技能5領域(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと・やりとりすること)の全てを修得すべき目標としながら、特に、読むこと・書くことの技能に重点を置く。英語で書かれた文・文章を正確に読み解き、自らの考えを表現する語彙力・文法を身に付ける。授業中の学修はもちろんのこと、それと同時間以上の自律的学修に積極的かつ継続的に取り組む姿勢が求められる。	
	英語2A	この授業は外国語における英語科目で、英語の基礎を固めることにより、グローバル社会で生きる日本人として英語の能力を身に付ける。英語によるコミュニケーションに対応できる基盤作りを目的とする演習科目である。本授業では、4技能(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと)の全てを修得すべき目標としながら、特に、聞くこと・話すことの技能に重点を置き、「英語1A」で身に付けた英語力を確かなものにする。授業中の学修はもちろんのこと、それと同時間以上の自律的学修に積極的かつ継続的に取り組む姿勢が求められる。	
	英語2B	この授業は外国語における英語科目で、英語の基礎を固めることにより、グローバル社会で生きる日本人として英語の能力を身に付ける。本授業では、4技能5領域(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと・やりとりすること)の全てを修得すべき目標としながら、特に、読むこと・書くことの技能に重点を置く。英語で書かれた文・文章を正確に読み解き、自らの考えを表現する語彙力・文法を身に付けることを目指し、「英語1B」で身に付けた英語力を確かなものにする。授業中の学修はもちろんのこと、それと同時間以上の自律的学修に積極的かつ継続的に取り組む姿勢が求められる。	
	ドイツ語1A	本科目は、初修者を対象としてドイツ語文法の理解、修得を目的とする演習科目である。1Aで扱う文法項目は、動詞、名詞、人称代名詞、前置詞等である。ドイツ語の理解を深め、文法の定着を図るために、主に読む練習、書く練習をペアやグループで実施する。学修内容に合わせて短いテキストを読む機会を設け、ドイツ語の短文を理解することを目指す。本授業科目の達成目標は、ドイツ語の基礎文法を理解すること、またドイツ文化に触れ、ドイツ語圏についての知識を深め、異文化を理解する力を養うことである。	
	ドイツ語1B	本科目は、初修者を対象とし、発音、会話、練習問題に取り組みながら、対応力を身につけ、ドイツ語の理解を深めていく演習科目である。ペアワークなどを通して、ドイツ語によるコミュニケーションの方法を学ぶ。初修者が対象であるため、文法項目の補足解説を取り入れつつ、対話の実践からドイツ語表現を学修していく。語彙、言い回し、状況に応じた表現を学び、主に話す、聞くための能力を養う。ドイツ語圏の文化についての理解を深め、多様な考え方を知るとともに今後のものの見方に生かすことを目標とする。	
ドイツ語2A	本科目は、初修者を対象としてドイツ語文法の理解、修得を目的とする演習科目である。2Aで扱う文法項目は、助動詞、過去形、受動文等である。ドイツ語の理解を深め、文法の定着を図るために、主に読む練習、書く練習を、ペアやグループで実施する。学修内容に合わせて短いテキストを読む機会を設け、ドイツ語の短文を理解することを目指す。本授業科目の達成目標は、ドイツ語の基礎文法を理解すること、またドイツ文化に触れ、ドイツ語圏についての知識を深め、異文化を理解する力を養うことである。本授業は「ドイツ語1A」の内容を受けて展開するため、「ドイツ語1A」を履修済みであることが望ましい。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 言葉で世界につながる	ドイツ語2B	本科目は、ドイツ語での会話練習や会話表現の応用問題に接することで、対応力、応用力を身につけていく演習科目である。1Bよりもやや難易度の高い課題に取り組み、ペアワーク、グループワークなどを通して、ドイツ語によるコミュニケーションの方法を学ぶ。文法の補足解説を取り入れつつ、対話の実践からことばを学修していく。用いる語彙をふやし、状況に応じた表現を習得する。主に話す、聞くための能力を養う。また、ドイツ語圏の文化についての理解を深め、多様な考え方をすることで多文化を理解する素養を身につけ、多様な考え方を受け入れる基盤をつくる。	
	フランス語1A	本授業は、初心者を対象とし、基礎的な文法、語彙、発音と綴り字の法則を学びながら、主にフランス語の読解・筆記表現・音読の能力を伸ばすことを目指す演習科目である。指定教科書以外にも、実際にフランス語圏の土地で見られる看板やテキストを用いながら、文化的背景の紹介も適宜交えつつ、フランス語およびフランス語文化に親しみ、基礎的な表現を身につけることを目指す。「フランス語1B」と合わせることで4技能(読む・書く・話す・聞く)を総合的に扱う。また「フランス語2A」と合わせて、フランス語検定5級に相当する文法内容を学ぶ。	
	フランス語1B	本授業は、初心者を対象とし、基礎的な発音、聞き取りの訓練を積みながら、主にフランス語の聴解・口頭表現の能力を伸ばすことを目的とする演習科目である。また「フランス語1A」と文法事項を共有することで、学修事項の定着を目指す。さまざまな視聴覚教材を用い、また簡潔ではあっても実践的な場면을想定した練習を積むことで、フランス語を口にする、耳にすることに慣れていくこと、加えてそれぞれの場面を通してフランス文化に親しむことが目標である。	
	フランス語2A	本科目は、「フランス語1A」に引き続いて、基礎的な文法、語彙、発音と綴り字の法則を学びながら、主にフランス語の読解・筆記表現・読み上げの能力を伸ばすことを目指す。指定教科書以外にも、実際にフランス語圏の土地で見られる看板やテキストを用いながら、文化的背景の紹介も適宜交えつつ、フランス語およびフランス語文化に親しみ、基礎的な表現を身につけることを目指す。「フランス語2B」と合わせることで、簡単なコミュニケーションがフランス語で取れるようになることを目指す。また、「フランス語1A」と合わせて、最終的にフランス語検定5級に相当する文法内容を学ぶ。	
	フランス語2B	「フランス語1B」に引き続いて、本演習科目では、基礎的な発音、聞き取りの訓練を積みながら、主にフランス語の聴解・口頭表現の能力を伸ばすことを目的とする。また「フランス語2A」と基礎的な文法事項を共有することで、学修事項の定着を目指す。さまざまな視聴覚教材を用い、また簡潔ではあっても実践的な場면을想定した練習を積むことで、フランス語を口にする、耳にすることに慣れていくこと、加えてそれぞれの場面を通してフランス文化に親しむことが目標である。「フランス語2A」と合わせることで、具体的な欲求を満足させるための簡単なコミュニケーションがフランス語で取れるようになることを目指す。	
	中国語1A	本演習科目は、現代中国語の入門授業と位置付ける。中国語独特の4つの声調、日本語とは異なる母音や子音、ピンインと呼ばれる中国語独自のローマ字表記方法など、中国語を学んでいく上で必ず身に付けていかなければならない事項について順を追って学んでいく。正確な発音のマスターが中国語学修においては何より大切であるので、本授業では、簡単な会話文の練習などを繰り返して、中国語の基礎的な語彙を身に付けていく。後期開講の「中国語2A」とあわせ履修することで、中国語検定試験準4級レベルに到達できることを目標とする。	
	中国語1B	本演習科目は、現代中国語の入門授業と位置付ける。「中国語1A」同様、中国語独特の4つの声調、日本語とは異なる母音や子音、ピンインと呼ばれる中国語独自のローマ字表記方法など、中国語を学んでいく上で必ず身に付けていかなければならない事項について順を追って学んでいく。本授業では、「中国語1A」で行った反復練習について、中国語ではなぜそのような表現になるのか説明し、また、学生の理解を文法面から支える。後期開講の「中国語2B」とあわせ履修することで、中国語検定試験準4級レベルに到達できることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
現代社会での生き方を考える 言葉で世界につながる 全学共通科目	中国語2A	本演習科目は、現代中国語の入門授業と位置付ける。前期の「中国語1A」で修得した4つの声調、母音や子音、ピンインなど中国語の基礎を復習しながら、中国語の語彙を少しずつ増やしていき、中国語での簡単なやりとりなどを学んでいく。正確な発音のマスターが中国語学修においてはより大切であるので、本授業では、簡単な会話文や聞き取り練習などを繰り返し行い、中国語の運用能力の基礎を固めていく。前期開講の「中国語1A」とあわせ履修することで、中国語検定試験準4級レベルに到達できることを目標とする。	
	中国語2B	本演習科目は、現代中国語の入門授業と位置付ける。中国語の4つの声調、母音や子音、ピンインなど中国語の基礎を反復練習するとともに、中国語文法の初歩を学ぶ。本授業では、中国語と日本語や英語との相違点や共通点について解説し、学生の理解を深めていく。中国語文の日本語訳に加えて、簡単な日本語を中国語で表現する。中国語作文にも取り組んでいく。前期開講の「中国語1B」とあわせ履修することで、中国語検定試験準4級レベルに到達できることを目標とする。	
	韓国語1A	本演習科目は、韓国語の文法中心の入門授業と位置付ける。はじめに、韓国語の文字(ハングル)と発音の基礎を体系的に学ぶ。母音、次に子音、そして半母音&二重母音、最後にパッチム(母音の後に来る子音)を学修し、ハングル文字と発音とを結びつけることを目標とする。ハングルの読み書きができるようになったら、次に基本的なあいさつ表現、基礎語彙、基本的な助詞や基礎文法を学ぶ。また、自習用の学修動画や視聴覚資料を活用し、自ら学ぶ姿勢を身につける。応用練習中心の「韓国語1B」と連携することで、効果的な学修が期待される。韓国語学修を通して、韓国語、韓国文化への理解を深め、多文化共生・異文化理解への基礎的かつ幅広い教養を身につける。	
	韓国語1B	本演習科目は、韓国語の応用練習中心の入門授業と位置付ける。はじめに、韓国語の文字(ハングル)と発音の基礎を学修し、繰り返し練習、応用を行う。ハングルの学修後は、基本的なあいさつ表現、基礎語彙を使い、簡単な表現ができるようにする。また、学修した基本的な文法や文型を活用し、短い文章の読解や作文の練習を重ねる。また、自習用の学修動画や視聴覚資料を活用し、反復練習や応用を行うことで自ら学ぶ姿勢を身につける。体系的な文法学修中心の「韓国語1A」と連携することで、効果的な学修が期待される。韓国語学修を通して、韓国語、韓国文化への理解を深め、多文化共生・異文化理解への基礎的かつ幅広い教養を身につける。	
	韓国語2A	本演習科目は、韓国語1A/Bで学修したことを踏まえて、基本的な文法事項の体系的な学修を行い、基礎的な「聞く、話す、読む、書く」の能力を総合的に伸ばすことを目標とする。そのために、様々な数字の使い方、用言の活用、丁寧体、可能形、否定形、尊敬形、過去形などを、各課の会話文と文法事項の説明、豊富なタスクを用いて練習する。また、文章や単語に現れる韓国の文化の特徴についても注意していく。また、各課の文法事項や練習問題を自習用の学修動画を活用し、自ら学ぶ姿勢を身につける。応用練習中心の「韓国語2B」と連携することにより、効果的な学修が期待される。韓国語学修を通して、韓国語、韓国文化への理解を深め、多文化共生・異文化理解への基礎的かつ幅広い教養を身につける。	
	韓国語2B	本演習科目は、韓国語1A/Bで学修したことを踏まえて、基本的な文法事項を応用・活用し、表現することにより、「聞く、話す、読む、書く」の能力を総合的に伸ばす演習科目である。様々な数字の使い方、用言の活用、丁寧体、可能形、否定形、尊敬形、過去形などを、作文、読解、会話の応用練習をくり返すことにより修得する。とりわけ、会話練習では、発音の変化にも注意する。各課の文法事項や練習問題中心の「韓国語2A」と連携することで、効果的な学修が期待される。韓国語学修を通して、韓国語、韓国文化への理解を深め、多文化共生・異文化理解への基礎的かつ幅広い教養を身につける。	
	スペイン語1A	スペイン語を通して、自分とは異なる存在に目を向けることにより、多様化する社会に対応するための態度・教養を身につける。そして多角的な視野を持って物事を判断できる人格を育み、それを日本語のみならず、外国語でも実践可能とするための言語能力の基盤を作ることを目標とする。この授業では、初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語でコミュニケーションをとるために必要となる文法の基礎を学習する。また言語知識のみならず、スペイン語を学ぶことを通して、世界の多様性を意識し、自らの視野を広げるきっかけとなるよう、スペイン語を話す国々についても取り上げ、言語を使用する上で必要不可欠となるスペイン語圏の社会文化的背景についても紹介する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 言葉で世界につながる	スペイン語1B	将来国際化に対応する幅広い視野と多様性を受け入れる創造的思考力及び判断力を修得して、地域社会の発展に寄与しながら、国際社会の発展にも貢献するために、まずは実生活に必要なスペイン語でのコミュニケーション能力向上を目指す。「スペイン語1A」で習得する文法の基礎知識を活用して「聴く」そして「話す」能力のトレーニングに重点を置いた演習科目。そのため、リスニングやペアワークなどのアクティビティを通してスペイン語を学んでいく。購入テキスト以外にも映像や音声も適時使用する。	
	スペイン語2A	スペイン語を通して、自分とは異なる存在に目を向けることにより、多様化する社会に対応するための態度・教養を身につける。そして多角的な視野を持って物事を判断できる人格を育み、それを日本語のみならず、外国語でも実践可能とするための言語能力の基盤を作ることを目標とする。この授業では、「スペイン語1A」で学習したことを復習し、さらにスペイン語でコミュニケーションをとるために必要となる基礎文法を学習する。また言語知識のみならず、スペイン語を学ぶことを通して、世界の多様性を意識し、自らの視野を広げるきっかけとなるよう、スペイン語を話す国々についても取り上げ、言語を使用する上で必要不可欠となるスペイン語圏の社会文化的背景についても紹介する。	
	スペイン語2B	将来国際化に対応する幅広い視野と多様性を受け入れる創造的思考力及び判断力を修得して、地域社会の発展に寄与しながら、国際社会の発展にも貢献するために、まずは実生活に必要なスペイン語でのコミュニケーション能力向上を目指す。「スペイン語2A」で修得する文法の基礎知識を活用して「聴く」そして「話す」能力のトレーニングに重点を置いた演習科目。そのため、リスニングやペアワークなどのアクティビティを通してスペイン語を学んでいく。購入テキスト以外にも映像や音声も適時使用する。	
	英語3A	この授業は外国語における英語科目で、大学英語の基礎を固めることにより、グローバル社会で生きる日本人として英語の能力を身に付けるとともに、将来的な英語学修の基盤作りを目的とする演習科目である。本授業では、4技能(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと)の全てを修得すべき目標としながら、特に、聞くこと・話すことの技能に重点を置き、「英語2A」で身に付けた英語力を確かなものにする。授業中の学修はもちろんのこと、それと同時間以上の自律的学習に積極的かつ継続的に取り組む姿勢が求められる。	
	英語3B	この授業は外国語における英語科目で、大学英語の基礎を固めることにより、グローバル社会で生きる日本人として英語の能力を身に付ける。本授業では、4技能5領域(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと・やりとりすること)の全てを修得すべき目標としながら、特に、読むこと・書くことの技能に重点を置く。英語で書かれた文・文章を正確に読み解く力、自らの考えを表現する語彙力・文法を学び、「英語2B」で身に付けた英語力を確かなものにする。授業中の学修はもちろんのこと、それと同時間以上の自律的学修に積極的かつ継続的に取り組む姿勢が求められる。	
	英語4A	この授業は外国語における英語科目で、グローバル社会で生きる日本人として英語の能力を身に付けるとともに、将来的な英語学修の基盤作りを目的とする演習科目である。本授業では、4技能(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと)の全てを修得すべき目標としながら、特に、聞くこと・話すことの技能に重点を置き、「英語3A」で身に付けた英語力をより確かなものにする。授業中の学修はもちろんのこと、それと同時間以上の自律的学修に積極的かつ継続的に取り組む姿勢が求められる。	
	英語4B	この授業は外国語における英語科目で、グローバル社会で生きる日本人として英語の能力を身に付ける。本授業では、4技能5領域(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと・やりとりすること)の全てを修得すべき目標としながら、特に、読むこと・書くことの技能に重点を置く。英語で書かれた文・文章を正確に読み解く力、自らの考えを表現する語彙力・文法を学び、「英語3B」で身に付けた英語力を確かなものにする。授業中の学修はもちろんのこと、それと同時間以上の自律的学修に積極的かつ継続的に取り組む姿勢が求められる。	
	ドイツ語3A	本科目は、初級から中級へとステップアップを図る演習科目である。ドイツ語の文章をもとに文法事項の確認を行うことにより、文章の組み立て方を理解していく。本授業では、文構造を理解し、ドイツ語の文を読み進めることができるようになること、さらにドイツ語を用いて短い文章を書くことができるようになることを目標とする。同時に、ドイツ語圏の歴史、文化や社会についての理解を深め、文章を読み、書く場面での習慣を学ぶ。なお、本授業の履修者は、既に「ドイツ語2A」を履修済みであることが望ましい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 言葉で世界につながる	ドイツ語3B	<p>本科目は、初級から中級へとステップアップを図る演習科目である。主にドイツ語の音読、会話、聴き取りを行う。ドイツ語の表現を学び、聴き取る力を身に付けるため、視聴覚メディアを用いて会話の内容を理解する練習を行う。ペアワークを取り入れ、様々な場面を想定してドイツ語で自分自身の具体的な様子を伝える。また会話する相手の気持ちや思っていることを詳しく知ること、お互いに一歩踏み込んで理解しあう力を養う。日本では馴染みのない環境や、ドイツ語圏で想定される状況を学ぶ。その場の状況に応じて対応できるようにドイツの生活に関する知識を深める。</p>	
	ドイツ語4A	<p>本科目は、ドイツ語中級へのステップアップを図る演習科目である。ドイツ語の文章を読むなかで文法事項の確認を行い、文章の組み立て方、文章の流れを理解する。ドイツ語の文章を読んで理解し、内容を要約する練習を行う。またメールや手紙の内容を読む練習を取り入れ、返事を書く際には状況に応じた表現を用いることができるようにドイツ語の理解を深める。メールや手紙などにおける表現を学び、自分が考えていること、伝えたいことをドイツ語で表現する実践練習を行う。なお、本授業の履修者は、既に「ドイツ語3A」を履修済みであることが望ましい。</p>	
	ドイツ語4B	<p>本科目は、ドイツ語中級へのステップアップを図る演習科目である。様々な状況を想定し、主にコミュニケーションを重視した練習を行う。文法事項の確認を行うためのペアワークやアクティビティを取り入れ、学生同士で学び合う機会を用意する。あわせて発音や聴き取り練習を行う。学生には、視聴覚メディアの内容を理解することで、ドイツ語が着実に身に付いていることを実感してもらう。グループワークを通して異文化の理解を深め、授業内で成果発表を行う。本科目では、これまでに学んだ表現に加えて、多様な場面を想定した会話練習を取り入れ、婉曲的な伝え方や丁寧な表現技法を学ぶ。なお、本授業の履修者は既に「ドイツ語3B」を履修済みであることが望ましい。</p>	
	フランス語3A	<p>本演習科目では、「フランス語1A」「フランス語2A」で学んだ学修事項をもとに、初級後半の文法学修を行う。すなわちフランス語での読解・筆記表現を伸ばすことを主な目的とし、基礎的な表現をさらに積み重ねて修得していくことを目指す。教科書以外に実際にフランス語圏で見られるテキストを用い、文化的背景の紹介も適宜行う。「フランス語4A」と合わせて、フランス語検定4級に相当する文法内容を学ぶ。まとまりのある短いテキストを読むことにも着手する。</p>	
	フランス語3B	<p>「フランス語1B」「フランス語2B」で学んだ学修事項をもとに、本科目では、フランス語の聴解・口頭表現の能力を伸ばすことを目的とする。さまざまな視聴覚教材を用いて、徐々にナチュラルスピードに耳が慣れることを目指す。実際の場面に紐付けながら学修をすすめることで、知識の再整理を促し、これまでに学修した基礎的な表現を他の文脈でも応用できる言語使用者になることを目指す。また適宜必要に応じて、新たな文法事項を取り入れ、単純な表現にとどまらず、ニュアンスの違いなども理解・表現できるようになることを目指す。</p>	
	フランス語4A	<p>本科目では、初級後半の文法の仕上げと、中級へのステップアップを目指す。「フランス語1A」「フランス語2A」「フランス語3A」で学んだ、読解・筆記表現を伸ばすことを主な目的とする。基礎的な表現にとどまらず、ニュアンスの違いなども少しずつ理解・表現できるようになることを目指す。教科書以外に実際にフランス語圏で見られるテキストを用い、文化的背景の紹介も適宜行う。最終的には、フランス語検定4級に相当する文法内容を学ぶ。また、フランス語のまとまった文章の読解もすすめる。日常的話題を扱ったテキストであれば、辞書を使いながら時間がかかっても一人で読解できるレベルの自律的な学習者育成を図る。</p>	
	フランス語4B	<p>本科目は、「フランス語3B」に引き続いて、フランス語の聴解・口頭表現の能力を伸ばすことを目的とする。さまざまな視聴覚教材を用いて、徐々にナチュラルスピードに耳が慣れることを目指す。実際の場面に紐付けながら学修をすすめることで、知識の再整理を促し、これまでに学修した基礎的な表現を他の文脈でも応用できる言語使用者になることを目指す。また適宜必要に応じて、新たな文法事項を取り入れ、単純な表現にとどまらず、ニュアンスの違いなども理解・表現できるようになることを目指す。またフランス語圏文化についても、日常レベルにとどまらず社会・時事・歴史的事項なども含めて総合的に紹介する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
現代社会での生き方を考える 言葉で世界につながる 全学共通科目	中国語3A	本授業は、「中国語1A」「中国語2A」で学んだ中国語の基礎の上に立ち、中国語準中級レベルの中国語の語彙を身に付け、会話能力を高めていくことを狙いとする演習科目である。中国語の平易な文章を読み理解し、簡単な中国語会話を行えるように学修を進めていく。「中国語1A」「中国語2A」同様、本授業では、正確な発音と自然なリズムで中国語が話せるよう配慮して授業を進めていく。後期開講の「中国語4A」とあわせ履修することで、中国語検定試験4級から3級のレベルに到達できることを目標としている。	
	中国語3B	本授業は、「中国語1B」「中国語2B」で学んだ中国語の基礎の上に立ち、中国語準中級レベルの中国語の語彙を身に付け、中国語文法の基礎を固めていく演習科目である。本授業では、中国語と日本語や英語との相違点や共通点について解説し、理解を深めていく。とりわけ文法力向上に力点を置き、中国語文の日本語訳に加えて、日本語を中国語で表現する中国語作文にも力を入れていく。後期開講の「中国語4B」とあわせ履修することで、中国語検定試験4級から3級のレベルに到達できることを目標とする。	
	中国語4A	本授業は、これまで学んできた中国語の基礎の上に立ち、中国語の語彙をさらに身に付け、会話能力をよりいっそう高めていくことを狙いとする演習科目である。中国語の平易な文章を読み理解できるだけでなく、中国語を使った簡単なやりとりができる力を身に付けていく。「中国語1A」「中国語2A」「中国語3A」同様、本授業でも、正確な発音と自然なリズムで中国語が話せるよう配慮して授業を進めていく。前期開講の「中国語3A」とあわせ履修することで、中国語検定試験4級から3級のレベルに到達できることを目標としている。	
	中国語4B	本演習科目では、これまで学んできた中国語を文法面から整理し、修得してきた中国語の語彙を活用して、文法的に間違いのない中国語文を作る能力を養う。「中国語1B」「中国語2B」「中国語3B」同様、本授業でも、中国語と日本語や英語との相違点や共通点について解説し、理解を深めていく。とりわけ文法力向上に力点を置き、中国語文の日本語訳はもとより、日本語を中国語で表現する中国語作文にも力を入れていく。前期開講の「中国語3B」とあわせ履修することで、中国語検定試験4級から3級のレベルに到達できることを目標とする。	
	韓国語3A	本演習科目は、「韓国語1A」「韓国語1B」「韓国語2A」「韓国語2B」で学んだことを踏まえて、様々な文法事項の学修を行い、「聞く、話す、読む、書く」の能力を総合的に伸ばすことを目標とする。初級文法の復習からはじめ、さらにより豊富な文法や表現を学修するが、本授業においては、基本的な会話文や、文法事項の説明及び練習問題等に比重を置く。既に学修済みの基本的な文法事項を活かし、新たに用言の連体形や活用用言、尊敬過去形を体系的に学び、また、自習用の学修動画や視聴覚資料を有効活用し、より洗練された表現、語彙を増やし、練習を繰り返して定着を図る。応用練習中心の「韓国語3B」と連携することで、効果的な学修が期待される。韓国語学修を通して、韓国語、韓国文化への理解を深め、多文化共生・異文化理解への基礎的かつ幅広い教養を身につける。	
	韓国語3B	本演習科目は、「韓国語1A」「韓国語1B」「韓国語2A」「韓国語2B」で学んだことを踏まえて、様々な表現の応用練習中心の学修を行い、「聞く、話す、読む、書く」の能力を総合的に伸ばすことを目標とする。初級で学んだ表現の復習からはじめ、待遇表現、会話での丁寧さ、相づちなど、さらにより豊富な文法や表現を学修するが、本科目においては、学修した表現や語彙を用いた作文、読解、会話練習を通して修得することを目指す。文法の説明と練習問題中心の「韓国語3A」と連携することで、効果的な学修が期待される。韓国語学修を通して、韓国語、韓国文化への理解を深め、多文化共生・異文化理解への基礎的かつ幅広い教養を身につける。	
	韓国語4A	本演習科目は、韓国語3A/Bで学んだことを踏まえて、豊かな文法事項の学修を行い、「聞く、話す、読む、書く」の能力を総合的に伸ばすことを目標とするが、文法事項の説明及び練習問題等に比重を置く。本科目では、一連の不規則用言の活用、様々な場面での豊かな表現を、各課の会話文と文法事項の説明、豊富な練習問題を通して学修する。応用練習中心の「韓国語4B」と連携することで、効果的な学修が期待される。2年間の韓国語学修により、基本的な韓国語の文章や話が理解でき、表現する力を身につけることができる。韓国語学修を通して、韓国語、韓国文化への理解を深め、多文化共生・異文化理解への基礎的かつ幅広い教養を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 言葉で世界につながる	韓国語4B	本演習科目は、韓国語3A/Bで学んだことを踏まえて、より洗練された表現の学修を行い、「聞く、話す、読む、書く」の能力を総合的に伸ばすことを目標とする。本授業では、不規則用言の活用及び、様々な文型を組み合わせた表現ができるように、作文、読解、会話練習を繰り返す。文法の説明と練習問題中心の「韓国語4A」と連携することで、効果的な学修が期待される。2年間の韓国語学修により、自分の考えや感想を韓国語の自然な表現で表し、まとめる力を養うことができる。韓国語学修を通して、韓国語、韓国文化への理解を深め、多文化共生・異文化理解への基礎的かつ幅広い教養を身につける。	
	スペイン語3A	スペイン語を通して、自分とは異なる存在に目を向けることにより、多様化する社会に対応するための態度・教養を身につける。そして多角的な視野を持って物事を判断できる人格を育み、それを日本語のみならず、外国語でも実践可能とするための言語能力の基盤を作ることを目標とする。この授業では、スペイン語の初級文法を学んだ学生を対象に、スペイン語でコミュニケーションをとるために必要となる中級文法を学習する。また言語知識のみならず、スペイン語を学ぶことを通して、世界の多様性を意識し、自らの視野を広げるきっかけとなるよう、スペイン語を話す国々についても取り上げ、さらに言語を使用する上で必要不可欠となるスペイン語圏の社会文化的背景についても紹介する。	
	スペイン語3B	将来国際化に対応する幅広い視野と多様性を受け入れる創造的思考力及び判断力を修得して、地域社会の発展に寄与しながら、国際社会の発展にも貢献するために、まずは実生活に必要なスペイン語でのコミュニケーション能力向上を目指す。「スペイン語3A」で習得する文法の基礎知識を活用して「聴く」そして「話す」能力のトレーニングに重点を置いた科目である。そのため、リスニング、ペアワークやグループワークなどのアクティビティを通してスペイン語を学んでいく。テキスト以外にも映像教材や音声教材も適時使用する。	
	スペイン語4A	スペイン語を通して、自分とは異なる存在に目を向けることにより、多様化する社会に対応するための態度・教養を身につける。そして多角的な視野を持って物事を判断できる人格を育み、それを日本語のみならず、外国語でも実践可能とするための言語能力の基盤を作ることを目標とする。この授業では、「スペイン語3A」に引き続き、スペイン語でコミュニケーションをとるために必要となる中級文法を学習する。また言語知識のみならず、スペイン語を学ぶことを通して、世界の多様性を意識し、自らの視野を広げるきっかけとなるよう、スペイン語を話す国々についても取り上げ、さらに言語を使用する上で必要不可欠となるスペイン語圏の社会文化的背景についても紹介する。	
	スペイン語4B	学習したスペイン語文法の知識を確実なものとしながら、引き続き、国際化に対応する創造的思考力及び判断力を修得し、地域社会と国際社会の発展に寄与することを目指すため、実生活に必要なスペイン語でのコミュニケーション能力向上を目指す。「スペイン語4A」で習得する文法の基礎知識を活用して「聴く」そして「話す」能力のトレーニングに重点を置いた科目である。そのため、リスニング、ペアワークやグループワークなどのアクティビティを通してスペイン語を学んでいく。テキスト以外にも映像教材や音声教材を適時使用する。	
	実践英会話1	本科目では、外国語科目「英語」の授業で身に付けた大学英語の基礎力を使って、実践的な会話能力を養成することを目指す。目標とする技能は、英語でコミュニケーションが図れるようにすることである。自然な口調で話された英語を理解し、基本的な会話表現を用いて適切な発音やイントネーションにより応答できる英語表現力を身に付ける。授業では、実践的な場面として大学生活などで必要な会話表現や語彙を扱う。また、海外旅行の場面などで交わされる会話も扱う。	
	実践英会話2	本科目では、「実践英会話1」で身に付けた英語を使って、より実践的な会話能力を養成することを目指す。目標とする技能は、英語を用いて正確でより流暢にコミュニケーションを行うことである。自然な速さで話された英語を正しく理解し、適切な表現や発音、イントネーションによりすばやく応答できる力を身に付ける。この授業では、実践的な場面として社会生活などで必要な会話表現や語彙、口語文法を扱う。また、海外生活の場面などで交わされる高度な会話も扱う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	現代社会での生き方を考える 言葉で世界につながる	実用英語1	本科目では、実用性に重点を置き、様々な資格英語教材を使って、外国語「英語」科目で身に付けた英語から、さらに実践的で正確な英語力を養成することを目指す。目標とする技能は、いわゆる4スキルズ(リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング)の英語の実用技能である。本授業では、特にリスニング力・リーディング力を重点的に養うこととするが、これらの学修を通じて、スピーキングやライティング能力の向上にもつながるよう、英語表現や発音の解説を適時行う。	
		実用英語2	本科目では、実用性に重点を置き、様々な資格英語教材を使って、「実用英語1」で身に付けた英語から、さらに実践的で正確な英語を養成することを目指す。目標とする技能は、いわゆる4スキルズ(リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング)の英語の実用技能である。本授業では、特にスピーキングとライティングを重点的に扱うが、スピーキング能力を測る検定試験も増えていることから、統合的・総合的に実用英語と資格英語を扱う。	
		中級ドイツ語1	本科目は、ドイツ語の初級文法を既に修得した学生を対象とし、「習うドイツ語」から「使うドイツ語」を指向する演習科目である。日常の様々な場面を想定した会話表現の獲得に重点を置く。さらに高度な文法知識を得ると同時に、生のドイツ語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。ドイツ語を話す人たちの社会、歴史、文化、生活様式などにも目を向け、ドイツ人の考え方や発想の仕方を学び、国際的視野を涵養する一歩とする。	
		中級ドイツ語2	本科目は、ドイツ語の基礎の学修を終えた学生を対象とし、テキストの読解練習を通して文章を理解する力を身に付ける演習科目である。ドイツ語圏の文化を扱った短い文章を読むことで、基礎的な語彙と文法の定着を図る。とりわけ「住まい」や「学校生活」など、ドイツ語圏の人々の生活文化をテーマとした様々な文章を丁寧に読み進める。また「ドイツ語技能検定試験」や「ゲーテ・ドイツ語検定試験」及び「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験」の合格を目指す。	
		上級ドイツ語1	本科目は、ドイツ語の基礎及び中級の学修を終えた学生を対象とし、状況に応じた表現を使うことができるよう、ドイツ語の運用能力を伸ばす科目である。メール及び手紙をテーマに文章を書く力を養う。丁寧な表現方法を学ぶとともに、自分の意思を伝える能力を高める。さらに、手紙等を作成する課題を通して、相手を思いやる表現を身に付けることを目指す。丁寧な依頼などを表現するために、接続法を用いた文を使用する練習を行う。	
		上級ドイツ語2	本科目では、ドイツ語の基礎及び中級の学修を終えた学生を対象とし、ドイツ語の文章を精読する。物語では、接続法や過去形が多用されるため、読解を通して文法、語順などの確認を行う。雑誌、新聞などを扱い、これまでに学んだ語彙や文法の定着を図る。その後文章の内容を要約する練習を行うことにより、理解力と表現力の向上を目指す。また、「ドイツ語技能検定試験」や「ゲーテ・ドイツ語検定試験」及び「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験」を視野に入れて短い発表形式の演習を行う。	
		中級フランス語1	本科目は、これまでの学修事項を踏まえて、フランス語の運用能力をさらに高め、中級レベルに引き上げること目的とする。身近な話題や関心のある話題について、自分の意見を述べたり、必要に応じてコミュニケーションを取り続けられるようになることを目指す。そのためにさまざまな視聴覚教材を活用し、基礎表現を踏まえた応用を身につけ、表現のバリエーションを増やし、TPO にあった適切な表現ができるようになることを目指す。また何か困難が生じたときにフランス語で状況を打開するための言語能力を養う。まとまったテキストを読む訓練も行う。	
中級フランス語2	本科目は、「中級フランス語1」に引き続いてフランス語の運用能力を中級レベルに引き上げること目的とする。身近な話題や関心のある話題について、自分の意見を論理立てて述べたり、必要に応じてコミュニケーションを取り続けられるようになることを目指す。そのためにさまざまな視聴覚教材を活用し、基礎表現を踏まえた応用を身につけ、表現のバリエーションを増やし、まとまった文章としての構造を意識しながらTPO にあった適切な表現ができるようになることを目指す。また何か困難が生じたときにフランス語で状況を打開するための言語能力を養う。まとまったテキストを読み、大意をつかむ速読訓練も続けて行う。			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 言葉で世界につながる	上級フランス語1	本演習科目では、「中級フランス語1」「中級フランス語2」に引き続き、多様なフランス語表現に触れることで、特にフランス語の理解力を深めることを目的とする。具体的には、フランス文化に関するまとまった少し長い文章を読み、表現のニュアンスの違いや、フランス語独特の論の運び方について学ぶ。文章を深く理解するために、毎時間訳読が課される。また背景のフランス文化についても、学生自身で調べてくることを求める。中級では速読能力を身につけることを目指していたが、「上級フランス語1」ではテキストを正確に理解すべく、精読能力の向上を図る。	
	上級フランス語2	本科目は、「上級フランス語1」に引き続き、多様なフランス語表現に触れることで、特にフランス語の理解力を深めることを目的とする。具体的には、フランス文化に関するまとまった少し長い文章を読み、表現のニュアンスの違いや、フランス語独特の論の運び方について学ぶ。「上級フランス語2」では扱うテキストの範囲を広げ、一般的な書物から専門分野へのイントロダクションにあたる文章までとし、テキストによって速読能力と精読能力の両方を身につけることを目指す。文章を深く理解するために、毎時間訳読が課される。また背景の知識についても、ある程度は学生自身で調べてくることを求める。学生には、知識を受け入れて詰め込むことよりも、知識を自ら広げていくことを求める。	
	中級中国語1	本授業は、初級中国語を履修した上で、これまでに修得した中国語の基礎を活かしつつ、漢語水平考試(HSK)3級～4級、中国語検定試験4級～3級レベルの語学力を身に付けることを目標とする。また、HSKや中国語検定試験、中国留学を積極的に支援する。そのために、発音、単語、基本文型をしっかり把握し、「聴く」「読む」だけでなく、「話す」「書く」機会を増やした授業を行う。さらに、言語の根底にある文化に対する理解を深めるために、中国の最新事情や最新用語などの解説も行い、絶えず知識の更新を目指す。	
	中級中国語2	本授業は、「中級中国語1」に続き、漢語水平考試(HSK)3級～4級、中国語検定試験4級～3級レベルの語学力を身に付けることを目標とする。さらなるステップアップを図り、会話においては、より豊かな表現ができるように、文章の読解や作文においては、より複雑な文型が使えるように、練習の機会を増やした授業を行う。常に生きている中国語を学ぶことができるよう、その時々話題を取り上げ、中国で起きていることを通して、言語に対する理解を深める。	
	上級中国語1	本授業は、「中級中国語1」「中級中国語2」を履修した上で、漢語水平考試(HSK)や中国語検定試験の難関に挑戦し、HSK5級～6級、中国語検定試験2級～1級レベルの語学力を身に付けることを目標とする。そのために、過去問題集に基づくトレーニングや、中国メディアで取り上げられるその時々話題をめぐる議論などを通して、中国語の構造や中国文化の特徴を把握し、いかなる場面にも対応できる中国語のコミュニケーション能力を養い、留学はもちろん、就職にも役に立つ実用レベルの中国語の修得を目指す。	
	上級中国語2	本授業は、「上級中国語1」に続き、漢語水平考試(HSK)5級～6級、中国語検定試験2級～1級レベルの語学力を身に付けることを目標とする。高度な中国語を身に付けるよう、語彙が多様なニュース、表現が豊富な映画やドラマも教材として使用する。さらに、翻訳や通訳の作業を通して、それらの内容をどこまで理解しているかを検証し、学んだ知識を完全に把握し、活用できるようになるまで練習を繰り返し、中国語を「できる」レベルから「駆使する」レベルに向上させる。検定試験に留まらず、実用にも十分堪える語学力の修得を目指す。	
	中級韓国語1	本授業は、「韓国語1A」から「韓国語4B」までの学修を終えた学生を対象とし、語彙、文法、表現の増強を図り、実践的に表現しうる能力を養う科目である。用言の活用の様々なタイプに習熟し、話しことばと書きことば、敬意体と非敬意体、連体形や接続形、引用形などの様々な文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充を図り、より洗練された談話表現の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。授業では、マルチメディア教材を用い、生きた表現を学び、コミュニケーション能力を養成する。韓国語の学修を通して、韓国語、韓国文化への理解を深め、多文化共生・異文化理解への基礎的かつ幅広い教養を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 言葉で世界につながる	中級韓国語2	<p>本授業は、韓国語の基礎と初級レベルの学修を終えた学生を対象とし、会話力と作文力を実践的な練習を通して身に付ける演習科目である。まず、発音の練習を徹底して繰り返す。次に、会話における「場」の重要性を認識し、いつ、どこで、誰と、何を、どのように、なぜをどの言葉を用いて話すのか常に意識し、やり取りする練習を行う。また、自分の考えや感想を韓国語の自然な表現で表し、まとめる力を養う。会話、読解、作文の練習を通して、基礎的な語彙力の拡充と実践的な表現力を増強する。授業では、マルチメディア教材を用い、生きた表現を学び、コミュニケーション能力を養成する。韓国語の学修を通して、韓国語、韓国文化への理解を深め、多文化共生・異文化理解への基礎的かつ幅広い教養を身につける。</p>	
	上級韓国語1	<p>本演習科目は、「中級韓国語1」「中級韓国語2」の学修を終えた学生を対象とし、より豊かで自然な韓国語表現力を養うことを目標とする。日本語と韓国語の対照言語学的な観点も考慮に入れ、両言語の類似点と相違点に気付き、さらに直訳では不自然な高度な表現の修得にも力を注ぐ。会話、読解、作文の練習を通して、基礎的な語彙力の拡充と実践的な表現力を増強する。授業では、マルチメディア教材を用い、生きた表現を学び、コミュニケーション能力を養成する。韓国語の学修を通して、韓国語、韓国文化への理解を深め、多文化共生・異文化理解への基礎的かつ幅広い教養を身につける。</p>	
	上級韓国語2	<p>本科目は、「中級韓国語1」「中級韓国語2」の学修を終えた学生を対象とし、より豊かで自然な韓国語でのコミュニケーション能力を養うことを目標とする。まず、聞き取りや会話練習に重点を置き、テキストでの学びの他に、マルチメディア等を題材にし、様々な表現を学び、応用できる練習を行う。また、様々なテーマに対する作文を課題にし、自分の考えや主張等を効果的に伝えるための文章力を養う。韓国語の学修を通して、韓国語、韓国文化への理解を深め、多文化共生・異文化理解への基礎的かつ幅広い教養を身につける。</p>	
	中級スペイン語1	<p>国際化に対応する幅広い視野と多様性を受け入れる創造的思考力及び判断力を修得し、地域社会の発展に寄与しつつ、国際社会の発展にも貢献するために、実生活に必要なスペイン語でのコミュニケーション能力向上を目指す。加えて、自分とは異なる存在に目を向け、多様化する社会に対応するための態度・教養・言語能力を身につけ、多角的な視野を持って物事を判断できる人格を育むことを目標とする。今まで学んできた文法知識・コミュニケーション能力を踏まえ、また更に拡張しつつ、「聴く」「話す」能力のトレーニングに重点を置いた演習である。そのため、リスニング、ペアワークやグループワークなどのアクティビティを通してスペイン語を学んでいく。購入テキスト以外にも映像や音声も適時使用する。</p>	
	中級スペイン語2	<p>国際化に対応する幅広い視野と多様性を受け入れる創造的思考力及び判断力を修得し、地域社会の発展に寄与しつつ、国際社会の発展にも貢献するために、実生活に必要なスペイン語でのコミュニケーション能力向上を目指す。加えて、自分とは異なる存在に目を向け、多様化する社会に対応するための態度・教養・言語能力を身につけ、多角的な視野を持って物事を判断できる人格を育むことを目標とする。「中級スペイン語1」に引き続き、今まで学んできた文法知識・コミュニケーション能力を踏まえ、また拡張しつつ、「聴く」「話す」能力のトレーニングに重点を置いた演習である。そのため、リスニング、ペアワークやグループワークなどのアクティビティを通してスペイン語を学んでいく。テキスト以外にも映像教材や音声教材も適時使用する。</p>	
	上級スペイン語1	<p>国際化に対応する幅広い視野と多様性を受け入れる創造的思考力及び判断力を修得し、地域社会の発展に寄与しつつ、国際社会の発展にも貢献するために、実生活に必要なスペイン語でのコミュニケーション能力向上を目指す。加えて、自分とは異なる存在に目を向け、多様化する社会に対応するための態度・教養・言語能力を身につけ、多角的な視野を持って物事を判断できる人格を育むことを目標とする。今まで学んできた文法知識・コミュニケーション能力を踏まえつつ、「読む」「聴く」「話す」を含む総合的なコミュニケーション能力のトレーニングに重点を置いた演習である。本科目では主に、ペアでの通訳練習などのアクティビティを通してスペイン語を学んでいく。テキスト以外にも映像教材や音声教材も適時使用する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 言葉で世界につながる 多摩に学ぶ	上級スペイン語2	国際化に対応する幅広い視野と多様性を受け入れる創造的思考力及び判断力を修得し、地域社会の発展に寄与しつつ、国際社会の発展にも貢献するために、実生活に必要なスペイン語でのコミュニケーション能力向上を目指す。加えて、自分とは異なる存在に目を向け、多様化する社会に対応するための態度・教養・言語能力を身につけ、多角的な視野を持って物事を判断できる人格を育むことを目標とする。「上級スペイン語1」に引き続き、今まで学んできた文法知識・コミュニケーション能力を踏まえつつ、「読む」「書く」「聴く」「話す」を含む総合的なコミュニケーション能力のトレーニングに重点を置いた科目である。特に言語ないことばとしてのスペイン語そのものをテーマとして扱いつつ、スペイン語を用いたコミュニケーションそのものについての批判的・多角的な思考法を学んでいく。	
	海外語学研修A	本科目は、本学と提携協定を結んでいる海外大学等の語学研修プログラムに参加し、現地での研修を受講するとともに、本学で実施する事前・事後研修を併せて受講し、各言語の基礎的なコミュニケーション能力を高めることを目的とする。予め学内において、授業時間数が60時間以上のプログラムを選定し、学生は希望するプログラムを選択する。各プログラムは語学に関する授業のほか、渡航先の社会や文化を学ぶ授業も用意されている。授業の実施に当たっては、渡航前に学内で事前研修を行い、言語学習をはじめとする留学における留意点をはじめ、文化や生活習慣など、現地で生活する上での基礎的な知識を修得させる。渡航後、学生は報告レポートを作成し、学内報告会において成果発表を行う。	
	海外語学研修B	本科目は、「海外語学研修A」を履修した学生を対象に開講する2回目の語学研修プログラムである。「海外語学研修A」同様に本学と提携協定を結んでいる海外大学等の語学研修プログラムに参加し、現地での研修を受講するとともに、本学で実施する事前事後研修を併せて受講し、外国語のコミュニケーション能力をさらに高めることを目的とする。予め学内において、授業時間数が60時間以上のプログラムを選定し、学生に2回目の語学研修としてふさわしいプログラムを選択させる。学生にはより高い研修目標を設定させ、語学力はもとより、異文化理解を深めさせる。授業の実施に当たっては、渡航前に学内で事前研修を行い、渡航後、学生は報告レポートを作成し、学内報告会において成果発表を行う。	
	多摩と生活	<p>(概要) 本科目では、明星大学が位置する多摩地域の特徴を自然環境と歴史、文化の角度から読み解く。歴史については古代、中世、近世、近代と概観し、その歴史を成り立たせている地域の環境とその利用について、自然と生活文化の側面から捉え直す。最後に、本学の所在地である日野市との連携として、全国的にも知られる日野市の図書館運動にも触れる。学生たちが多摩地域を身近なものとして認識し、興味をもつことにより、地域と連携した他の授業科目への意欲を高めることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(41 小林一岳／5回) 多摩地域の歴史的な成り立ちについて、古代から近代まで日本史の中に多摩地域を位置づけながら見通す。</p> <p>(46 篠山浩文／2回) 多摩地域における醸造文化など農芸化学を活用した生活文化について考察する。</p> <p>(69 秀村研二・92 土野瑞穂／3回) 多摩地域の交通網整備やニュータウン開発を題材に、多摩地域における開発と生活の関係について考察する。また、日野市の図書館運動についても扱う。</p> <p>(90 高橋珠州彦／3回) 多摩地域における地形や気候などの自然条件を概観したうえで、多摩地域の産業や生活文化について考察する。</p> <p>(41 小林一岳・46 篠山浩文・69 秀村研二・92 土野瑞穂・90 高橋珠州彦／2回)(共同) 本科目担当教員の共同により、歴史・地理・生活文化といった多角的な視点で多摩地域を捉え、学生の身近な地域への興味関心を喚起する。</p>	オムニバス方式、共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	現代社会での生き方を考える	多摩を歩く	多摩は様々な顔を持つ地域である。鉄道沿線に広がる郊外住宅地や大型店が集中する市街地ばかりではなく、山梨県や神奈川県、埼玉県へとつながる険しい山間地、大消費地に近接することで農業が盛んな地域など、多摩地域を面的に捉えることはできない。これらの多摩地域の持つ様々な特性は、多摩の持つ豊かな自然環境の上に成り立っている。本授業では、地形図や関連資料を通して、多摩の地形と歴史・文化、産業、生活などとの関係を考察し、地誌学的観点から、多摩のもつ多様性に関する知見を得ることを目的とする。	
		多摩と自然	東京都の西部に位置する多摩地域は豊かな自然が広がる地域であると同時に、歴史的にはその自然を利用し、あるいは克服する過程を経てきた。本講義では、多摩の自然環境が形成された過程や、多摩の自然が持つ多様性を理解した上で、多摩に生きる人々がそれらの自然環境をどのように利用し克服してきたのか、地学的観点から人間の諸活動と関連させながら考察する。授業では、必要に応じて国土院発行地形図や映像資料などを用い、読図作業や景観写真の読み取りなどの作業を伴った活動を行う。	
		多摩に学ぶ	(概要) 本科目は、大学という存在を明星大学を通して考えていく。明星大学は大学創設時に「健康・真面目・努力」という校訓を掲げている。この言葉の真意を理解するためには、明星大学設立時の社会的背景を知らなければならない。本科目では、まず明星大学創設の歴史を紐解きつつ、「健康・真面目・努力」という校訓がなぜ設定されたのかについて講義していく。次に明星大学の特徴を確認した上で、現代における大学の役割、そして大学での教育のあり方について考えていく。講義全体の最後には、まとめとして科目担当責任者が、大学史と明星大学の特徴を踏まえつつ、大学というものがこの先どのような機関であるべきかについて提示する。 (オムニバス方式／全15回) (88 佐藤洋／5回) 「健康・真面目・努力」という校訓から明星大学の理念を考えつつ、健康、真面目、努力の本質的な意味について講義していく。 (94 濱野喬士／5回) 明星大学設立の社会的背景について講義するとともに、「健康・真面目・努力」という校訓を哲学的に分析することで明星大学の大学としての特徴を浮かび上がらせる。 (26 上坂保仁／5回) 大学はどのようにして発展してきたのかや、現代における大学及び大学での教育の意義について講義を行いつつ、明星大学の理念や社会的な立場について講義する。	オムニバス方式
		大学論		
健康に生きる	体育スポーツ科学実践A	本科目は、各種身体活動あるいはスポーツ実践を通して、次のことを身に付けることを目標としている。(1)心と体の健康に目を向ける。(2)生涯を通して自身の身体と付き合っていくための実践的知識を身に付ける。(3)自身の身体と付き合っていくこと、および他者とやりとりするための実践的な能力を身に付ける。これらの目的を達成するために、各種実技種目を用いる。取り扱う種目は、次のとおりである。サッカー、バドミントン、ボディアワーク、リズムエクササイズ、ユニバーサルスポーツ、ソフトボール、卓球、ウォーキングエクササイズ、水泳・スクーバダイビング、アウトドアアクティビティ、ボクササイズ等。		
	体育スポーツ科学実践B	本科目は、各種身体活動あるいはスポーツ実践を通して、次のことを身に付けることを目標としている。(1)心と体の健康に目を向ける。(2)生涯を通して自身の身体と付き合っていくための実践的知識を身に付ける。(3)自身の身体と付き合っていくこと、および他者とやりとりするための実践的な能力を身に付ける。これらの目的を達成するために、各種実技種目を用いる。取り扱う種目は、次のとおりである。バスケットボール、柔道、硬式テニス、軟式野球、バレーボール、ウォーキングエクササイズ、フットサル、スキー、スノーボード、コンディショニングエクササイズ等。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える	現代スポーツ論	現代スポーツは、政治・経済・社会情勢と密接に関わりながら変化している。人々はメディアを通じて現代スポーツの華やかな表舞台を知っているが、その裏に様々な背景・思惑があるということにどれくらい自覚的だろうか。このような現実を理解するために、本講義では、現代スポーツの機能・役割を理解すること、そして現代スポーツに関連して語られる「国際貢献」「女性スポーツ」「パラスポーツ」「トップアスリート」「ボランティア」「文化・芸術」「産業化」「メガ・イベント」などのキーワードを取り上げて展開する。本講義を通じて、現代スポーツの現実・現状・実態を捉える力、また客観的且つ俯瞰的に考えることができる力の涵養を目指す。	
	健康に生きる	(概要)本科目では、歴史、社会、哲学など多角的な視点から「身体」とは何かについて考える。講義の枠組みの中で、講義の内容の理解を深めるワークなどの方法も随時取り入れる。その結果、われわれが生きていることと身体によるその条件付けについて把握し、身体が変わることに伴って世界の認識や生き方がどう変わるのかについて考察する。その際、人々の無意識の枠組みを形成している心身の二元的な見方についても批判的に検討を加え、身体は単なるものではなく、われわれは身体と生きていることを学ぶ。さらに、身体論についての基礎理論を理解した上で、講義全体の最終回には、科目担当責任者が身体論についてまとめつつ、身体論が応用されている諸領域(医療、介護、福祉、教育のケアなど)への展開について概観する。 (オムニバス方式/全15回)	
	身体論	(41 小林一岳/3回) 身体について、歴史および社会の視点から講義する。具体的には、『監獄の誕生』を読み解きつつ、身体刑の日欧比較を行う。また、文化における身体の位置づけおよび役割について、芸能や供犠を例にあげて講義する。 (81 鋳物美佳/6回) 身体について、哲学とりわけ現象学の立場から講義する。その際、心身の二元的な見方についての批判的検討を中心に据える。さらに、身体と世界認識との関係性について議論を深める。議論の際に具体的な事象として「稽古」を取り上げ、身体と世界とのかかわりの変容について理解を深める。 (91 田中愛/6回) 身体論の応用領域の中でも、とくに他者とのかかわりが焦点化される領域(「教育」および「ケア」の領域)において身体がどのように捉えられ、その見方がどのように生かされているかについて講義する。	オムニバス方式
考えを広げる(知識を知恵に①)	物理学で読み解く世界	重さの異なる物体、例えば直径のほぼ等しいビー玉とピンポン玉を同じ高さから落としたら、どちらが先に地面に到達するだろうか。こう受講者に尋ねたとする。物体の大きさがほぼ同じならば、重さの重いビー玉の方が当然先に地面に到達すると、人は経験的に知っているのもそう答えるだろうか。では空気抵抗のない真空状態でこの操作を行ったらどうなるだろうか。例えばこのような問いかけは、重力による物体の運動に関するものだが、このように受講者に対して疑問を投げかけ、本題に入っていくというような形式で講義を展開する。自然界で起こっている物理現象や物理法則について、何故そうなるのか受講者に対して問題提起をした後に講義を進める。	
	生活の中の化学	化学は自然科学の中で様々な物質の構造、性質や反応を学ぶ学問である。化学物質は私たちの生活を豊かにし、快適な生活を維持していくためには欠かせないものである。本講義では、これまで化学を履修していない学生あるいは高校での履修内容を再確認したい学生でも学びやすいよう、大学での化学関連科目を学ぶための基礎知識となる物質の構成を中心に学ぶ。原子の構造、元素の種類と原子中の電子配置との関係、化学結合の種類と特徴を関連付けて学び、物質は原子と分子から成り立っていることを理解することを目標とする。	
	生物学から見える世界	私たちの暮らす地球には多様な生物が生存している。その様な中で、微生物は微小なために普段はその実体を意識することはないが、酒類や発酵食品の生産、あるいは病気の原因と、我々の生活全般に大きな影響を与えている。本科目では、細菌類およびウイルスを中心に、感染症の現状や対策を含め、分類、利用方法、代謝等を学ぶ。微生物の世界は多様性にあふれていること、微生物を原因とする感染症の拡大は人類の歴史と大きく関係していることを理解することを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	現代社会での生き方を考える (知識を知恵に①)	地球惑星学	本科目の目的は二つある。一つ目は、地球惑星科学の基礎を学び理解することである。「地球表層、マントル、コアのダイナミクス」すなわち「プレートテクトニクス理論」と「プルームテクトニクス理論」の概要と原理を学ぶ。二つ目は、「宇宙の誕生と歴史」「地球史」について学ぶことである。特に地球誕生から46億年かけて形成した気圏、水圏、地圏、生物圏における物質、エネルギー循環とその相互作用について学び、地球を一つのシステムとして捉え、地球環境の変動メカニズムについての概要と原理を興味関心を持って学び理解することを目標とする。	
		数学で社会を見る	本科目では、三角関数や微分・積分などの数学が身近な生活の中でどのように使用されているのかについて講義するとともに、その使用方法についても確認していく。例えば、三角関数はプログラミングで使用され、微分・積分は、ものの動きを予測するのに不可欠である。講義の中では具体的に三角関数、指数関数、対数関数の定義や性質、逆関数や有理関数、微分積分学の基礎、平面・空間のベクトル、その演算、ベクトル方程式、行列の定義と演算、連立一次方程式と行列、行列の階数、行列式の定義と性質などを学修しつつ、これらが実際に社会のどのような場面で使用されているのかを紹介する。	
		科学技術が作り出す世界	自然科学と職人が担ってきた技術が結びついて生まれた科学技術は私たちの生活を一変させた。世界人口の増加に伴った生活需要の高まりを科学技術の進歩が支えているのが現状である。科学技術の中で特に化学の進展は増え続ける世界人口を支える食糧増産を可能にしたが、その一方で環境汚染をはじめとした多くの問題が生じている。本科目では、化学物質の利用に視点を当てて、その利用による世界の変容を学ぶ。特に、食糧生産を支える農業や食品への化学物質の利用や、食糧生産を通じた生態系への化学物質の混入による負の側面を学ぶ。化学物質を食糧生産に使用した社会的背景を念頭に、化学物質利用の実態と世界への影響を理解することを目標とする。	
		私たちの暮らしと環境科学	産業革命以降、自然科学は職人が担ってきた技術と結びつき、科学技術として経済成長の原動力となった。科学技術の発展に伴って私たちの生活が豊かになる一方で、負の側面として環境汚染の問題が生じている。本科目では、私たちの生活環境で生じている環境汚染、特に海洋や河川・湖沼などでの水環境汚染と、地球温暖化につながる大気汚染の現状等を学ぶ。環境汚染が進行した社会的背景を念頭に、汚染の現状とその対策を理解することを目標とする。	
		現代社会と工学	18世紀半ばから起こった産業革命とは、工学における技術革新であったと言ってもよいだろう。石炭を利用した蒸気機関を開発し、海上では船舶の遠洋航海を可能とし、諸外国との貿易を発展させた。また鉄道により陸上での物資の移送や人々の移動を加速させた。それらは現代では航空機に取って代わり、陸上での移動は自動車であり、これらは石油をエネルギー源とした内燃機関を動力源としている。このような技術革新はわれわれの社会生活を豊かにしては来たが、同時に地球温暖化という現代社会の危機を生み出してきてしまった。そこで世界は、SDGs(持続可能な開発目標)という17の目標を制定し、発展を続けながらも人類が存続していくことを目指している。本科目では、前述した技術革新の歴史を含め、リニヤモーターを利用した高速鉄道、内燃機関に替わる燃料電池と電気自動車、地球にやさしい再生可能エネルギー、AI(人工知能)を用いた技術などについて講義する。	
		情報の活用と倫理	本講義では、情報を活用する上での情報倫理(モラル)や、情報機器及び情報通信ネットワークの機能など基本的知識や能力を修得し、情報通信社会において生じている諸問題(倫理的問題や犯罪)に対応できることを目標とする。また、ワープロソフトや表計算ソフトなどを用いて、情報を適切に収集・加工・表現するまでの基礎的な技能や知識を学修することで、コンピュータを道具として使えるようにするための基礎的な素養を養うことを目標とする。	
		地理学で知る生活・文化・環境	本科目は、人文地理学と自然地理学の研究成果を通じて、地球上で生活する我々の生活や文化、環境について理解を深めることを目的とする。現代社会に内在する諸課題は、その要因を人文・自然の諸要因に明確に分けることが困難である。そのため本科目では、「集落」「食文化」「観光」「災害」といった身近なテーマを取り上げ、それらがどのような構造的特色をもって成立しているのかを問うていく。また、主に日本列島を事例地として取り上げ、景観から地域を読み解く手法を取り入れることにより、学修者が将来各自の専門性を深め、地域的諸課題や環境問題に取り組む足がかりを得られるよう配慮する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えを広げる（知識を知恵に①）	現代社会の仕組み	この授業科目は、まず、社会学的なものの方や考え方を学び、現在の日本が抱える社会問題について考察する講義科目である。具体的には、ジェンダー、性別役割分業、男女共同参画社会、性にかかわる諸問題、近代家族と家族の変容、未婚化・晩婚化、少子化、高齢化、介護と社会保障について取り上げる。これらの問題の考察を通じ、私たちを取り巻く社会がどのような仕組みを持ち、その中で私たちがどのように生きていくのかを考える機会とする。また、ダイナミックに変化している社会の現状についても学修していく。具体的には、現代社会の成立、経済のグローバル化、人の移動のグローバル化、グローバル化の進展とその行方、エスニシティの政治問題化、移民、難民、日本社会の外国人住民について取り上げる。これらの問題の考察を通じ、グローバルな社会の仕組みを理解し、変容する社会の中でどのように生きていくのかを考える機会とする。	
	政治学から見える社会	現在日本の政治をめぐる課題の一つに、「女性が少ないこと」がしばしば指摘されてきた。「女性が少ない」ということは何を意味するのだろうか。また、女性を政治の世界に組み込みさえすればよいのだろうか。本科目は、主に日本の政治に焦点を当て、「政治とジェンダー」というテーマのもとで進めていく。具体的には、政治学の基礎概念・理論を学んだ後に、政治参加、政治的代表制といった事象をジェンダーの視点から考え、政治を多角的に分析できる視野を培うことを目指す。	
	国際関係を読み解く	ニュースや新聞で見聞きする国際関係は「ある国の政府」が主体となった問題や事件が多いが、国際関係を動かしているのは、政府だけではない。私たち一人ひとりの行動も世界に大きな影響を与えている。また、激動の時代において、一国だけでは対処できない問題が増えている。本科目では、「国家」「企業」「NGO」「日常を生きる人々」の視点から、国際関係を多角的に捉え、自分自身の問題として様々な国際問題を考える視点を養うことを目指す。	
	社会に生きる私たちの人権	自分の思いを自由に表現し、学びたいことを学び、好きな人と結婚し、病気になったら医療を受けることができ、不当な差別を受けないこと。これらは私たちが人間らしく生きるために必要な権利だ。しかし、これを「あたりまえ」だといえるようになったのは70年ほど前のことにすぎない。いまでも、自由や公正や命を脅かされている多くの人びとがいる。本講義では、人権が私たちの暮らしや社会とどのようにむすびついているのかを考えていく。さらに、本講義では、国籍、市民権、民族といった概念の変化についても扱う。人の国際移動を中心に、外国人労働者の権利、トランスナショナルなネットワークのもつ意味と可能性、国際結婚に伴う複数国籍者の存在と日本の国家像との折り合いのつけ方などを議論し、グローバル化の中で公正な社会を実現するためにどのような条件整備が求められているのかを考える。	
	ジェンダーを考える	ジェンダー論とは性別が自分の生き方にどのような影響を与えるかを考えること。たとえば「女性は家事育児を」という価値観は「男性は仕事を」という価値観の裏返し。この仕組みを男女双方が理解しないと、男女の不平等は解決に向かわない。本科目では、まずジェンダー論の基礎理論をおさえた上で、家庭、労働、教育の場面においてみられる身近なジェンダーの課題やバイアス(性別役割分担、男女の賃金格差、同性婚、性同一性障害等)について取り扱い、個々人の私的な世界と、それを取り巻く環境的制度的構造とを複合的に捉える視点を獲得する。また本科目では、身近なものになりつつある国際結婚に着目しつつ、ジェンダー規範の変化についても考えていく。	
	図書館の基礎と展望	本講義では、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図る。“知識”の社会的再配分装置である図書館について見識を深め、“西欧型民主主義社会の申し子”“情報社会のショーウィンドー”とも言われる図書館について深く考察し、現代社会を理解する一助とする。具体的には、図書館の現状と動向、図書館の構成要素と機能、図書館の社会的意義、知的自由と図書館、図書館略史、公共図書館の成立と展開、館種別図書館と利用者のニーズ、図書館職員の役割と資格、図書館の類縁機関・関係団体、図書館の課題と展望などを取り上げる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えを広げる（知識を知恵に①）	現代経済への視点	本科目では、ミクロ経済学の消費理論と生産理論に基づいて、現代経済で特徴的な財貨・サービスの需要と供給を分析する。まず、条件付最大化問題の応用として、所得制約を満たしつつ効用が最大となる消費量を考察して需要曲線を導出し、与えられた生産関数を用いて利益最大となる生産量を考察して供給曲線を導出する。次に、インターネット上のソフトウェアなど、「ネットワーク外部性」を持つ財貨・サービスの特徴である「右上がりの部分を持つ」需要曲線を用いて、需要と供給の一致する価格と数量、さらに需給調整の安定性を分析する。さらに、発展途上国の労働条件改善のための社会運動に端を発する、「フェアトレード」の特徴をミクロ経済学の視点から分析する。コーヒー栽培を念頭に、生産関数と需要関数の形、労働条件改善のための「プレミアム」に関して、「フェアトレード」製品の市場規模を拡大するための方策を議論する。	
	日本国憲法	本授業は、最高法規である日本国憲法の基本原理を理解することを目標とする講義科目である。最初に憲法を理解するために憲法の内容、近代憲法の原則等の基本を論じる。それを理解した上で、次に日本国憲法の原理及び構成を明らかにし、平和主義の理念や統治組織としての国会、内閣、裁判所の各々の性格と機能、人権保障の意義と種類等を学修する。これらを学ぶことから、日本国憲法が現在抱えている諸課題について理解することを目標とする。	
	法学から見える社会	法(律)は我々が社会生活を送る上で基本となる重要なルールである。そこで本講義科目の第一目標は、どのような法(律)分野があり、それらの基礎知識及びそれらがどのように我々の生活に関わっているのかを学び、その役割を理解することとする。さらなる追加の目標としては、権利と義務の関係や法解釈の方法等、いわゆる基礎法学や法的思考方法についても学んでいくものとする。そして、現代社会の問題を法的観点から自分なりに分析し、解決方法を述べる力を獲得することを目指す。	
	グローバル時代の経営	本講義では、まずグローバル市場の展開の中での企業経営活動を学ぶ。企業経営活動は、利潤を生み商品やサービスを生産する。生産された財やサービスは市場を通して供給される。講義の中では、企業の特徴や形態を理解した上で、今日のグローバル市場とそれらを取り巻く政治・経済・文化・社会環境及び自然環境の体系的な構造を捉えながら企業行動を学ぶ。次に、情報技術・産業技術の変化、新興国の経済発展と市場競争の激化の中での企業経営を学ぶ。グローバル市場への広がりやME革命による情報・産業技術の展開は、企業経営活動において大きな変化をもたらしている。そこでは、多様性の受容と許容能力、スピーディーな対応力や柔軟性の創造が要求される。こうした状況下での企業戦略の視点に立って、金融資本市場・労働市場・材料資源市場・消費者市場の具体的な係わりや国際情勢の影響や変化について考える。	
	情報社会文化論	本講義では、文字の発明からインターネットまで、人類社会が今日に至る文化・文明を築いてきた意味を「情報」という視点から概観する。具体的には、情報の意味について理解することからはじめ、情報の量、遺伝子情報、人間の記憶能力、文明の発祥と文字の発明、粘土板・パピルス・紙といった記録媒体、社会的記憶装置である図書館などについて、古代からギリシア時代までを概括する。歴史の発展、文化・文明の展開を「情報」という視点から見る「情報史観」を導入する。また、レコードやフィルムといった音声・画像・映像などの情報メディアが社会や文化にどのような影響を及ぼし変革をもたらしたのかについても学ぶ。さらに、数表、計算する道具、電子計算機など、情報社会を形作ってきた事物・事象の生成・展開について、原動力となった要因を社会的・歴史的・文化的背景を踏まえて概説する。	
統計から見える世界	本講義では、推測統計を取り扱う。はじめに大数の法則、中心極限定理を学修する。理論的な部分は難解であるので、これらの法則や定理について計算機シミュレーションで直感的に理解させる。点推定、区間推定、仮説検定の考え方と使い方を学修する。点推定における不偏性・一致性・漸近世紀性・有効性なども理論的に理解することは難しいので、計算機シミュレーションなどを通して考え方を理解させ、具体的なデータを用いて使用法を学修する。また、仮説検定に関しては、母集団分布を仮定しないノンパラメトリック検定なども取り上げる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えを広げる（知識を知恵に①）	教育と21世紀の社会	<p>本科目は、①教育の歴史的展開を理解すること、②法規的・制度的に理解すること、③行政的に理解すること、④教育思想的に理解すること、⑤社会問題的に理解すること、以上5点を教育目標とする。本講義では、以下の2点を達成目標とする。①教育の本質からはじめ、人間の成長・発達の特異性と教育の必要性と可能性から教育の意義について理解した上で、西洋における教育の変遷をたどり、J・ロック、J.-J.ルソー、J・デュイなどの教育思想家の考え方に耳を傾け、山積する教育問題について確かな問題認識をもち、それに対する自らの考えを形成する。②日本における教育実践の歴史的積み重ねに学び、現代の教育課題を、憲法、教育基本法、学校教育法、教育課程編成の国家基準としての学習指導要領の改訂の後をたどり、今日これからの教育に何が求められているかについての問題認識を手に入れ、現代の教育課題の解決に向け日々の取り組む姿勢を整える。</p>	
	生涯学習論	<p>生涯学習時代といわれて久しいが、この授業科目では、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説する。具体的には、生涯学習・生涯教育論の展開と学習の実際、生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携、生涯学習振興施策の立案と推進、教育の原理とわが国における社会教育の意義・発展・特質等を取り上げる。</p>	
	ボランティア論	<p>他人のために自分は何ができるかと考えたことや、他人や社会に役立ちたいと思ったことはないだろうか。社会には援助が必要な人々や無償の労働が必要な分野がたくさん存在する。この授業科目では、自分のボランティア体験を振り返り、まず、ボランティアという言葉に対する自分のイメージを検証することから始める。そして、ボランティアとは何か、その活動分野、受ける側の考えとニーズの理解、必要な態度とルールを理解、歴史と基本的理念、市民参加の重要性、NPOとNGOを取り上げる。</p>	
	テーマで学ぶ歴史	<p>本科目では、歴史学の特徴や歴史学を学ぶことの意義、さらに歴史学を学ぶことで現代社会が、どのように見えるのかについて講義していく。歴史学は過去の社会や人間の活動を分析する学問であり、現代社会の問題を考える上で有益な情報をもたらしてくれる。例えばフランス革命は人権の問題と、産業革命は労働や資本主義の問題とつながる。ただし、歴史は主に史料によって分析・構築されていくものであり、史料の不足により明らかにされない部分があり、史料の読解により歴史像の構築が変わることもある。こうした歴史学の特徴を学ぶことで、歴史の本質に迫りつつ、また歴史の積み重ねが現代社会にどう生かされ、またそれをこれからの社会にどのように生かしていけばいいのかについても本講義では扱っていく。</p>	
	グローバル・ヒストリー	<p>本科目は、近代の歴史をグローバルな視点で捉え、それが現代にどのように繋がっているのかを扱う科目である。16世紀の大航海時代以降、グローバル化は徐々に進み、世界全体が連動して動いていくようになる。こうして「世界システム」が形作られ、資本主義が生まれることになる。現代の世界はこの延長線上に位置しているのだが、こうした世界の一体化が、どのようにして構築されていったのか、そしてその過程で、どのような問題が生じ、さらには現代の世界にどのように繋がっているのかを、地域の枠組みを超えたグローバルな視点から講義していく。</p>	
	日本の歴史と文化	<p>最近中学校・高等学校の歴史教育では、国際関係・国際交流が重視されるようになってきた。もう日本の歴史・文化を、日本列島だけで考えることはできないと言える。この授業では「アジアの中の日本の歴史と文化」というテーマで、古代の日本・中国・朝鮮半島の関係、中世の日宋貿易・元寇・日明貿易、さらにヨーロッパとの関係からいわゆる鎖国まで、アジア全体から見た日本の歴史と文化について考えることにする。到達目標としては、日本とそれを取り巻く国際社会について歴史・文化的に理解できること、日本と東アジアとの関係について歴史的に説明できること、日本が今後目指すべき国際理解の方向性について考えることができること、である。</p>	
	日本文化の深層	<p>本科目は、様々な日本文化の成り立ちやその特徴について講義していく。日本の文化は大陸からの影響を受けつつ独自の発展を遂げていった。古代から近代まで、各時代にそれぞれ特有の文化が育まれたが、それぞれの文化形成の背景には、どのような政治体制があり、また、社会が成り立っていたのか。また、他の地域や国とは異なる日本文化の特徴は、どのようにして生み出されていったのか。こうした日本文化の根底に関わる部分を、様々な分野の日本文化を取り上げつつ講義していく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える (知識を知恵に①)	哲学から考える人間	本講義では、西田幾多郎の『善の研究』の精読を通して、西田哲学のエッセンスを理解する。またそれに基づき、われわれが生きているということについて考察することを目的とする。文献読解という哲学研究の基礎を踏まえつつも、哲学者の言説を紹介するだけでなく、学生にも積極的な参加を求める。すなわち、学生による発表や議論を交えながら、人の言説をその人の文脈において理解する能力、それを批判的に考える能力を養うことを目的とする。	
	哲学から考える世界	本講義は、今日のグローバル化、高度情報化した社会・世界における政治的、社会的諸問題を、広く思想的な観点から再考するために、古代から現代にいたる哲学、倫理学の基礎的・古典的な文献を踏まえつつ探究するものである。こうした探求の作業を通じて、複雑さを増す現代社会を生きるために必要な批判的思考力を涵養することを目指す。また現代の諸問題について、単に表層的な分析に留まらず、抽象的に考察・分析する能力を向上させる。	
	宗教と人間	本講義は、宗教に関する学(宗教学・宗教哲学)の基礎概念また根本問題を概観し、一緒に考えることを通して、いわば宗教をてがかりに人間について考えようとするものである。まず宗教学の基礎概念を学ぶとともに、宗教の歴史的展開－原始宗教・古代宗教・歴史宗教・初期近代宗教・現代宗教－に即して宗教のありようを概観することで、宗教と人間・社会との関わりについての洞察を深める。続いて宗教哲学の基礎的問題を扱う。例えば「悪」の問題を取り上げて、とりわけ西洋のキリスト教的文脈の中で、悪はどのような意味で説明されるべき本質的な問題であるのか、悪が論じられる位相はどのような変化を見せていくのか、聖書や主要な神学者・哲学者のテキストを具体的に参照しながら確認していく。宗教哲学の基礎的問題に対するさまざまな考察を知ることで、人間を考え、現代社会を生きるための素養を身につけることを目的とする。	
	遺物が語る世界	本講義では、まず考古学の基本概念と方法を学び、日本の先史文化(旧石器、縄文、弥生)を題材として、人間の文化の消長と諸相について考える。また、環境と人間生活の関係性及びその変遷について認識し、マクロな視点から地球環境と人間存在の意義を学ぶ。さらに、歴史的分析を通じて人間の本性と進化について考察すると同時に、過去を糧として人類の現在と将来について考察する。次に、日本と異なる地域、自然環境、人種、文化における人間の諸相を、オセアニアを舞台に概観する。異なる文化を比較する事で、人類の本質的な共通性と差異を認識し、その環境要因及び社会背景について考察する。また、イースター島の歴史を概観し、文化の発達と衰退、人類と自然環境との関係性の変遷について学び、これらを材料として人種を越えた人類の本性、長所や短所などの実態を学修する。	
	世界の人々の生活と文化	異文化理解の学問として始まった文化人類学の概要について、学説史をたどることによって理解する。本授業では、まず文化人類学の考え方を、啓蒙期から進化主義の人類学、機能主義人類学、構造主義人類学、象徴主義人類学、解釈人類学とたどっていくことで明らかにする。以上を踏まえ、その後は個別のテーマについて考察する。扱われる問題は、家族と親族、結婚、ジェンダー、宗教、ナショナリズム、グローバリズムなど多岐にわたる。身近な問題を通して、世界をどう捉えることができるかを認識することが目標となる。自身が社会や世界とどのようにつながっているかを考えることにより、自身への理解が深まることを期待している。	
	芸術の見方	本科目の目標は、多様な芸術作品に好奇心と自由な視点を持って触れ、自分の眼で鑑賞できるようになることである。講義内容は、芸術作品と日常の習慣や思考、また西洋と日本を含む東洋の芸術、古代と現代の芸術とを、それぞれの文化的背景を比較しつつ考察するものである。それにより身近な複数の視点に基づく芸術観賞を促し、各自が感想や疑問点を書くことを通じて自分自身の見方や考えを整理できるように促すものである。授業形式は講義中心となるが、毎回授業時に小テストやアンケートの形で各自の考えを聞き、次回の授業に反映させる形で進めていく。	
文学の世界に浸る	一度読んだ本を時間が経過したときに再読してみると、これまでとはことなる解釈の可能性が見えてくる経験は多くある。作品をとおして自分自身を知ること読書行為において重要な要素である。本科目では、国や地域、ジャンル、作品の対象年齢等を限定せず、毎年設定するテーマにあわせて多種多様な文学作品を取り扱う。ひろく世界の文学に触れ、作品を客観的に分析する視点を養うとともに、異文化を理解する素養を高めることを目標とする。また作品の背景を知り、物語の舞台に描かれる人々の言動や考え方から、これから生きるための知恵やヒントを得る。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えを広げる（知識を知恵に①）	人間と言葉	<p>本講義では、言語学という視点を通して、普段、我々が当たり前のように使っている「ことば」についての理解を深める。また、各テーマに毎に研究例を通じて、「ことば」の本質、ひいては「人間」の本質に迫るべく、客観的な視点と科学的分析で「ことば」に取り組む学者たちの熱い思いを理解し、学んだ知識をもとに、身の回りの「ことば」を分析的に見る力を養う。「ことば」に興味を持ち、世界の「ことば」に目を向け、偏見や差別意識を抜きに「ことば」と向き合う。言語学の基礎を理解し、さらに言語学を応用した様々な研究分野の背景と基礎を学び、授業内で提示される実際の調査や研究例について見ていくことで、言語学が他の学問分野とも密接に関わっていることを知る。</p>	
	心理学と人々の行動	<p>本授業では、まず我々にとって一般的で基礎的な過程である、感覚・知覚、学習、認知についての講義を行う。心理学は、あいまいでとらえどころがないように感じられる「こころ」のはたらきを、客観的・科学的に解明しようとするものである。そこでまず心理学が、行動を対象とすることにどのような意味があるのかを考え、感覚・知覚、学習、認知の各分野について学ぶことで、心理学がこころをどのように考えているかを理解することが、この授業の一つ目の目標である。次に、発達、知能、性格、社会という心理学の応用的な分野についての講義も行う。発達、知能、性格、社会の各分野が、それらの問題をどのように研究してきたか。さらには、一般的・常識的に信じられていることが、心理学ではどのように考えられているかを理解することが、この授業の二つ目の目標である。</p>	
	都市と建築	<p>(概要) 本科目では、都市と建築との関係を様々な視点から講義していく。都市はどのようにして形作られていくのか。またその中で建築はどのような役割を果たすのか。こうした都市計画に関する事柄に加え、都市の中におけるコミュニティのあり方や、都市の継続性に関する問題についても本科目では扱っていく。講義全体の最後には、科目担当責任者が建築の時間的移行や「まちづくり」及び都市景観に関する問題を踏まえ、改めて都市の中における建築の役割について総括する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(61 西浦定継／6回) 多摩地域の都市について講義を行う。講義の中では、多摩ニュータウンの計画や住宅整備、都市基盤整備や都市の自治体などを扱う。</p> <p>(101 深井祐紘／3回) 都市空間と建築との関わりについて講義を行う。具体的には、建築の時間的移行とデザイン(リフォームやリノベーション)について講義する。</p> <p>(24 伊藤雅春・78 米田正彦／3回) 都市計画やまちづくりについて講義を行う。例えば「まちづくり」がどのようなものであるかや、都市におけるコミュニティのマネジメントなどについて講義する。</p> <p>(55 武田有左・82 小笠原岳／3回) 景観法と歴史的街並みの保存についてや、環境に応じた「まちづくり」のあり方などを扱い、都市と環境との関わりについて講義する。</p>	オムニバス方式
音楽と社会・文化の結びつき	<p>現代の10代・20代は、生まれてからそれぞれに音楽を消費し続けているにもかかわらず、音楽文化の間口の広さ・奥行きにはほとんど気づいていないかに見える。本科目は、音楽全般についての視野を広げ、歴史的文化的背景の中で音楽のジャンルやスタイルを捉え、従前とは異なった意識をもって音楽にアプローチする態度を養うことを目的とする。学生自身の体験に根差して視野を広げていくために、(1) 声の音楽: 声の使い方の多様性に焦点を当てた音楽探訪、(2) 楽器の音楽: 風土に根ざしながらも共通の発想のもとに伝播する楽器に焦点を当てた音楽探訪、(3) 身近に親しんでいる音楽の中にある多様な音階とリズムの発見、(4) 音楽文化の担い手たち: 職業的・非職業的担い手の存在などを題材のまとまりとして扱う。可能な限り、実技を交えながら授業を進める。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えを広げる（知識を知恵に①）	地域研究(イスラーム世界)	<p>本授業では、中世(7世紀頃)から現代(21世紀)までのイスラーム世界の歴史と文化について講義する。まずは、イスラーム成立の歴史を辿り、さらにはイスラームの特徴について解説する。次に、中世におけるイスラーム世界の拡大とそれにもなうヨーロッパ勢力との対立あるいは対話(十字軍やレコンキスタ)の状況について解説し、また当時のイスラーム世界がいかに物的にも知的にも豊かな地域であったのかについても説明する。近世から近代に関しては、オスマン帝国台頭から衰退までの歴史を、ヨーロッパ世界の動向に触れつつ説明し、さらに第一次、第二次世界大戦とアラビア諸国との関連についても解説する。最後に、現代における中東問題についても触れる。</p>	
	地域研究(アジア)	<p>日本の近隣・中国はどういう国なのか、本講義では、「中国」という名称の由来から今日の中国の現状まで解説する。1949年に成立した共産党政権下の中華人民共和国の時代を中心に、現代中国が歩んできた道程をたどりつつ、中国社会の現状や中国文化の変遷を概観する。文化大革命など現代中国における重大事件について検証し、中国の直面する諸問題を客観的に取り上げる。また、中国から日本に文化が伝来したことはよく知られているが、実は日本から中国にも文化が伝わっている。その実態に触れ、中国文化と日本文化がどのように互いに影響を与えているかについても解説する。</p>	
	地域研究(アメリカ)	<p>(概要)本科目では、南北を合わせたアメリカ大陸の歴史、文化、社会の特徴に触れ、その内実の多様性について考える機会を提供する。歴史に関しては、主に大航海時代以降のヨーロッパ人による植民地支配と宣教からアメリカ諸国独立のことを扱う。文化に関しては、現在アメリカ諸国は先住民系、アジア系、ヨーロッパ系など様々な帰属をもつ人々が暮らし、独自の文化や社会を築き上げており、こうした多種多様な文化を紹介する。社会に関しては、多言語・多文化政策、黒人差別の問題や社会的な「分断」の問題などを扱う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(99 中野隆基・95 藤原愛／3回) (共同) ガイダンスでは「アメリカ」という語の意味範疇について学生に問いかけるとともに、今後の流れについての説明を行う。中間の振り返りではラテンアメリカと北アメリカ(特にアメリカ合衆国)の関係性について、最後のまとめの講義ではこれまで学んだことをもとに「アメリカ」のこれからについて取り扱う。</p> <p>(99 中野隆基／6回) ラテンアメリカの歴史、文化、社会の概要、多言語・多文化政策、先住民と国家をめぐる問題などを取り上げる。</p> <p>(95 藤原愛／6回) アメリカ合衆国の歴史、文化、社会の概要、黒人差別やヘイトスピーチなど社会的な「分断」などを取り上げる。</p>	オムニバス方式、共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えを広げる（知識を知恵に①）	地域研究(アフリカ)	<p>(概要) 本科目は、アフリカの歴史や文化、あるいは社会の特徴について扱う科目である。歴史に関しては、人類の誕生から古代エジプト文明、さらには近代におけるヨーロッパ勢力によるアフリカ分割の状況などを扱っていく。文化に関しては、アフリカ各地の言語や習慣、風習に注目しつつ、各地域の文化的特徴を講義していく。また社会に関しては、アフリカ社会の基本である部族社会に関する事柄や現在のアフリカの国々の経済状況、あるいはアフリカが抱える社会問題について扱っていく。講義全体の最後には、科目担当責任者がアフリカの歴史と現代のアフリカ社会にある問題との関連についてまとめつつ、これからのアフリカについて見通す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(27 上田耕造／11回) 人類の始まりからエジプト文明の興隆、そして近世から近代にかけての奴隷貿易、さらに帝国主義の理念に基づくヨーロッパ諸国のアフリカ進出などに関する講義を行う。</p> <p>(35 菊地滋夫／4回) 現代のアフリカ社会が抱える様々な問題について講義する。例えば、旧植民地宗主国及び日本や中国など先進諸国のアフリカへの進出とその影響などについて扱う。</p>	オムニバス方式
	地域研究(ヨーロッパ)	<p>(概要) 各国の祝祭や年中行事、またこれらと関連する伝統芸能は、時代や地域に対応するように少しずつ形を変えながら現在に至っている。これらが他国へと渡り、新たな意味を付与されることも少なくない。本授業では、ヨーロッパ諸国の祝祭や年中行事、芸能の変遷と現在の在り方について調べ、その現代的な意義について考察する。歴史、移民、家族、美術、音楽、映画などをキーワードとして各国の現在を多角的に検討する視点を養うことを目的とする。授業内ではグループワークおよび発表をおこなう。また講義全体の最後には、科目担当責任者がまとめてとして、各教員の講義内容を比較しつつ、ヨーロッパ地域の社会的、文化的特徴を浮かび上がらせる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(93 鶴田涼子／8回) おもにドイツ、スイス、オーストリアを対象とし、地域の祝祭や芸能、手工芸とその継承について講義をおこなう。ドイツ語圏の音楽、美術に関しても触れる。</p> <p>(72 深澤清／7回) おもにイギリスを対象とし、地域の祝祭や文化的な諸活動について講義をおこなう。イギリスの文学作品や映画等を通してヨーロッパへの理解を深める。</p>	オムニバス方式
	食から見えるからだと文化	<p>食は日常的な行為であり、人が生きていく上で最も重要な行為である。私たちが健康的な生活を送るために、食の栄養バランスは重要なテーマである。また、食文化は身近であるが故に自らの食生活が万国共通と考えがちなが、国や地域によってその様式は様々である。本科目では栄養とは何かという基本的な事項を学びつつ、三大栄養素を中心に、私たちの体内における挙動を学ぶ。また、各食品の文化と世界各国での食文化の基礎を理解していくことを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える ①	学問の世界	<p>(概要) 本科目は、自然科学、社会科学、人文科学の各分野における諸学問の特徴について扱う科目である。各学問の成り立ちや特徴、そしてその学問が現代社会を読み解く上でどのように役に立つのかなどについて、各分野の教員が講義していく。講義全体の最終回には、科目担当責任者が各専門分野の特徴や分野間の関連などについてまとめつつ、学生たちに様々な学問に触れることの重要性について話す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(68 林雄介／3回) 歴史学の特徴について扱う。歴史はどのようにして構築されていくのかと、歴史学が何を明らかにする学問なのかについて講義する。</p> <p>(66 林伸一郎／2回) 宗教学の特徴について扱う。宗教学の成り立ちについてと、宗教学がなぜ人間社会の中で必要とされるのかについて講義する。</p> <p>(62 西村美香／2回) 芸術学の特徴について扱う。絵画や映画、デザインまで、幅広く芸術学が扱う領域について解説する。</p> <p>(47 清水文直／2回) 物理学の特徴について扱う。物理学の分野に関する説明と、物理学で明らかにできるものとは何かについて講義する。</p> <p>(50 鈴木時男／2回) 経済学の特徴について扱う。経済学の成り立ちについてと、経済学によって現代社会がどのように理解できるのかについて講義する。</p> <p>(44 佐々木秀明／2回) 生物学の特徴について扱う。生物学の成り立ちについてと、生物学は何を明らかにするための学問であるのかについて講義する。</p> <p>(72 深澤清／2回) 文学の特徴について扱う。文学とはどのような学問なのかと、地域や国によってどのような特徴があるのかについて講義する。</p>	オムニバス方式
	人類とその環境	<p>(概要) 環境というと地球温暖化を始めとした環境問題に焦点が当てられることが多い。本科目では、人類とその環境そのものの関係を問うことに焦点を当てる。人類もその環境の一要素にしか過ぎないことを認識した上で、自然環境、生物が作る環境、人類が作り出す環境などを広い視野で捉えなおす。授業全体の最終回には、科目担当責任者がヒト、生物、環境の相互の関わりについてまとめつつ、今後、人類は環境とどのように向き合っていかなければならないかの問題意識を学生と共有する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(46 篠山浩文／7回) 生物は自然とどのような関わりのもとで生きているのかという視点から、環境と人類との関係について講義する。</p> <p>(69 秀村研二・27 上田耕造／8回) これまでヒトは自然とどのように関わってきたのか、また、環境は人類にどのような影響をもたらしてきたのかについて講義する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えをクロスさせる（知識を知恵に②）	戦争と安全保障	<p>(概要) 21世紀の世界を読み解くにあたり、安全保障と戦争との関わりを紐解くことは不可欠である。グローバル化が進み、世界経済が一体として動く21世紀の世界において、安全保障をいかに捉え、そして実行していくかは重要な問題となっている。一方で、シリアの内戦をはじめ、世界の各地で紛争は起こっており、また、至る所で戦争が起きる可能性はある。つまり、安全保障と戦争がなぜ起こるのかとの問題は、掛け合わせて考える必要がある。本科目は国際関係、ジェンダー、哲学さらにはデザイン学の分野からこれらの問題にアプローチしていく。講義全体の最後には、科目担当責任者がこれまでの講義をまとめることで、戦争の本質に迫るとともに、それを回避するための安全保障がいかに展開されるべきかについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(94 濱野喬士／4回) ホッブスやグロティウス、そしてカントなどの思想家を取り上げつつ、哲学・倫理学の観点から戦争と平和について講義する。</p> <p>(92 土野瑞穂／4回) 戦争とジェンダーとの関連について講義する。具体的には軍事化とジェンダーとの関係、戦時下における性暴力、紛争予防・平和構築とジェンダー平等などについて扱う。</p> <p>(62 西村美香／4回) 戦争とメディアとの関係について講義する。例えば、戦争とメディアとの関連を、様々なポスターを取り上げつつ講義する。また、ナチスのプロパガンダ活動から戦争とメディアとの関係についても講義する。</p> <p>(96 薬袋佳祐／3回) 安全保障の問題を国際関係と法の観点から講義する。講義の中では、国際連合の役割、自衛権・自衛隊・日本国憲法、戦時中のルールなどを扱う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えをクロスさせる（知識を知恵に②）	現代社会と平和	<p>(概要) 平和学とは、単に戦争のない世界をつくり出そうとするだけでなく、人々の自己実現の機会を阻む社会構造の中に「暴力」を見だし、暴力が内包された社会の変革を目標とする価値志向/価値実現型の学問領域である。本科目では、核軍拡競争や戦争の発生要因を明らかにするだけでなく、不平等や経済的不公平、社会的不正(貧困・差別)など広範な課題を扱う。特に、社会において最も立場の弱い存在、社会構造によって抑圧されている人々、戦争被害者の視点に立って、国際社会の諸問題を解説する力を養い、その解決への展望を模索することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(76 毛利聡子/2回) 平和学とは何か、構造的暴力と直接的暴力とは何かといった平和学の概説を行う。</p> <p>(32 加藤めぐみ/3回) パラオからみた植民地支配、戦争体験、環境問題について講義する。またゲスト講師を招いて、戦災孤児が戦後をどう生きたのか等について講義する。</p> <p>(38 熊本博之/2回) 辺野古を事例に、基地を受け入れさせる構造や軍事化の問題について講義する。</p> <p>(56 竹峰誠一郎/3回) 日本や世界における核をめぐる問題について講義する。またゲスト講師を招いて、平和をどう創るのかというテーマでワークショップを行う。</p> <p>(65 長谷川裕彦・120 高部優子/2回) 氷河・周氷河作用、地生態学、地形発達史、自然史等の視点から、地球環境問題について講義する。</p> <p>(92 土野瑞穂/2回) グローバリゼーションがもたらす構造的暴力と戦時下における性暴力等の直接的暴力について、ジェンダーの視点から講義する。</p> <p>(76 毛利聡子・32 加藤めぐみ・38 熊本博之・56 竹峰誠一郎・65 長谷川裕彦・120 高部優子・92 土野瑞穂/1回) (共同) 本科目担当教員の共同により、これまでの講義をまとめつつ、平和学とは何かを総括する。</p>	オムニバス方式、共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えをクロスさせる（知識を知恵に②）	気候と人口の問題	<p>(概要) 21世紀の世界、あるいはさらにその先の世界を見据えるにあたり、気候変動の問題を無視することはできない。21世紀の社会で大きなテーマとなっているSDGsにおいても、人間が気候変動の問題にいかに向き合い、持続可能な世界を創り上げていくかが課題となっている。また気候変動を踏まえた地球環境の問題は、我々の生活に直結する問題であり、人口の増減とも関わっている。こうした点を踏まえ、本授業では、気候変動の問題だけでなく、気候がもたらす人間社会や文化形成に対する影響、また人口学との関係などを扱う。講義全体の最終回には、科目担当責任者が過去と現在で気候の変化が自然及び人々の生活・文化に、どのような影響をもたらしてきたのかについてまとめつつ、これから我々はこの気候の問題をどのように考えていけばいいのかについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(65 長谷川裕彦・90 高橋珠州彦／4回) 地理学の観点から気候と人間との関わりについて講義する。講義の中では、イヌイットの生活文化に温暖化が及ぼす影響や温暖化に伴う氷河縮小の問題などを扱う。</p> <p>(27 上田耕造／7回) 歴史人口学と気候史の観点からの講義を行う。例えば、中世ヨーロッパにおける気候の温暖化とそれに伴う人口増加及び農業革命の進展などを扱う。</p> <p>(18 柳川亜季／4回) 環境と土壌及び植生との関係について講義する。講義の中では、長期の気候変化と植生・土壌といった地域の自然資源の変化との関連について扱う。</p>	オムニバス方式
	ポスト経済成長時代の未来論	<p>(概要) 16世紀以降、徐々に形作られていった現在の資本主義社会は、限界を迎えているといわれる。ソ連の崩壊とともに社会主義あるいは共産主義の限界が示されて以降、自由主義のもとで資本主義は発展した。一方で貧富の差は拡大し、解決が難しい社会問題が姿を現した。こうした現状を踏まえ、この先の未来はどのように変化するのか、21世紀の世界で資本主義型の社会発展はあり得るのか、社会主義の見直しが必要なのかなど、ポスト経済成長の時代について考える。講義全体の最後には、科目担当責任者が資本主義・社会主義の歴史を踏まえつつ、経済と社会の視点から描かれる未来論についてまとめ、これからの社会体制についての見通しを提示する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(50 鈴木時男／5回) 今日、経済成長が限界を迎えている。この状況を鑑みつつ、この先の未来ではどのような社会あるいは政治体制があり得るのかについて講義する。</p> <p>(92 土野瑞穂／5回) 資本主義が限界を迎える中で、この先の未来ではどのような社会体制があり得るのかを、ジェンダーの視点から考える。</p> <p>(27 上田耕造／5回) 産業革命以降に資本主義がどのようにして形作られていったのかと、その中で社会主義がどのようにして台頭してきたのかについて講義する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えをクロスさせる（知識を知恵に②）	社会の中の法	<p>(概要) 本科目は、「法と人間」あるいは「法と社会」との関わりについて扱う科目である。歴史的に見ると、ハンムラビ法典をはじめ、法は古代から作成され、様々な形で人々の生活に関わり、社会を規定してきた。また、法は社会を映し出す鏡であり、法の規定からは、それが適用される社会の特徴が浮かび上がってくる。本科目では、このように歴史的に法がいかにかに人と関わってきたのかを紐解きつつ、現代社会における法の役割や位置づけに関して扱っていく。講義全体の最後には、科目担当責任者が法がいかにかに社会に影響を与えているか、また逆に社会が法にいかにかに影響を与えているのかについて確認する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(28 臼井雅子／4回) 日本国憲法が我々の生活と具体的にどのように関わっているのかをはじめ、現代社会と我々の生活とが、具体的にどのように関わっているのかについて講義する。</p> <p>(27 上田耕造／7回) 法とヒト、社会との関わりを歴史的にみていく。講義の中では、ハンムラビ法典からローマ法、マグナ・カルタ、そしてナポレオン法典などを扱う。</p> <p>(92 土野瑞穂／4回) ジェンダーの視点から社会と法との関わりを講義する。例えば、男女雇用機会均等法が作成された背景や、この法が形成されるまでには、どのような過程があったのかについて講義する。</p>	オムニバス方式
	宗教から見える現代社会	<p>(概要) 現代の社会においても宗教は人々の生活に様々な面で影響を及ぼしている。例えば社会的な問題が起きた際に、ローマ・カトリック教会のローマ教皇が発する言葉はしばしば注目される。歴史的に見れば、近代以前と以後では宗教の位置づけは大きく変化したが、それでも今なお宗教は社会の根幹をなす一要素である。本授業では、こうした宗教と現代世界との関係について扱う。また講義全体の最終回には、科目担当責任者がキリスト教と現代社会および道教と現代社会との関係についてまとめつつ、宗教がいかにかに人々の生活や文化に深く関わっているのかについての総括を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(66 林伸一郎／8回) 主にキリスト教の特徴や歴史について解説しつつ、現代社会においてキリスト教がどのような役割を果たしているのかについて講義する。</p> <p>(100 廣瀬直記／7回) 主に道教の特徴やその歴史の変遷について解説しつつ、現代のアジア世界において道教がどのように継承されているのかについて講義する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えをクロスさせる（知識を知恵に②）	アートとアートの境界線	<p>(概要) アート(および美そして芸術)についてわれわれ人間は、そもそもそれらはいったい何を意味するのか(本質)、それらは社会においてどのような位置づけを有しているのか(社会的な位置づけ)、それらは何らかの学習や修行によって得られるのかそれとも天賦の才によるものなのか(模倣と独創の対立)等について問い続けてきた。また道具の制作と芸術作品の制作の間には差異があるのか(道具性と芸術性)、アートをアートたらしめるのはその作品そのものなのか、それとも批評や美術館のような制度なのか(自律性と文脈依存性)なども大きな問題であり続けてきた。</p> <p>本科目は、アート、美、芸術をめぐる、主要論点を一つずつ取り上げ、ともに探求するもの。その際、まず(1)哲学、思想史、美学の観点からアートとは何であるのか、芸術と技術はどう異なるのか、それはどのように論じられてきたのか、という問題を分析する。さらに(2)デザイン学、デザイン史の観点から、アートをめぐる諸問題について考察する。そして(3)アートとアートの境界線が、その発明以来、鋭く問われてきた写真というメディアの歴史、またX線などの発見と利用を巡る歴史的問題を中心とした大衆科学史、さらに表象文化論の観点から、アートの社会的な位置づけについてアプローチする。また講義全体の最終回には、科目担当責任者が各講義を踏まえて、美と芸術の本質について総括する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(94 濱野喬士／5回) 哲学の観点からアートとは何かを探究する。</p> <p>(62 西村美香／5回) デザインの観点からアートとは何かを探究する。</p> <p>(132 濱野志保／5回) 写真史、大衆科学史、表象文化論の観点からアートとは何かを探究する。</p>	オムニバス方式
	世界の芸術のその深層	<p>(概要) 本科目は、芸術とそれが生み出される環境や背景に関して扱う科目である。世界各地の文化を知る上で、芸術に注目することは一つの重要な要素である。各国あるいは各地域における芸術作品には、その地域独自の文化や歴史が表されている。こうした世界各地の芸術作品からその背後にある文化や歴史を抽出する。講義全体の最後には、科目担当責任者が各講義の内容を関連させつつ、芸術がヒトや社会に与える影響についても講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(68 林雄介／4回) 近現代における芸術発展の背景には、いかなる政治的あるいは文化的背景があったのかを、世界史の視点から解説する。</p> <p>(26 上坂保仁／3回) 映画(特にフランス映画)という芸術分野がどのように発展してきたのかと、この映画というメディアがいかに教育と関わるのかについて講義する。</p> <p>(85 向後恵里子／4回) 近代日本において、絵画を含めた視覚メディアがいかに発展していったのかと、そのメディアが社会にどのような影響を及ぼしていたのかについて講義する。</p> <p>(62 西村美香／4回) 近代から現代にかけてのデザインの歴史と、各時代においてデザインが社会にどのような影響を及ぼしてきたのかについて講義する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えをクロスさせる（知識を知恵に②）	創造される歴史と人々が紡ぐ歴史	<p>(概要) 歴史は、どのようにして成り立っているのか。歴史学は文献史料を通して歴史を明らかにしていく。ただし、史料には残存状況の問題もあり、明らかにできる部分には限界がある。また、史料の性質上から歴史が一方的な見方になることもある。一方、歴史は、人々の活動の積み重ねでもある。文化人類学はこうした人の営みから歴史を明らかにしていく。本授業では、歴史というものがいかにして描き出され、またそれが現代の社会とどのように繋がっているのかについて扱っていく。また、講義全体の最終回には、科目担当責任者が歴史学から描き出される歴史と文化人類学から描き出される歴史の違いについて確認し、歴史がいかに多様な側面を持っているのかについて解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(41 小林一岳／8回) 中世日本史の分野において、歴史がどのようにして形作られていくのかを、行政文書や日記などの私文書などを用いて解説していく。</p> <p>(69 秀村研二・68 林雄介／7回) 朝鮮史の分野において、過去から現在へと受け継がれてきた人々の慣習、文化、あるいは伝承などから、どのようにして歴史が紡ぎ出されていくのかについて講義する。</p>	オムニバス方式
	21世紀の社会像を描く	<p>(概要) 21世紀の世界は、様々な社会問題を抱えている。貧困、差別、食料問題など、解決すべき課題があふれている。こうした社会をどのように捉えればいいのか。さらにはこれらの問題に対する解決策は、どのようにして導き出せばいいのか。様々な学問分野から21世紀の社会像を浮かび上がらせ、21世紀が抱える諸問題に対する解決策を、各分野からの視点を掛け合わせつつ考えていくのが本科目の目的である。講義全体の最後には、科目担当責任者が各分野から出された21世紀の捉え方についてまとめつつ、全体的な21世紀の社会像を描き出し、21世紀が抱える諸問題への対応について総括する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(92 土野瑞穂／3回) 21世紀の社会において、偏見や差別の問題は未だ根強く残っており、また格差の問題とそれに伴う貧困の問題も、今世紀における大きな課題である。こうした問題についての講義を行う。</p> <p>(16 櫻井達也／3回) 21世紀の世界を考えるにあたり、大気汚染の問題を考慮する事は不可欠である。どのようにして大気汚染は生じるのかと、この問題と我々はどう向き合っていかなければならないのかについて講義する。</p> <p>(83 尾野裕美／3回) 人間の働き方の問題は、21世紀の社会において重要な課題である。人々がどのようにして仕事と向き合っていけばいいのかを、心理学の視点から講義する。</p> <p>(80 伊藤智久／3回) 21世紀の世界において、企業はどのような方針あるいは方向性を掲げていくべきなのか。こうしたビジネスモデルの視点から21世紀の社会について講義する。</p> <p>(21 浅井正行／3回) 21世紀において、日本では高齢化社会がさらに進んでいく。こうした中、社会福祉、高齢者福祉の役割は重要度を増している。21世紀の社会における福祉の役割について講義する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えをクロスさせる（知識を知恵に②）	ELSI(科学技術における倫理的・法的・社会的課題)	<p>(概要) 人間は古今東西を問わず、何が善いことであり、何が悪いことであるのか、善悪をさだめる基準とは何か、倫理や道徳には普遍性があるのか、それとも倫理や道徳はある一定の共同体や集団を必要としそれとの関係ではじめて意味をもつものなのか、倫理や道徳の示す規範の名宛人とは誰か、といった問題を立ててきた。一方で、今日、倫理的問題が発生しうる領域は、科学技術、医療技術、情報工学、経済活動などの発展・深化と結びつきつつ、以前には考えられなかったような新たな問題設定を必要としている。本講義では、そうした倫理学的問題の最前線をフロンティアとして捉え、さまざまな角度から検討するものである。また、講義全体の最後には、科目担当責任者が自然科学の観点におけるELSIの問題を踏まえて、この問題が今後の社会でどのように展開していくのか、その見通しを示す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(94 濱野喬士／8回) 主として人文科学・社会科学の観点からELSIの問題にアプローチする。</p> <p>(44 佐々木秀明／7回) 主として自然科学の観点からELSIの問題にアプローチする。</p>	オムニバス方式
	これからのエネルギーとその利用	<p>(概要) 今や世界はカーボンニュートラル、すなわち脱炭素社会を目指して動き出している。原発事故から十分には立ち直れていない日本は、現在でも化石燃料を利用した火力発電に頼らざるを得ないため、世界からは批判的に晒されている。またこれまで日本が主導的立場にあった自動車産業は、温室効果ガスを排出するガソリン車から、全くそのようなガスが排出されない電気自動車への移行が必須のことと思われる。このように今、世界のエネルギー事情が変革を迎えようとしている。本科目では、再生可能エネルギー、自然エネルギーに分類される太陽光発電や風力発電、水力発電や地熱発電などをとりあげ、その他の化石燃料に頼らない新エネルギーの内容も含めていく。また講義全体の最後には、科目担当責任者がこれまでの講義をまとめつつ、これからエネルギーというものを人間はどのように扱っていくべきかについても講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(23 石田隆張／4回) 主に再生可能エネルギー(風力、太陽光、水力、地熱、海洋)に関する技術的な内容とその動向についての講義を行う。</p> <p>(47 清水文直／11回) 主に電気自動車の充電設備に関する技術的内容とその動向及び蓄電池の技術内容とその動向について講義する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えをクロスさせる（知識を知恵に②）	文学作品のメタファー	<p>(概要) 本科目では、文学作品において用いられる修辞技法に着目し、多様な比喩表現からその効果や意図について考察する。各国の文学作品では、ある地域に生息する動物や自生する植物など、あらゆる生物が登場する。これらは物語を読む上で重要な役割を担う。それは直接的な表現において用いられることもあれば、メタファーとして読者の理解に影響を与えることもある。文学作品内では語られることのない、生物の本来のあり方を知ること、メタファーを成り立たせている背景を理解し、文学作品を解釈するための複層的な見方を養う。講義全体の最終回には、科目担当責任者が文学作品のメタファーを生物学の視点を踏まえてまとめつつ、文学と動植物との関わりについて総括する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(93 鶴田涼子／4回) おもにドイツ語圏の文学を取り上げ、生物の描写が文学作品に与える影響を考える。</p> <p>(72 深澤清／4回) 英文学および日本文学を取り上げ、生物の描写が文学作品に与える影響を考える。</p> <p>(51 叢小裕・100 廣瀬直記／3回) 中国文学を取り上げ、生物の描写が文学作品に与える影響を考える。</p> <p>(44 佐々木秀明／4回) 作品内に描かれる生物について、その生態を解説する。生物の諸特徴をもとに、作品内の一場面の読み方に新たな側面を与える。</p>	オムニバス方式
	都市という空間	<p>(概要) 本科目は、都市とヒト、都市と社会との関係や、都市が内包する様々な問題を扱う科目である。都市という空間には、多種多様な人々が暮らしており、その中には実に様々な問題がある。また都市という存在は、周辺の地域や農村社会とも深く関わっており、さらに言えば都市の発展は、国の発展にもつながる。都市というものを媒体にしつつ、様々な視点から都市にアプローチすることで、都市という空間の特徴やその存在意義に関して、学生とともに考える。講義全体の最後には、科目担当責任者が各講義で出された都市に対する視角や都市が抱える問題点をまとめつつ、都市という空間の特徴を示す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(90 高橋珠州彦／4回) 都市がどのようにして形成されていくのかや、都市が形成されていく中で、都市と郊外あるいは農村との関係は、どのように変化していくのかについて講義する。</p> <p>(2 亀卦川幸浩／4回) 都市には様々な問題がある。こうした都市が抱える問題を、ヒートアイランド現象をはじめ、都市の気象や都市の環境の問題から解説していく。</p> <p>(64 萩原修／4回) 主に多摩地域の都市に焦点を当てつつ、都市の発展や再興とデザインとが、どのように関連しているのかについて講義する。</p> <p>(27 上田耕造／3回) 主に西洋における都市の歴史について扱う。例えば、パリやロンドンという街がどのようにして形成されたのかや、中世ヨーロッパにおける城塞都市の役割などについて講義する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えをクロスさせる（知識を知恵に②）	ことばと文化の結びつき	<p>(概要) 言語人類学、文化人類学、言語学の分野を土台にしつつ、ことばと文化の結びつきの多様なありかたについて理解を深めていく。あらゆる言語現象が、社会的・文化的文脈に常に根ざして展開すると考えれば、これらの分野は互いに重なり合っているはずである。本講義では以上の理解に基づき、様々な言語現象についての学説史や事例研究に触れつつ、履修者がことばを通して文化のありようについて考えるきっかけを提供する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(99 中野隆基・95 藤原愛／3回) (共同) ガイダンス、第7回までの振り返り、全体の振り返りを行う。振り返りでは、受講生から質問を受け付け、フィードバックを行う。</p> <p>(95 藤原愛／6回) 言語学が、音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論というレベルから、言語のしくみについて考える学問であることを示しつつ、言語現象を文化的・社会的分脈に根付いたものとしてみる方法を考える。</p> <p>(99 中野隆基／6回) 文化人類学が、フィールドワークと民族誌を書くことを通じて、自己と他者のありようについて考える学問であることを示したうえで、言語学と文化人類学を架橋しつつ発展してきた言語人類学の学説史と方法を紹介する。</p>	オムニバス方式、共同(一部)
	母語から見える世界と外国語から見える世界	<p>(概要) 本講義の目的は三つである。すなわち、母語の枠組みの外に出ることによって母語を相対視する視座を身につけること。非母語話者と母語話者が共生するための21世紀の市民的態度を身につけること。外国語を学ぶ愉しさ・意義を知り、言語表現の本来の懐の深さを実感すること。そのために、母語と外国語をめぐるさまざまな問題を紹介し、ワークショップや議論、発表を通して理解を深める。学生には積極的な参加を求める。また講義全体の最後には、科目担当責任者が言語と思考の問題や外国語学習に関する講義を踏まえて、母語と外国語との関わりについて総括する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(36 金庚芬／3回) 母語の韓国語と学習言語の日本語の類似点と相違点を具体的な言語表現や会話データを用いて紹介する。また、自分の日本語学習経験やそこから得たものや共有したい事例を紹介する。</p> <p>(95 藤原愛／3回) 母語獲得理論を通じて、日本語をどのように身につけてきたかを振り返り、母語獲得の過程が外国語習得やその他の言語活動にどのように影響をしているか考える。</p> <p>(81 鋳物美佳／9回) 「言語が上手・下手とは何か」を手がかりに、議論を通して各人がもつ言語観について整理・再検討を行う。また言語と思考の関係について、哲学の言説をもとに考察する。ゲストスピーカー招待や学生による発表の回も設ける。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えをクロスさせる（知識を知恵に②）	ことばの窓から広がる世界	<p>(概要) 本科目は、日常生活において実際に機能する、多様なことばの姿を捉え、ことばが社会・文化において、具体的にどう使われているかを探ることと、各自が経験している身近な言語現象や、言語と社会とのかかわりを分析することにより、人間と社会に対する理解と専門的教養を身につけることを目標とする。講義全体の最後には、科目担当責任者が言語表現活動における哲学的言説や認知言語学のメタファーに関する講義を踏まえて、ことばがいかに人間や社会を理解する上で重要な役割を果たしているのかを総括する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(36 金庚芬／10回) 年齢・ジェンダーなどの社会的属性によってことば使いにどのような多様性が見られるか、ことばを使用する状況に応じて人々はどのようにことばを使い分けるか、さらに、ことば使いと文化とのかかわりはどのようなものかなどについて、日本語や外国語の具体例・会話例を分析しながら考察する。</p> <p>(81 鋳物美佳／3回) 言語表現活動についての哲学的言説を紹介し、ある状況においてある人がある言葉を用いることの意味を考える。また実際の会話分析やディスカッションなども交えながら、理論と実践の両方にまたがる授業を行う。</p> <p>(95 藤原愛／2回) 認知言語学におけるメタファーについて解説し、私たちが普段用いるメタファーについて言語や文化が異なっても共通する表現について考える。子供のメタファーの習得過程を考えることで、メタファーがコミュニケーションで果たす役割について考察していく。</p>	オムニバス方式
	スポーツと外国語	<p>(概要) 本科目は、指定された外国語を使用しながら文化としてのスポーツを学ぶものである。特に、同じスポーツを語ろうとも、それぞれが重視する言語的特徴があることを理解する。またスポーツ(身体運動)を実践する場面では自発的・瞬間的にコミュニケーションを取ることが必要となる場面があり、この場面を想定して、外国語で意思疎通を図る体験をイメージ・体得させることが主なねらいとなる。本科目では、学生一人ひとりが興味や能力に応じた課題を持ち、グループで協力し、目的によってはスポーツ実践もさることながら意思疎通を図るために必要な指定外国語を主体的に学ぶことも欠かせない。本科目を通して、指定外国語圏等でスポーツを通じた健康で活動的な生活を送ることの意味やその外国語への理解を深めていく。また、授業全体の最後には、科目担当責任者がポルトガル語・英語を用いた指導に関する授業を行いつつ、他言語における表現の違いなどに関しても紹介し、講義全体をまとめる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(110 大槻茂久／13回) ドイツ語を用いてサッカーの指導法などを講義する。学生はドイツ語での指導や指示を受ける中で言語への理解を深め、ドイツ語圏におけるサッカーの理解を深めていく。</p> <p>(88 佐藤洋／1回) ポルトガル語を用いてサッカーや格闘技の指導法などを講義する。学生はポルトガル語での指導や指示を受ける中で言語への理解を深め、またポルトガル語圏におけるサッカーや格闘技の理解を深めていく。</p> <p>(52 タイラー・バーデン／1回) 英語を用いてサッカーなどを題材に講義する。教員は英語で指導を行ったり、またサッカーの用語を解説したりする。こうした活動の中で学生は英語を学んでいく。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えをクロスさせる（知識を知恵に②）	世界の身体文化	<p>(概要) 本科目は、「文化や歴史を背負う身体」について、多角的に理解することを目的とする。最初に、身体論の基礎的な知見をもとに「身体とはなにか」、「身体が変わるとはどういうことか」を考える。また、世界各地で行われている伝統儀礼やスポーツの活動の様子を知り、身体文化を世界史的観点から理解する。さらに、身体が背負う文化性および歴史性をより具体的に理解するために、各種ボディワークおよび身体技法の方法を学び、稽古の奥深さを知る機会を設ける。講義全体の最終回には、科目担当責任者がまとめとして世界の身体文化を比較するとともに、それぞれの地域の身体性に関する特徴をまとめる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(91 田中愛／9回) 科目全体のデザインに関するガイダンスを実施した後、「儀礼とスポーツ的活動」を中心に、身体文化の理解を試みる。その際に、スポーツ社会学やスポーツ人類学的知見を主に参照し、「身体」に関する世界のつながりについても言及する。このことによって、世界史の理解にとって何らかの助けになることが見込まれる。また、身体文化の伝播・普及に伴って、実践の言語化がどのようになされているかについて議論する。</p> <p>(81 鋳物美佳／2回) 身体運動と身体表象の関係について、理論的な背景の理解を試みる。また、武道や舞踊、伝統芸能、スポーツの活動それぞれの分野における理想の身体の使い方について理論的に理解し、それぞれの「稽古」の世界の奥深さに触れる。</p> <p>(116 佐藤雄哉／4回) 武道や舞踊、伝統芸能、スポーツの活動それぞれの分野における実際の稽古場面について学び、その難しさを含めて理解し、言語化を試みる。</p>	オムニバス方式
	スポーツを通して地域を学ぶ	<p>(概要) 本科目は、地域において人々が生活するとはどのようなことであるかを、多面的に理解することを目的とする。地域を知るためには、実際に地域に足を運ぶことが必須となるが、その際には、訪れる側に最低限の節度やマナーが求められる。本科目ではこの点に関して、理論的考察およびシミュレーションを通して学ぶことを第2の目的とする。最初に、「地域を知る」とはどのようなことであるのかについて、「奥多摩という地域」というテーマのもと理解する。今も豊かな自然が残る奥多摩地域を例にあげることによって、人々がどのようにして自然と共存しつつ生活を成り立たせてきたかを学ぶ。後半では、自然と共生する生活について理解を促すため、現地ガイドを職業とする方をゲストスピーカーに迎え、地域振興や自然との共存のあり方の実際を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(90 高橋珠州彦／3回) 奥多摩という地域を具体的な対象とし、地理学的な視点から「地域を学ぶとはどういうことか」について講義する。その際、方法論も踏まえ、地域の学び方についての講義を行う。</p> <p>(91 田中愛／4回) 授業全体のデザインと目的の共有のためのガイダンスを行う。また、講義によって得た基礎知識を、グループワークやグループによるプレゼンテーションを行うことによって多面的に理解を深めていく。さらに、現地での協同的な行動を見据え、チームビルディングの方法を知り、自然との共生に不可欠な道具や設備とその使い方についてもシミュレーションを行う。</p> <p>(90 高橋珠州彦・91 田中愛／8回) (共同) 地域振興の実際の活動を理解するため、現地ガイドをゲストスピーカーに迎え、実際に話を聞きながら、地域に暮らす人々と自然との、生活の中での共存のあり方について理解を深める。また、地域を知るための作法を学び、身に付ける。</p>	オムニバス方式、共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 現代社会での生き方を考える 考えをクロスさせる（知識を知恵に②）	スポーツとテクノロジー	<p>(概要) 本科目は、現代スポーツの諸問題の中でも「テクノロジーの発展」に着目し、人間と科学技術との関係を多角的に捉えること目的とする。スポーツは、人間の「勝利欲求」や「達成欲求」を原動力として、常に「高み」を目指す活動である。そのため、同じくより「高み」を目指す科学技術開発と親和性が高く、施設、設備、道具、トレーニング方法に至るまで、科学技術に支えられていると言っても過言ではない。このことを、「トレーニング科学」、「バイオメカニクス」、「エンハンスメント」、「サプリメント」等を題材としつつ、実際のスポーツ実践に関連付けながら体験的に理解する。また講義全体の最後には、科目担当責任者がこれまでの講義を踏まえて、今後、人間は科学技術とどのように付き合っていけばいいのかについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(75 村岡慈歩／8回) スポーツ科学(おもに運動生理学)に基づいたトレーニング理論を概観する。中でも、特にストレンクスおよびコンディショニングの理論と方法について理解し、現代のアスリート養成の理論的背景を知る。また、スポーツ科学に関連する施設、設備、道具、トレーニング方法について取り上げる中で、「スポーツ」と自然科学分野(物理学、化学、生物学、数学等)との「つながり」、すなわちスポーツについての学問の「つながり」を改めて理解できるようにする。まとめとして、スポーツ文化における今後のテクノロジーの役割について議論する。</p> <p>(45 笹原千穂子／7回) スポーツ科学(おもにスポーツ栄養学、スポーツ医学)に基づいたアスリート養成の理論的背景を知る。スポーツをする上で適切な栄養摂取、身体活動量や食事摂取量、身体組成等の測定方法について理解し、トップアスリートからスポーツ愛好者まで、対象に応じた栄養指導が行われていることを理解する。また、スポーツと「サプリメント」との関係について、エンハンスメントの視点から議論する。</p>	オムニバス方式
	境界線上の日本学	<p>本講義では、歴史、文化、政治、経済、法制度など、世界の多様性の中で日本を相対化しつつ、日本という地域における人間の営みを明らかにすることを通し、日本国内にとどまることなく海外から日本がどう見えているのかを学び、国際教養人としての基礎力を身につける。日本を対象とした研究について、視点や研究手法・内容について理解し、日本国内で教育として行われている内容、メディアで発信されている内容、日本の歴史、文化、政治などについての海外での教育・報道など、多角的に捉え、日本がどのように認識されているか、日本と他国の関連性について考える。また、日本の文学や映画など作品自体の評価や海外作品での「日本」の扱われ方を分析することにより、「日本」に対する認識についてディスカッションを行う。</p>	
	ダイバーシティ&インクルージョン	<p>本講義では“多様な人々”が、実は社会には多く存在するという事実をポジティブに理解し、そうした多様な人たちが互いに尊重し合って調和して生きていくことのできる社会の実現について考えていく。「ダイバーシティ(人種、民族、文化、ジェンダー、セクシュアリティ、障がい、エイジング等)」を理解し、受容できるようになることで、こうした“個性”を、「当たり前」のものとして受容し、ありのままに表現することが可能な社会、そしてその基盤となるような人権意識・共生社会の実現について考えていく。授業では学生同士のQ&Aを含めたグループ・ディスカッションを行い、知識と実践力を身に付ける。</p>	
サステナビリティと人類社会	<p>本講義では、SDGs等のサステナビリティについて、文化的背景を踏まえて考察する。その際に、JICAをはじめとする国際協力やNPOなどの草の根活動による海外ボランティアなどについても、全体像や背景なども含めて体系的に考えていく。ボランティア活動に対して、自分たちは「やってあげている」「良いことをしている」という短絡的な視点に陥ることなく、文化的・社会的違いを超えて、持続可能な社会を「共に創る」とはどういうことか考え、その際に必要となる視点や知識について学んでいく。最終的には、地域の活性化についての具体案・取り組み方法について考えていく。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	現代社会での生き方を考える （知識を知らず③） 考えを深める	教養ゼミ1	本科目は、演習形式で行われる授業であり、「教養ゼミ2」「教養ゼミ3」「教養ゼミ4」に繋がっていく科目となっている。本科目では、自然科学、社会科学、人文科学の各分野におけるゼミが設置され、これまでの教養教育で身につけた知識とスキルを用いて、各専門分野の教養を深めていく授業が行われる。例えば人文科学分野の歴史であれば、既に学んだ歴史学の知識を基調としつつ、実際に史料と向き合い、これを読み解いていくことで、歴史を明らかにしていくとともに、歴史学の特徴に関しても学んでいく。各分野で、各分野の手法に則った演習授業が展開される。
		教養ゼミ2	本科目は、演習形式で行われる授業であり、「教養ゼミ1」の次の段階として設置された科目である。さらに本科目は「教養ゼミ3」や「教養ゼミ4」と繋がっていく。「教養ゼミ1」と同じく、自然科学、社会科学、人文科学の各分野のゼミが設置され、これまでの教養教育と「教養ゼミ1」で身につけた知識とスキルを、さらにこの科目によって深めていく。例えば、歴史であれば、「教養ゼミ1」で身につけた史料読解能力を生かして、さらに批判的な史料読解を行い、新たな歴史の一面を浮かび上がらせていく。各分野で、各分野の手法に則って、演習授業は行われる。
		教養ゼミ3	本科目は、演習形式で行われる授業であり、「教養ゼミ2」の次の段階として設置された科目である。「教養ゼミ1」や「教養ゼミ2」と同じく、自然科学、社会科学、人文科学の各分野のゼミが設置され、これまでの教養教育と「教養ゼミ1」、そして「教養ゼミ2」で身につけた知識とスキルを、さらにこの科目によって深めていく。例えば、歴史であれば、「教養ゼミ1」と「教養ゼミ2」で身につけた史料読解能力と批判的な史料講読を生かし、複数の史料を読み込み、読み解くことでその史料が示す歴史像を浮かび上がらせていく。各分野で、各分野の手法に則って、演習授業は行われる。
		教養ゼミ4	本科目は、演習形式で行われる授業であり、「教養ゼミ3」の次の段階として設置された科目である。「教養ゼミ1」「教養ゼミ2」「教養ゼミ3」と同じく、自然科学、社会科学、人文科学の各分野のゼミが設置され、これまでの教養教育と「教養ゼミ1」「教養ゼミ2」及び「教養ゼミ3」で身につけた知識とスキルを、さらにこの科目によって深めていく。例えば、歴史であれば、「教養ゼミ1」「教養ゼミ2」「教養ゼミ3」で身につけた史料読解能力と批判的な史料講読能力及び史料を用いて歴史を明らかにしていく能力を生かし、学生が独自に設定したテーマを、自身で選んだ史料を用いて、そのテーマに関する歴史を紡ぎ出す作業を行う。各分野で、各分野の手法に則って、演習授業は行われる。
全学共通キャリア形成科目	基礎	社会とキャリア	学生の到達目標を、①多様な価値観を理解しうえて、自らの考えを表現できる、②チーム活動を通して課題を発見し新たな価値創造ができるようになる、③自己の学び方を理解し、活かし方を考えることができる、の3点に設定し、「社会」に関する理解として、キャリア理論や産業・労働に関する知識の学習または、社会課題に焦点を当てたチームによるプロジェクトを運営することで、それらを「自己のキャリア」と結び付けて考え明確化できるようにする。
		仕事とキャリア	業界別・年代別の社会人ゲストスピーカーによる講義とテーマに基づいた討論、学生自身による社会人へのジョブインタビューと発表、さまざまな業界情報の学習や各種のアセスメントを経験することで、①多様な仕事や働き方への理解を深めること、②自己の選択の幅を広げること、③「考え方」を問い、問いの解決のために行動を起こすこと、ができるようになることを目的とする。授業を通して、キャリア仮説を修正すると共に、必要なキャリア体験を明確化する。
	発展	キャリアデザイン基礎	インターンシップに関わる各種情報調査、ボランティア、留学などに必要な意識(well-beingの強化、アントレプレナーシップ)とスキルを修得することで、様々なキャリア体験に向けての準備を行う。具体的には、①自ら設定するキャリア体験(インターンシップ、ボランティア、留学等)に必要な意識やスキルを高めること、②自己の個性を發揮しながら、他者の価値を引き出すことで、相互に学びを広げること、③生きがいや人生、外部環境の面から、キャリアを理解すること及び、キャリア仮説の拡充・修正を行うものである。
		キャリアデザイン応用	各自が設定したキャリア体験(インターンシップ、ボランティア、留学等)を踏まえて、自己形成とキャリアプラン作成を行うものである。具体的には、①キャリア体験を踏まえて、今後の自分のキャリアデザインを考えること、②自己の個性を發揮することで、他者の価値を引き出し、相互に学びを深めること、③自己の進路選択に向かって行動できるようになること、を目標とし、グループワークを通して各自の指向を明確化し、キャリア仮説を拡充していく。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通キャリア形成科目	発展 キャリアアップ	生涯かかるお金の問題や、「働き方」やワークルール、会社の知識等の学習および、ジュニアアドバイザーとして後輩に自分の就職活動体験を伝える活動を通し、リーダーシップの幅を広げることにより、①人生を俯瞰しながら「どのような社会で生きていきたいか」「仕事のありかた」について自分なりに考えを深めることができるようになること、②ファシリテーションスキル等必要なスキルを修得すること、③明星アイデンティティの確立を行うことを目的とする。	
	学科等科目 基幹科目	データサイエンス概論1	データサイエンスとは、科学的手法を用いてデータから価値のある情報や知見を生み出す学問領域である。データサイエンスが世の中でどのように用いられ役立っているかを概観し、他の学問領域とどのような関係にあるのかを理解し、今後のデータサイエンス学習・研究のロードマップを設計できるようになることを目標とする。現代のデータサイエンスで用いられる主な科学的手法は、統計学と人工知能(特に機械学習)である。具体的な応用例を交えつつ、これらの手法が、自然現象や社会現象の予測や識別においてどのように使われるのかを紹介する。また、学内において行われているデータサイエンスを使った研究や取組みも紹介する。
データサイエンス概論2		(概要)「データサイエンス概論1」において紹介した、学内におけるデータサイエンスを使った研究の詳細を、関係協力学部とその専門分野ごとにオムニバス形式で紹介する。今後のデータサイエンス学習・研究の具体的な内容を理解し、自身の学習・研究対象を選択できるようになることを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (1 篠原聡／3回) 第1回では、導入として関係協力学部の概要を紹介する。データサイエンス概論1で学んだ様々な分野への応用事例を踏まえながら、関係協力学部の専門分野とデータサイエンスとの関連について、まず考察する。第8回および第15回では、それぞれ前半(第2回から第7回)と後半(第9回から第14回)で学んだ、各学部に関わる諸分野の研究や活用事例を、自らの興味関心や社会的必要性に照らし合わせながらまとめ上げ、さらにそれらを相互に批評する。 (6 福田光一／4回) 情報学の研究分野には、自然言語処理、画像処理、インタラクティブシステム、オーディオプロセッシング等、データサイエンスの手法を使うものが多い。これらの中から最新の研究トピックスを紹介する。 (8 宮脇健太郎／4回) 理工学の研究分野のうち、知能ロボティクス、機械制御、宇宙工学、大気、気象、地球環境等の中から、データサイエンスを利用した研究を紹介する。 (11 横田宏治／4回) 経済学におけるデータ解析の歴史は古く、体系も確立している。最新動向も踏まえてデータサイエンスの活用を紹介する。	オムニバス方式
基礎解析学1		本講義では微分積分学の基礎を学ぶ。微分積分学は、自然科学のみならず社会科学等においても幅広く登場する数学の基礎となる分野である。収束等の概念を論理的に厳密に扱う現代数学の方法を理解し、かつ具体的な関数に対する微分・積分計算を身につけることを目標とする。 $\epsilon - \delta$ 論法による収束等概念の厳密な定義から始め、そこから導かれる性質およびその証明方法を理解する。まずは一変数の場合の初等関数をはじめとする具体的な関数について、その微分や積分を計算し、成り立つ様々な性質を見る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科等科目 基幹科目	基礎解析学2	「基礎解析学1」に引続き、特に多変数関数の場合の微分積分学の基礎を学ぶ。また、様々な物理的現象や工学的現象のみならず社会科学的现象までをも記述する微分方程式の基礎を学ぶ。微分積分学の基礎を理解し、かつ具体的な計算をすることができるようになり、多種多様な分野において専門的な研究を行うことができるようになることを目指す。多変数関数の場合の微分(偏微分・全微分)および微分可能性を導入し、その性質を理解し、様々な関数について計算に慣れ親しむ。多変数の場合の積分(重積分)についても、定義や意味を理解し、体積の計算等にも慣れ親しむ。また、ある種の物理法則を仮定した時に、ある種の物理現象が微分方程式によってどのように記述されるかを見る。また、その解析が物理現象を理解する上で、どのように役立つのかを理解する。	
	線型代数学1	線型代数学は、情報・理工系の多くの分野において登場する数学の基礎となる体系である。幾何学的なベクトルやベクトルの写像等を拡張した線型空間の概念を理解することを目標とする。まずは低次元の場合の具体的なベクトル・行列計算等を行うことができ、更には高次元の場合も扱い、連立一次方程式を解く等の応用にも使うことができるようになることを目指す。はじめは実数上の2、3次元におけるベクトルや行列の幾何学的意味を考えながら、その計算に慣れ親しむ。その後、n次元や複素数に拡張し、掃出し法等の応用も修得し、抽象線型空間の理解に至る。	
	線型代数学2	「線型代数学1」に引続き、抽象線型空間の性質を理解し、使いこなすことができるようになることを目標とする。抽象線型空間においては、基底を取ることにより座標を導入し代数的手法を用いることができる。これにより情報・理工系の多くの分野に現れる線型空間の対象を扱い、専門的な研究を行うことができるようになることを目指す。抽象線型空間をその満たすべき性質により定義することから始めて、その基底を取ることにより座標を定めることができ、座標によって代数的手法を用いることができるようになることを見る。一般の体や高次元の場合の線型空間において成り立つ様々な性質を理解し、かつ具体的な計算による応用も学ぶ。	
	統計学1	種々の分野におけるデータから有用な情報を得るためには統計学の知識を身につけることは今や必須である。本講義では統計的なもの見方や考え方を身につけるため、種々の統計学の共通の基礎である推測統計の推定論について理論面を中心に学ぶ。最初に要約統計量、散布図、ヒストグラムなどの記述統計について学び、データの傾向や性質、特徴の抽出方法を習得する。次に統計学の数理的な基礎である確率を学ぶ。確率変数と確率分布、種々の確率分布、期待値、大数の法則、中心極限定理などを扱う。次に統計における重要な標本分布(カイ2乗分布、t分布、F分布など)とその諸性質、そして点推定(不偏推定、有効推定、漸近有効推定、一致推定、最尤推定、モーメント法など)について理論面を中心に例と共に学ぶ。統計学の基礎知識である統計的推定論の理論と応用を身につけてデータサイエンス分野で活躍できるようにする。	
	統計学2	「統計学1」に引き続き、本講義では種々の統計学の共通の基礎である推測統計の推定論(区間推定)と検定論について理論面を中心に学ぶ。「統計学1」では推定論の点推定を学んだが、本講義では、最初に推定論の区間推定を学ぶ。区間推定である信頼区間の考え方、そして種々の信頼区間(平均の信頼区間、分散の信頼区間、比率の信頼区間、平均の差の信頼区間など)を理論的に導出し、応用例と共に理解する。次に検定論を扱う。検定論では仮説検定の考え方(仮説、棄却域、有意水準、第1種と第2種の誤り、検出力など)、そして最強力検定、尤度比検定、種々の具体的検定法を扱う。さらに、適合度検定と分割表の独立性検定などを学ぶ。推定(区間推定)と検定について理論面を中心に応用例と共に学ぶ。統計学の基礎知識である統計的推定論と検定論の理論と応用を身につけてデータサイエンス分野で活躍できるようにする。	
	プログラミング概論	プログラミング言語とプログラミング技術の基礎を理解する。プログラムの動作原理の基本的な考え方、フローチャートを用いた論理的思考と記述に始まり、プログラムの構造、プログラムの書き方、デバッグについて、グループ学習とスパイラルモデルによる反復学習を行う。また、プログラミング言語についてはPythonおよびCの両方を学ぶ。将来的に学ぶであろう発展的な内容(ポインタ、関数、構造体など)や、実務を意識した題材を取り上げ、それらについてごく簡単に分かりやすい例で解説をする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科等科目 基幹科目	プログラミング演習	データサイエンスにおいて必要となる、データの取得、収集、加工、変換、処理、出力、可視化等には、プログラミング技術を活用することが欠かせない。「プログラミング概論」でプログラミングの基本概念を学ぶとともに、本科目において実際にプログラムを書いたり構成したりといったことを演習を通して体験し、基本的なプログラミング技術を体得する。プログラミング言語としては、データサイエンスにおいて広く使われる言語を採用するという方針で Python を用いる。	共同
	回帰分析	種々の分野において既知の情報(データ)から未知の値を予測したい場合が多く見られる。本講義では、いくつかの変数(説明変数)からある変数(目的変数)の予測・説明などに用いられる種々の回帰分析の知識を身につける。最初に回帰分析の考えと単回帰分析について学ぶ。次に説明変数を複数にした重回帰分析を学ぶ。幾何学的解釈も理解する。さらにロジスティック回帰モデルなどを用いた各回帰分析を学修する。さらに一般化線形モデルなどのさまざまな回帰にも触れる。回帰分析の特に数理面を身につけてデータサイエンス分野で活躍できるようにする。	
	多変量解析	種々の分野において多くのデータが存在している。それらのデータは変量が互いに関連性がある場合が多い。本講義は、多変量データの統計解析である多変量解析の目的に応じた種々の解析法の理論を身につけることにより、実際に正しく解析し、結果を解釈出来るようにすることを目的とする。「回帰分析」の授業で多変量解析の一部分を学んでいるので、引き続きそれ以外の種々の多変量解析法を学ぶ。主として、多変量分布とそれに関する推論、判別分析、主成分分析、クラスター分析、数量化分析などを学び、多変量データに対して適切な解析ができるようにする。	
	AI・機械学習1	機械学習は近年の人工知能(AI: Artificial Intelligence)研究の主流を成している手法である。本講義ではAI研究の歴史を振り返ると共に、機械学習の手法を中心として理解を深め、教師あり学習と教師なし学習について学び、今後のデータサイエンス学習・研究において使いこなせるようになることを目標とする。教師あり学習では、直感的な概念学習からはじめて決定木作成アルゴリズムを学び、統計的識別手法のベイジアンネットワークを学ぶ。また、サポートベクトルマシンを通じて過学習や汎化能力について、ランダムフォレストの学習例を通じてアンサンブル学習について学ぶ。教師なし学習では、クラスタリングとパターンマイニングを中心に学ぶ。クラスタリングでは、分割最適化クラスタリングの手法および異常値検出手法を学ぶ。パターンマイニングでは、具体的なアルゴリズムなどを通じてその原理を理解する。	
	AI・機械学習2	「AI・機械学習1」に引き続き、深層学習、強化学習、AIセキュリティ等の技術について理解を深める。本講義のテーマを理解することによって、より進んだ研究に取り組むことができるようになることを目標とする。深層学習は多層ニューラルネットワークを用いた機械学習の手法である。ニューラルネットワークのしくみと誤差逆伝播法による学習アルゴリズムを学んだ後、深層学習の適用例を画像処理等のアプリケーションを通じて理解する。また、教師あり学習、教師なし学習に分類されない学習手法、特に強化学習について学ぶ。強化学習を定式化するための確率過程であるマルコフ決定過程や、強化学習の基礎概念を理解する。また、具体的な強化学習アルゴリズムを実際の問題に適用することで、アルゴリズムの動きをより深く理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科等科目 基幹科目	情報学基礎	<p>(概要) 情報学およびコンピュータに関する基礎的な知識に関連した入門的な授業である。コンピュータの基本的な構成や動作をハードウェアとソフトウェアの両面から解説し、コンピュータ内部でプログラムが動作する仕組みを説明する。本講義によりコンピュータシステムの基本動作と全体像を理解し、今後、履修・学修していく専門性の高い講義を理解するための基礎知識を身につけることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 篠原聡・13 和田康孝・84 栗原明栄子／3回) (共同) 本講義のガイダンス、全体の振り返り及びまとめを共同で行う。</p> <p>(84 栗原明栄子／4回) データ表現、アプリケーションに関連する内容を解説する。</p> <p>(13 和田康孝／4回) ハードウェア、システム構成に関連する内容を解説する。</p> <p>(1 篠原聡／4回) ネットワーク、システムソフトウェアに関連する内容を解説する。</p>	オムニバス方式、共同(一部)
	情報セキュリティ入門	<p>情報セキュリティをいかに確保するかは組織にとっての大きな課題となっており、これらに対応できる人材が求められている。サイバー攻撃、情報漏洩、不正アクセスなどの多種多様な脅威は、ITによる対策だけではなく、適切な情報管理、業務フローの見直しなども重要になる。そのため、本科目ではITを正しく理解し、情報化と企業活動を効率的に進めるために必要な基本概念、よく使われる用語などの基本知識とともに、情報セキュリティ確保に貢献し、脅威から継続的に組織を守るために前提となる知識を修得する。</p>	
	情報倫理	<p>(概要) 情報に接する上で、いかなる点に気をつけて情報活用もしくは情報創出をしていくが必要になるかを学修する。また、最低限必要となる情報リテラシーおよび法的観点を理解し活用できるよう学修する。具体的には、情報の発信・流通における倫理的な問題について基礎知識を習得するとともに、倫理観および法的素養を身につける。また、社会関係資本(ソーシャルキャピタル)に係る基本的な要素を学び、自らを取り巻く社会関係資本がどのように機能しているか、どのような情報を創出することによって、自らを取り巻く良い社会関係資本が醸成されていくのかを理解し実践する能力を獲得する。授業は学生の主体的な取り組みを重視する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(139 吉田直可／5回) 倫理を学ぶ意味、論理的思考、批判的な情報の検討について説明する。また、憲法で守られたプライバシーと表現、個人情報のコントロールとプロファイリングについて説明する。</p> <p>(119 大門誉幸／5回) 特許法及びその他の法律、著作権について説明する。また、人工知能と情報倫理をテーマとして、グループワークを行う。</p> <p>(127 中貴史／5回) ソーシャルキャピタルとその効用や生産性との関係について説明する。また、ソーシャルキャピタルを育てるコミュニケーションの方法についても説明する。</p>	オムニバス方式
	アルゴリズムとデータ構造1	<p>「アルゴリズム」とは、与えられた問題をどのようにして解決するかという「考え方」であり、「データ構造」は、アルゴリズムを処理するために都合よい形にデータを格納する方法である。本科目では、Javaによるプログラミングを通してデータ構造やアルゴリズムの理解や実現方法が修得できるようにすることを目標とする。前半の授業では簡単なゲームを用いて、後半の授業では計算機を題材にして基本的な概念を修得し、実践的なプログラムを書くための考え方と見通しを立てられるようにする。本科目で取り扱うテーマは主に、リストと木構造、再帰、字句解析および構文解析である。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科等科目 基幹科目	アルゴリズムとデータ構造2	<p>(概要)「アルゴリズム」とは、与えられた問題をどのようにして解決するかという「考え方」であり、「データ構造」は、アルゴリズムを処理するために都合よい形にデータを格納する方法である。本講義では、「アルゴリズムとデータ構造1」に引き続き、Javaによるプログラミングを通してデータ構造やアルゴリズムの理解や実現方法が修得できるようにすることを目標とする。また、計算量の理解に基づいて、複数のアルゴリズムをその性能で比較することで、アルゴリズムの優劣を論じたり、状況に応じて適切なアルゴリズムを選択する力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(73 丸山一貴／3回) 本講義で取り扱うテーマのうち、Javaによる開発環境の導入と、スタックとキューの説明、オブジェクト指向の考え方に基づく実装方法を担当する。</p> <p>(138 吉岡紫／12回) 探索、ソート、文字列探索、ハッシュ、計算量を担当する。</p>	オムニバス方式
	統計の数理	<p>「統計学1」と「統計学2」で学んだ種々の統計学の共通の基礎である推定と検定について引き続き学ぶ。本科目では、種々の分野におけるデータを解析する上で良く用いられる必須かつ重要な統計解析法について数理面(分布論、漸近論、マルコフ連鎖など)を中心に例と共に学ぶ。最初に分散分析(一元配置分散分析、二元配置分散分析など)を学ぶ。次にノンパラメトリック検定(ウイルクソン検定など)について学ぶ。さらにベイズ統計(ベイズ統計の考え、事前分布、事後分布、ベイズ推定など)を学修する。そして順序統計(順序統計量の考え、最大値の分布、中央値の分布、範囲の分布など)について学ぶ。さらに、時系列解析(自己共分散、ARモデル、MAモデルなど)も学ぶ。</p>	
	解析学	<p>本科目では、基本的な解析学として微分積分を扱う。数学的・論理的な厳密性よりむしろ微分積分の具体的な計算をこなせるようになることを目標とする。このため解き方を人に説明できるように計算技術の研鑽に努める。また微分積分を理解することにより、様々な分野の現象理解への情報科学の応用の足がかりとなるよう進める。よって必要に応じコンピュータによる数値計算やシミュレーション、物理現象などの具体例も取り込みつつ、社会の中で利用されている数学への理解を深める。数学は一見抽象的であるが、具体例を通してその内容を理解し、数学の内容を主体的にとらえる意識を育む。</p>	
	応用統計学	<p>「統計の数理」で学んだ統計解析法と共に、種々の分野におけるデータを解析する上でさらに必要な統計解析法をこの講義では学ぶ。前半では、生物統計(医療統計)分野などで必要な多重比較法(多重比較は何故必要か、チューキーの方法など)、フィッシャーの精密検定、マクネマー検定、そして生存時間分析(カプラン・マイヤー推定、ログランク検定など)を中心に学ぶ。後半では、計算機統計分野で必要なEMアルゴリズムやマルコフ連鎖モンテカルロ法(MCMC法)などを中心に学修する。</p>	
	データベース工学	<p>データベースは、世の中で稼働している情報システムには必ずと言ってよいほど含まれているITシステムの重要なコンポーネントである。本講義では、データベースの機能、特徴を理解し、説明出来るようにする。特に、現在のデータベースシステムの主流であるリレーショナルデータベースについて、その原理から応用までを学修する。また、データベースを扱うSQL言語を使用し、データベースの管理、制御などが出来るようにする。授業では、世の中で広範囲に利用されているデータベースシステムを使って、実際にSQL文を書いてデータを扱う授業を中心とする。また、データベースの設計手法の基礎について学び、簡単なデータベースを設計できるようにする。これらの学修を通して、データを効果的に活用出来るようにする。</p>	
	離散数学A	<p>離散数学は情報科学において、その数理的基盤の一つであり、重要である。本科目では、離散数学の応用として符号理論や暗号理論の理解を目標とし、そのために必要な代数学とその応用について学ぶ。まず、前半で集合と同値関係から始め、群、環、体といった代数系を導入する。その上で群の準同型定理や、環の性質、イデアルといった概念を学ぶ。さらにユークリッドアルゴリズムや素数に関する性質に触れる。最後に、公開鍵暗号や電子署名といった、整数論や代数学の応用を学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基幹科目	離散数学B	離散数学は情報科学において、その数理的基盤の一つであり、重要である。本科目では、離散数学のうち、その主要分野であり、多くの応用を持つ、グラフ理論の基礎を理解することを目標とする。まず、集合と論理や、数学的帰納法などから、本科目で必要となる基礎的なツールを準備として学ぶ。その上で、グラフの定義から、その同型性や不変量といった概念や諸定理を学ぶ。平面的グラフや、グラフにおけるオイラーの多面体定理にも触れ、またグラフ彩色や四色問題と五色定理についても紹介する。		
	コンピュータネットワーク	本科目では、まず、コンピュータネットワークの論理的構造を定義したOSI参照モデルを学ぶ。その後、現代を代表するコンピュータネットワークであるインターネットについて、OSI参照モデルの第2層から上位層に向かって、順にその役割と機能を学んでいく。また、現実世界でネットワーク間を相互接続する装置であるスイッチとルータについては、それぞれの動作原理について詳しく説明する。さらに、インターネット通信のほとんどを占めるTCPプロトコルについては、その中核機能である信頼性のある通信の実現手法を詳しく解説する。		
	プロジェクトマネジメント	本科目では、プロジェクトにおけるマネジメントの概要と意義について理解し、プロジェクト内のメンバーによる協働が円滑に推進するための管理手法を習得することを目的とする。毎回の授業やディスカッションを通じて、プロジェクトマネジメントの全体像をはじめ、プロジェクトマネジメントの管理手法、SWOT分析や要因分析など論理的思考法について理解を深める。また、プロジェクトを管理するための理論を学び、チーム毎のディスカッション等を通じて理論を定着させる。		
	次世代技術	近年、量子コンピュータなどの新しいアーキテクチャ等を用いた次世代コンピュータ技術の研究が進み、注目されている。これらの技術が成熟した暁には、現在のコンピュータ技術の能力を遙かに凌駕したものとなる可能性がある。次世代技術を理解し、それらがデータサイエンスに及ぼす影響を考慮した新しいデータサイエンス研究を目指す。量子コンピュータを用いた量子アルゴリズムを紹介し、暗号解読等の具体的な応用事例を見る。また、これまでにない仮想通貨を実現したブロックチェーンの原理やその応用可能性を紹介する。		
学科等科目	情報学分野 応用科目	コンピュータアーキテクチャ	ソフトウェア・ハードウェアを含むコンピュータシステムの構造や仕組み、プロセッサの処理高速化技術の基礎、またハードウェアとソフトウェアの関わりについて理解することは、より良いハードウェアを実現することはもちろん、より良いソフトウェアを実現することにおいても非常に重要である。本科目では、現在のほぼ全てのコンピュータシステムの基礎となっているノイマン型アーキテクチャをベースに、ソフトウェア・ハードウェアを含むコンピュータシステム全体の構成について講義を行う。コンピュータ内部でのデータ表現やプロセッサの構成、メモリ階層等の基礎的内容から、システムの性能向上技術、マルチプロセッサシステムなど最近の動向まで広く取り扱うことで、今日のコンピュータシステムに関する技術的内容を理解するための素養・基礎知識を身につけることを目的とする。	
		画像処理	本科目では、画像処理の基礎から、ディープラーニングに代表される高度な画像認識まで幅広く扱う。画像処理では、グレースケール/カラー画像、幾何学変換、濃淡変化処理、フィルタ処理、二値画像処理、複数画像の利用などの内容を扱う。画像認識では、顔検出や画像のマッチングを目的とした古典的な認識技術から、文字認識や一般物体認識を目的としたディープラーニングの応用を学んでいく。また、画像認識分野における最新の研究内容に関しても紹介していく。技術の使われ方、どのように世の中に役立っていくかといった内容だけでなく、自らプログラミング実装して評価できるようになることを目標とする。なお、プログラミング言語としては、データサイエンスや機械学習の分野で多く用いられるPythonを利用する。	
		インタラクティブシステム	本科目は、ユーザーインタフェースとユーザーエクスペリエンスについて、その違いを明確にし、それぞれの領域についても学ぶ。また、実際にインタラクティブシステムを設計・実装することで実践を通じインタラクションの理解の深化を図る。まず、インタラクションについて理解し、その概念や仕組みについて学ぶことで、身の回りにおけるインタラクション技術について、ユーザーと技術の両視点から分析し、論理的に説明出来るようになること、そしてインタラクティブシステムを設計し、実装できるようになることを目的とする。また、インタラクション技術を技術的観点だけでなく、人間中心の視点から、身体的反応、心理的効果、認知方法などを含めて考えることができることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学科等科目	情報学分野	オーディオプロセッシング	コンピュータで音や音楽を解析または制御する基礎的な手法を学ぶ。音の物理、音楽の理論、音響信号処理に関する基礎知識を学び、PCM音源の出力に始まり、スペクトル解析、音の合成、MIDIなどを題材にしたプログラミングを習得する。プログラミング(C言語)による解析や処理を行うため、基礎的なプログラミングの技術があることが前提で講義を進める。Visual Studioを使ってVisual C++によるプログラミングを行う。		
		人工知能	本科目では、人工知能のプログラミング実装を通して、機械学習の基本的な手法から応用例について学んでいく。講義全体の流れは3部構成となっており、第1部では数値データ、第2部では自然言語処理に関連するデータ、第3部では画像認識に関連するデータを用いる。各部では、基本的なアルゴリズムを習得したのち、プログラム実装によりデータ収集・整理・加工、学習モデルの作成と評価を実施し、最後に取り組んだ課題について発表とディスカッションを実施するという流れで進める。なお、プログラミング言語としては、データサイエンスや機械学習の分野で多く用いられるPythonを利用する。		
		自然言語処理	データサイエンスで扱うデータにはテキストデータも含まれており、そこから重要な情報を抽出することが求められる。本講義では日本語や英語などの自然言語を計算機で扱うための理論と技術について、形態素解析や構文解析といった基礎から、実際に社会で用いられているアプリケーションである機械学習による評判分析や対話システム、機械翻訳などの応用までを学ぶ。また、深層学習による最新の言語処理技術についての紹介も行う。内容の理解だけでなく自然言語処理の技術を身につけることを目標として言語処理ツールやライブラリを用いた実装を行う。この実装を通して、テキストからどのような情報を獲得することができるのか、我々が日常的に用いている自然言語を計算機で処理する際にどのような問題が生じるのかなどを理解する。		
	理工学分野	応用科目	解析力学	解析力学が扱う物理現象は、古典力学と全く同じである。解析力学は、他の物理の科目とは違って、新しい物理現象を学ぶ学問ではない。解析力学とは、ニュートン力学の数学的定式化とは違った定式化を考え、運動方程式を立てることや解くことを、容易に迅速に行うことを目的とした学問である。解くことが難しい問題に対しても、その特殊な数学的形式から、ニュートン力学には無い数学的なテクニックを使ってアプローチする。この授業では、ニュートン力学の復習から始めて、ラグランジュ形式(配位空間、ラグランジアン、オイラー・ラグランジュ方程式、変分原理)とハミルトン形式(相空間、ハミルトニアン、ポアソン構造)などを学修する。また、これらの形式から量子論(経路積分量子化、正準量子化)の導入も行う。	
		量子力学1	量子力学は原子や分子などミクロな世界の力学としてはじまったが、今やマクロな世界まで含めて全物理学の基礎と考えられるようになった。量子力学1では、振動数、波長、波数、角振動数といった波動を表す基本的な物理量の解説からはじめ、光と物質の粒子性と波動性について、光電効果、電子の波動性とド・ブロイの物質波の考え、ボーアの原子論といった多くの量子的な実験事実を紹介する。これらの実験事実を知ることで、量子力学の基本的な考え方、とくに古典力学との違いを理解する。エネルギー、運動量と角振動数、波数のアインシュタインの関係式のような粒子性と波動性をつなぐ基本的な関係式の意味を理解し、ミクロの世界の量子的な物理量を扱うことに次第に慣れるように授業を進める。		
		量子力学2	量子力学1で古典論では説明できないさまざまな量子論的な実験事実を紹介したが、量子力学2では現代の量子力学の基本的な枠組みについて解説する。波動関数の確率解釈、物理量とエルミート演算子、その期待値といった量子力学の基本的な考え方を説明したのち、ディラックのブラケット形式による変換理論について詳しく説明する。シュレーディンガーの波動方程式の基本的取り扱いについて学ぶ。特に井戸型ポテンシャル、調和振動子、反射と透過の問題の物理的意味を理解し、自力で解くことが出来るようになる。物理学で基本的な考え方である対称性と保存則(並進変換対称性と運動量の保存、時間推進対称性とエネルギーの保存、回転対称性と角運動量の保存)について、その量子力学での取り扱い方を学ぶ。確率振幅のコヒーレンスについて、EPAのパラドクスを学ぶことによって、その理解を深める。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 等 科 目 理 工 学 分 野 応 用 科 目	量子力学3	量子力学1、2において、量子力学がミクロな世界を記述する理論であること、そのときの物質の状態を記述する方程式はシュレーディンガー方程式によって記述されることについて学んだ。本講義では、3次元系におけるシュレーディンガー方程式の解法を、水素型原子を例にとり、厳密解の導出の途中で必要となる特殊関数や、量子数の意味について説明を行う。また、量子論的世界における角運動量、即ち軌道角運動量とスピン角運動量について説明する。電子を考えると、スピン角運動量の概念は重要である。以上のことを用いて、原子における電子状態について説明を行う。次に、厳密に解くことができない場合に近似的な解を与える手法として、摂動論、及び変分法について、例を交えながら説明する。	
	応用解析	物理学の諸問題は、数式化することにより数学的な問題に帰着する。本講義では、変分法とは何かを理解することを最大の目標とし、その利用方法を習得する。変分法は、解析力学をはじめ、物理学の幅広い分野において用いられている重要な考え方である。具体的には、まず最短時間経路問題を例に変分法の本質を理解し、微分積分を駆使して代表的な変分問題に取り組む。作用汎関数の停留条件からオイラー・ラグランジュ方程式を導き、具体的な問題を解く。懸垂線、最速下降線の問題を詳しく扱う。さらに、系に拘束条件が存在する場合に用いられるラグランジュの未定乗数法について説明する。変分法の本質を理解するとともに、自分で実際に計算できることを目標とする。	
	機械工学概論	<p>(概要) 本科目は、機械工学を学ぶ上で必要となる、機械と数学・物理の関係性を実際の適用例等から知ると共に、機械工学を利用するものづくり、開発、研究等に関して、幅広い専門分野の視点から機械工学と工業のつながりを理解する。なお、本科目の授業においては、のりもの、航空宇宙、ロボット・AIを取り上げて講義し、講義の最後には科目担当責任者がまとめを行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(74 宮本岳史／7回) 機械工学で用いられる数学、物理に関する基礎知識に関する授業を行う。また、鉄道分野(のりものにおける安全性)を対象に学問、研究、工業の観点から機械工学と工業のつながりについて講義する。</p> <p>(33 亀井延明／1回) 人間工学(統計学等)の分野を対象に学問、研究、工業の観点から機械工学と工業のつながりについて講義する。</p> <p>(37 熊谷一郎／1回) 流体力学・工学(のりものにおける流体等)の分野を対象に学問、研究、工業の観点から機械工学と工業のつながりについて講義する。</p> <p>(39 高三徳／1回) コンピュータ制御加工(CAD/CAM)の分野を対象に学問、研究、工業の観点から機械工学と工業のつながりについて講義する。</p> <p>(87 小山昌志／2回) 航空宇宙材料、材料力学(航空宇宙分野における材料・力学)の分野を対象に学問、研究、工業の観点から機械工学と工業のつながりについて講義する。</p> <p>(58 寺田耕輔・42 齊藤剛／2回) 熱力学・伝熱学(のりものにおけるエンジン工学等)の分野を対象に学問、研究、工業の観点から機械工学と工業のつながりについて講義する。</p> <p>(10 山崎芳昭／1回) ロボット工学(ロボット・AI)の分野を対象に学問、研究、工業の観点から機械工学と工業のつながりについて講義する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科等科目 応用科目 理工学分野	知能情報工学	神経モデルに基づく知能情報処理がAI革新をもたらし、知能情報処理技術とその応用は地球規模で、そしてかつてない勢いで大きく発展している。本講義では、知能、生物の脳・神経系の仕組み、AI、ニューラルネットワーク、ディープラーニングなどの知能情報処理のこれまでの発展について学ぶとともに、インテリジェンスICTをはじめとする、音声・言語などのコミュニケーションインテリジェンス、音楽・画像・映像などのメディアインテリジェンス、センシング・信号処理・コントロールなどのIoTインテリジェンス等、知能情報処理技術の各分野への応用について学ぶ。講義を通じて俯瞰的に知能情報工学への理解を深め、さらに知能情報処理技術を実践的に体得し、総合的な知能情報工学の基礎学力を身に付けることを目指す。	
	知能ロボティクス	本講義では、ロボット制御の基礎から応用技術まで、ロボットシステムを概括的に学ぶ。なお、授業は講義だけでなくクラウドツールを活用しPythonを用いたプログラミングを行い、アクチュエータ位置制御のシミュレーションやロボットの運動学の基礎も学修できるようにアクティブ・ラーニング形式で実施する。さらに、近年進歩が著しいAI技術のロボットへの応用についても、画像処理や機械学習の基礎を紹介する形で学修し、理解を深める。	
	機械情報処理	機械情報処理では、科学技術計算(応力、運動、振動、熱流体の解析や制御系)などの設計を行うために必要となるA/D、D/A、計測、モーター制御、ファイル入出力、画像処理、AIなどのプログラミングの初歩について学修する。プログラミングの動作原理を学ぶとともに、C言語やPython等を実際に用いてアクティブ・ラーニング形式で体験的に学修することで、多様化するものづくりにおける機械工学の技術要素の高度化に対応できるようになる。	
	制御工学	制御工学は、機械、電気・通信、数学、情報、コンピュータなど広い分野にわたる学問である。航空機や自動車などの乗り物、製造業の各種機械装置、プロセス工場の自動化設備など、産業機器から家庭用の電気製品にいたるあらゆる分野に応用されている。初めて制御工学を学ぶ人に、「フィードバック制御」、「ラプラス変換」、「ラプラス変換」と「ブロック線図」の関係、「ステップ応答」、「インパルス応答」、「周波数応答」、「ボード線図」の意味と、これらが工学にどのように役立つか講義する。さらに、授業は講義だけでなくクラウドツール上でPythonを用いたプログラミングを行い、制御シミュレーションの基礎も学修できるようにアクティブ・ラーニング形式で実施する。	
	機械制御プログラミング	プログラミング言語Pythonの基礎を学び、応用問題を通して実践力を身につける。前半は、Pythonの基礎事項として、プログラムの基本的な文法、簡単な処理の手順(アルゴリズム)を学ぶ。また、例題を通して、与えられた要求仕様が、様々なプログラムによって実現可能であることを学ぶ。後半は、Pythonの応用事項として運動の数値シミュレーション手法を学ぶ。ここでは、運動方程式で表される様々な運動を、プログラムによって数値的に解くことに取り組む。演習問題を通して、多くのプログラムに触れ、それらを参考にして自分でプログラムを書くことにより、実践力を身につける。	
	気象・熱環境学	気象が関連する代表的な環境問題として、グローバルな気候変動(地球温暖化)と都市域でのローカルな大気熱汚染問題(ヒートアイランド現象)に着目し、その発現機構を支配する大気科学と気象学の基本法則について理解を深めることを目標とする。後半では、都市ヒートアイランド問題を詳しく取り上げ、地球温暖化とのメカニズムにおける相違点や都市ヒートアイランド化の現況と環境影響、および都市緑化等の対策に関する基礎知識を修得する。	
	大気科学	大気環境問題の概要とそのモデル化及び保全手法について、幅広い知識を修得することを目的とする。前半は、大気環境の基礎と大気汚染の現状を理解し、大気環境を管理するための大気汚染物質の監視方法や排出量推計方法、大気汚染現象の物理的・化学的メカニズムについて学ぶ。後半は、大気環境を数式化して解析する方法(シミュレーションモデル)として、移流拡散方程式の解法に必要な計算手法(微積分・質量保存則など)を学ぶ。併せて、大気汚染の人体健康影響や植生影響の定量化モデルについても学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学科等科目 応用科目	理工学分野	地球環境学	気候条件や地理条件によって、地球上には多種多様な環境が存在する。ヒトが暮らす地域のほとんどは、ヒトが土地被覆を改編しながら、地域の生態系を創成してきたといっても過言ではない。本講義の前半では、基本的な地球上のエネルギーおよび資源循環について学び、それらの条件によって、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。後半は、これらのエネルギー・資源循環を利用した人々の歴史的な暮らしと、気候変動が進む現在抱える様々な環境問題について学びながら、その問題の本質を探るディスカッションを行い、地球環境問題への理解を深める。	
		宇宙工学入門	宇宙工学は、宇宙システム全般に関する工学を対象とする学際的な学問分野である。本講義では、特にロケットと人工衛星の運動に焦点を絞り、それらの基礎を学ぶ。はじめに、地上から宇宙までのロケットおよび人工衛星の運動を記述するために必要な、地球のモデルと座標系を学ぶ。つぎに、ロケットシステムの概略、ロケット推進の種類と仕組み、ロケットの運動の基礎を学び、演習問題を通して理解を深める。さらに、人工衛星システムの概略、人工衛星の軌道運動を学び、演習問題を通して理解を深める。	
		地球環境データサイエンス	(概要) 地球環境データを解析する上で必要となる、地理情報システム、衛星データの取り扱い、そして、数値シミュレーションについて、各5回ずつ横断的に学ぶ。全15回を通じて、地球環境データの入手方法やその解析方法そして最終的なアウトプットとしての可視化について学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (2 亀卦川幸浩／5回) 地球環境データの解析・可視化ツールである地理情報システム(GIS)について、基本概念と基本的利用法を学修する。加えて、GIS上での気象シミュレーションの実行等の実践的・発展的な課題にも取り組む。 (18 柳川亜季／5回) 地球環境データ解析に用いられるツールの使い方を学ぶ。ツールとしては近年着目されており、無料でかつブラウザで操作可能であるGoogle Earth Engine(GEE)を用いる。衛星データの取得方法、取得した衛星データの処理レベルに応じたノイズの除去方法や気象・植生・土地被覆といったデータをツール上で同時に解析する方法を学ぶ。 (16 櫻井達也／5回) 環境アセスメントや排出規制などの検討では、数値シミュレーションを用いた予測解析が不可欠となる。ただし予測解析を行う際には、実際の観測値との比較から、シミュレーションが持つ妥当性・信頼性を検証する必要がある。ここでは、大気拡散予測の精度検証で使用される統計指標について、その算出方法を学ぶとともに、実際の予測値および観測値を用いた課題にも取り組む。	オムニバス方式
	経済学分野	経済学入門1	経済学への入門科目であり、経済学の学びの基礎を培う。経済学の考え方はシンプルなものでありながら、現実の出来事を説明し、予測し、問題を解決する上でとても役に立つ。本講義では、まず経済学の方法の特徴について概観し、次に需要、供給と均衡などの根本概念を学ぶ。さらにミクロ経済学の基礎(消費者と生産者のインセンティブ、完全競争、貿易など)を修得する。また、経済学の学修においてのみならず、将来のキャリア形成にとっても有用な初等的な数学の知識を確認する。	
		経済学入門2	「経済学入門1」に引き続き、経済学の学びの基礎を培う。ミクロ経済学と並んで経済学を構成するもう一つの大きな柱がマクロ経済学であり、本講義はマクロ経済学への入門である。総所得、経済成長、雇用と失業、クレジット市場、金融システム、景気変動などについて基本的な知識を身につけることで、現実の経済の動きを理解し予測するためのスキルが培われる。また、経済学の学修においてのみならず、将来のキャリア形成にとっても有用な初等的な数学の知識を確認する。	
		マクロ経済学1	マクロ経済学では、国や世界全体の経済がどのように動くのかを学ぶ。消費者の生活や企業活動は、経済全体の動きに大きく影響されるため、経済全体がどのように動くかを知ることが重要である。国の平均所得や物価水準、利子率、為替レートといった指標がどのように決まるか、失業や景気変動はどうして起こるのか、それらが望ましくない動きを示すときに採りうる対策としては何があるか、などを論じる。本講義では、価格メカニズムが十分働く長期において、所得の確定と分配がどのように行われ、物価水準がどのように決まるかを中心に学ぶ。また、国民経済計算の見方や、海外との交易が存在する開放経済の場合についても学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科等科目 応用科目 経済学分野	マクロ経済学2	本講義では、ミクロ経済学で想定しているような価格メカニズムが十分に働かない短期のマクロ経済分析と、資本蓄積が供給能力として結実していく超長期のマクロ経済分析を中心に行う。価格メカニズムの機能が不完全な短期においては、需要の波が価格変動によって調整されず、景気変動が生産量や所得に現れる可能性がある。ここでは、そのメカニズムの解明と長期への移行過程、消費者行動や投資行動の分析などを行う。短期及び長期の分析では、投資は需要要因として現れるものの、それが生産能力の拡大につながるという供給面への影響が分析の簡単化のために無視されていた。超長期の分析では、この投資の供給面への影響を中心に据え、経済発展の問題を読み解く。	
	ミクロ経済学1	本講義では、ミクロ経済学の理論のうち、完全競争市場の分析を扱う価格理論を取り上げて学修する。まず需要と供給の均衡分析について学修し、その後、消費者行動の理論と生産者行動の理論について、基礎的な概念・モデルが理解できるようになることを目指す。また、わたしたちの日常生活は、ミクロ経済学的に捉えられる事象に満ちている。そこで、価格理論に関する基本的な知識をもとに、経済社会の現象や諸問題について、ミクロ経済学的な視点から分析・説明できるようになることも目指す。	
	ミクロ経済学2	本講義では、ミクロ経済学1に引き続き、ミクロ経済学の基本的な理論を学ぶ。まず部分均衡分析を学修し、効率性という概念を用いて、政府が実施している様々な政策を分析できるようになることを目指す。その後、ミクロ経済学の理論のうち、価格理論と並び重要な理論であるゲーム理論について、その基本的な概念・モデルを学修する。現実社会には、企業間の競争や国家間の競争等、相手の行動を予測しつつ行動する状況が様々な場面で見られる。そこで、ゲーム理論という分析手法を用いることで、様々な経済主体の戦略的な行動について、各自が理論的に説明できるようになることを目指す。	
	ファイナンス1	企業が生産活動を手掛けるには、それに先立って、工場や機械、事務機器の調達、従業員の雇用など、資金を伴う広義の投資計画を立てる必要がある。企業は、これらの投資計画に必要な資金をどのように調達するかも決定しなくてはならない。一方、企業がオファーする資金調達に応じる側の金融機関や投資家も、どのような形で資金調達に参画するべきか、意思決定をしなくてはならない。これらのすべての意思決定に共通するのは、「現在」、費用を支払う対価として、「将来」の収益を得るという枠組みである。本講義では、この異時点間の取引に対して意思決定を行う際に、強力な分析手段となる現在価値の考え方を中心に、企業の投資の意思決定法や、各種証券のプライシングなど、関連する論点を学修する。	
	ファイナンス2	ファイナンスが想定する異時点間の取引においては、将来、何が起こり得るかは正確にわからないうちに意思決定をしなくてはならないという根本的な問題がある。この状況を不確実性が存在するといひ、不確実性にどのように対処するべきかがファイナンスにおける一つの重要な論点になっている。本講義では、この不確実性の問題を明示的に取り扱う。ここでは、不確実性が存在する中で、投資家がどのように最適ポートフォリオを組むかを学び、この投資家の反応を織り込んだ上で、各企業がどのように資本コストを推計し、実物投資を行うべきかを論じる。また、不確実性をコントロールする手段としての、先物取引やオプション取引について学習する。企業内部の情報の不完全性にも触れ、望ましい企業組織デザインの方法についても学ぶ。	
	計量経済学	本講義では、経済分野の定量分析に関する基礎的な知識を修得し、計量経済学的思考法を身につける。具体的には、回帰分析の推定、推定値の解釈と検定などを学ぶ。また、講義や課題を通じてExcelを使って講義で学修した内容を実践する。これによりテキストの内容と実際のデータ分析との接続が可能となる。本講義を通じて、社会的な課題を自ら定量的に考え、それを他者に伝えることができる素養を身につけることを目標とする。	
	都市経済学1	本講義では、都市がどのように形成され、また、われわれの生活がその上でどのように成り立っているかについて理解を深めていく。特に都市経済学1では、都市内における家計や企業の立地選択、その結果発生する都市の構造について学ぶ。このため、ミクロ経済学で標準的に修得する家計及び企業の行動の知識が要求される。基本的なミクロ経済学の理論を用いて、都市の問題(特に立地行動に関する経済主体の行動)を理解できるようになることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科等科目	応用科目	経済学分野 都市経済学2	本講義では、都市がどのように形成され、また、われわれの生活がその上でどのように成り立っているかについて理解を深めていく。都市経済学2では、都市の形成や都市における公共財の取り扱い、都市交通や都市環境の問題に対する経済政策の考え方を学んでいく。このため、ミクロ経済学で修得する家計及び企業の行動の知識が要求されるほか、基本的なミクロ経済学あるいは公共経済学的な考え方をを用いて、都市の問題に関する最適性の評価(社会厚生の評価)について理解できるようになることを目標とする。	
	研究実践科目	データサイエンス演習1	本科目は、2年前期に必修で配置する演習科目である。1年次の基幹科目の履修を踏まえ、これまでに身に付けた知識・技能を基に、演習を通じて、各種データの収集・加工・分析の基礎を身に付けることを目的とする。具体的な事例を通じた演習を行うことで、データの収集・加工・分析の一連の過程を理解するとともに、数学や統計学をベースとしたデータサイエンスの理論とその実践との関連に自ら気づきを得ることで、より深い知識の理解と技能の会得を目指す。なお、授業は2人の専任教員が共同で担当し、きめ細やかな指導を行う。	共同
		データサイエンス演習2	本科目は、2年後期に必修で配置する演習科目である。1年次から2年次前期までの基幹科目及びデータサイエンス演習1の履修を踏まえ、これまでに身に付けた知識・技能を基に、演習を通じて、各種データの収集・加工・分析の方法をさらに身に付けることを目的とする。具体的な事例を基に様々なデータの収集・加工・分析の過程を繰り返し行うことで、知識・技能のより深い定着を図る。なお、授業は2人の専任教員が共同で担当し、きめ細やかな指導を行う。	共同
		データサイエンス演習3	(概要) 本科目は、3年前期に必修で配置する演習科目である。1年次及び2年次の基幹科目、応用科目及びデータサイエンス演習1・2の履修を踏まえ、これまでに身に付けた知識・技術を基に、学部等連係課程であることの特徴を活かし、情報学分野、理工学分野、経済学分野を対象にした具体的なデータの収集・加工・分析に取り組み、データサイエンスに関する知識・技術の定着を図るとともに、各分野におけるデータの特性や課題について理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (3 小暮淳・9 屋並仁史・19 山中脩也・20 横野光・13 和田康孝／全5回)(共同) 情報学分野の事象を対象とするデータの収集・加工・分析を実践し、データの特性や課題を理解する。 (3 小暮淳・9 屋並仁史・2 亀卦川幸浩・8 宮脇健太郎・18 柳川亜季／全5回)(共同) 理工学分野の事象を対象とするデータの収集・加工・分析を実践し、データの特性や課題を理解する。 (3 小暮淳・9 屋並仁史・4 坂本智幸・11 横田宏治／全5回)(共同) 経済学分野の事象を対象とするデータの収集・加工・分析を実践し、データの特性や課題を理解する。	オムニバス方式、共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学 科 等 科 目	研 究 実 践 科 目	データサイエンス演習4	<p>(概要) 本科目は、3年後期に必修で配置する演習科目である。1年次から3年前期までの基幹科目、応用科目及びデータサイエンス演習1～3の履修を踏まえ、これまでに身に付けた知識・技術を基に、学部等連係課程であることの特徴を活かし、情報学分野、理工学分野、経済学分野を対象にした具体的なデータ分析と課題解決に取り組み、各分野の特性や課題を理解するとともに、データサイエンスの実践力を高める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 富澤貞男・17 中川智之・6 福田光一・12 横山真男・14 植木一也／全5回)(共同) 情報学分野の具体的な事象を取り上げて、データ分析と課題解決に取り組み、当該分野の特性と課題を理解する。</p> <p>(5 富澤貞男・17 中川智之・7 宮村典秀・10 山崎芳昭・16 櫻井達也／全5回)(共同) 理工学分野の具体的な事象を取り上げて、データ分析と課題解決に取り組み、当該分野の特性と課題を理解する。</p> <p>(5 富澤貞男・17 中川智之・11 横田宏治・15 小林健太郎・1 篠原聡／全5回)(共同) 経済学分野の具体的な事象を取り上げて、データ分析と課題解決に取り組み、当該分野の特性と課題を理解する。</p>	オムニバス方式、 共同
		データサイエンス実践1	<p>本科目は、2年前期(集中)に必修で配置する実習科目である。入門レベルのモデルケースを題材に、用意された資料やデータ等を基にデータサイエンスの基礎を実践し、基本となる知識・技術の定着を図ることを目的とする。グループワークを通じて、与えられた入門レベルのモデルケースの課題とデータの関係を深く理解し、課題解決の方法を導き出すために必要となるデータの収集・加工・分析の一連の過程を実践する。また、検討プロセス及び検討結果をプレゼンテーションし、担当教員から講評を得る機会を設ける。なお、授業は2人の専任教員が共同で担当し、きめ細やかな指導を行う。</p>	共同
		データサイエンス実践2	<p>本科目は、3年前期(集中)に必修で配置する実習科目である。実践的なモデルケースを題材に、用意された資料やデータ等を基にデータサイエンスの高度な手法を実践し、知識・技術の定着を図るとともに、課題解決のための取り組みを通じてデータサイエンスの実践力を高めることを目的とする。課題解決のためのグループワークに取り組み、データ分析とともに、分析結果を基にした課題解決のための提案書を取りまとめる。また、検討プロセス及び検討結果をプレゼンテーションし、担当教員から講評を得ることで、実現に向けた課題を理解する。なお、授業は2人の専任教員が共同で担当し、きめ細やかな指導を行う。</p>	共同
		卒業研究	<p>本科目は、データサイエンス学環における4年間の学びの集大成として、担当教員の指導の下、卒業研究の成果を論文としてまとめる。これまでのデータサイエンスに関する学修を踏まえ、その知識・技術を活用して、自ら設定した研究テーマに基づいて、自主的に調査・研究に取り組む。授業は演習形式とし、定期的に研究成果の報告・発表を行い、グループ討議及び担当教員の指導を通じて、データサイエンスに関する知識・技術の総合化を図りながら卒業論文を完成する。なお、卒業研究の指導にあたっては、学部等連係課程であることの特徴を活かし、主となる指導教員に加え、他分野の教員からも指導が受けられるように複数指導体制を整える。</p>	

明 星 大 学 組 織 の 移 行 表

令和4年度	入学 定員	収容 定員
明星大学		
理工学部		
総合理工学科	280	1,120
人文学部		
国際コミュニケーション学科	100	400
人間社会学科	80	320
日本文化学科	100	400
福祉実践学科	60	240
経済学部		
経済学科	260	1,040
情報学部		
情報学科	140	560
教育学部		
教育学科	350	1,400
経営学部		
経営学科	200	800
デザイン学部		
デザイン学科	120	480
心理学部		
心理学科	120	480
建築学部		
建築学科	120	480
教育学部(通信教育課程)		
教育学科	2,000	8,000
計	3,930	15,720
明星大学大学院		
理工学研究科		
物理学専攻(M)	10	20
物理学専攻(D)	5	15
化学専攻(M)	10	20
化学専攻(D)	5	15
機械工学専攻(M)	10	20
機械工学専攻(D)	5	15
電気工学専攻(M)	10	20
電気工学専攻(D)	5	15
建築・建設工学専攻(M)	5	10
建築・建設工学専攻(D)	3	9
環境システム学専攻(M)	5	10
環境システム学専攻(D)	2	6
人文学研究科		
社会学専攻(M)	10	20
社会学専攻(D)	3	9
国際コミュニケーション専攻(M)	10	20
国際コミュニケーション専攻(D)	3	9
情報学研究科		
情報学専攻(M)	7	14
情報学専攻(D)	3	9
経済学研究科		
応用経済学専攻(M)	10	20
教育学研究科		
教育学専攻(M)	10	20
教育学専攻(D)	3	9
心理学研究科		
心理学専攻(M)	15	30
心理学専攻(D)	3	9
教育学研究科(通信教育課程)		
教育学専攻(M)	30	60
教育学専攻(D)	3	9
計	185	413

令和5年度	入学 定員	収容 定員
明星大学		
理工学部		
総合理工学科	280	1,120
(データサイエンス学環の内数とする定員数)	(10)	(40)
人文学部		
国際コミュニケーション学科	100	400
人間社会学科	80	320
日本文化学科	100	400
福祉実践学科	60	240
経済学部		
経済学科	260	1,040
(データサイエンス学環の内数とする定員数)	(10)	(40)
情報学部		
情報学科	140	560
(データサイエンス学環の内数とする定員数)	(10)	(40)
教育学部		
教育学科	350	1,400
経営学部		
経営学科	200	800
デザイン学部		
デザイン学科	120	480
心理学部		
心理学科	120	480
建築学部		
建築学科	120	480
データサイエンス学環	(30)	(120)
教育学部(通信教育課程)		
教育学科	2,000	8,000
計	3,930	15,720
明星大学大学院		
理工学研究科		
物理学専攻(M)	10	20
物理学専攻(D)	5	15
化学専攻(M)	10	20
化学専攻(D)	5	15
機械工学専攻(M)	10	20
機械工学専攻(D)	5	15
電気工学専攻(M)	10	20
電気工学専攻(D)	5	15
建築・建設工学専攻(M)	5	10
建築・建設工学専攻(D)	3	9
環境システム学専攻(M)	5	10
環境システム学専攻(D)	2	6
人文学研究科		
社会学専攻(M)	10	20
社会学専攻(D)	3	9
国際コミュニケーション専攻(M)	10	20
国際コミュニケーション専攻(D)	3	9
情報学研究科		
情報学専攻(M)	7	14
情報学専攻(D)	3	9
経済学研究科		
応用経済学専攻(M)	10	20
教育学研究科		
教育学専攻(M)	10	20
教育学専攻(D)	3	9
心理学研究科		
心理学専攻(M)	15	30
心理学専攻(D)	3	9
教育学研究科(通信教育課程)		
教育学専攻(M)	30	60
教育学専攻(D)	3	9
計	185	413

学部等連係課程
実施基本組織の設置
(届出)